第４期瑞浪市地域福祉計画策定のための
アンケート調査結果報告書

令和元年５月

瑞　浪　市

目　　次

Ⅰ　調査の概要 1
１　調査の概要 1
（１）調査目的 1
（２）調査対象及び調査方法 1
（３）配布数及び回収結果 1
２　本調査報告書の基本的な事項 1
（１）数値の基本的な取り扱いについて 1
Ⅱ　調査結果 3
１　市民 5
１　回答者の属性 7
（１）性別 7
（２）年齢 7
（３）世帯構成 7
（４）同居している家族 8
（５）居住地区 8
（６）居住年数 8
２　地域とのかかわりについて 9
（１）互いに助け合いの活動ができる地域とはどこまでか 9
（２）近所との関係 11
（３）住んでいる地域は暮らしやすいか 13
（４）今より暮らしやすくするためにはどうしたらいいか 15
（５）自治会への加入状況 17
（６）自治会の活動への参加状況 19
（７）自治会の活動に参加している主な理由 21
（８）自治会に加入、参加するために必要な条件や環境 23
３　地域福祉について 25
（１）地域住民がお互いに支え助け合う関係が必要か 25
（２）高齢者が住む世帯に対して支援や協力できること 27
（３）障がい者が住む世帯に対して支援や協力できること 29
（４）子どもが住む世帯に対して支援や協力できること 31
（５）子育てしやすい地域づくりに大切なこと 33
（６）福祉活動を推進するための市民と行政のあるべき関係 35
（７）福祉のまちづくりのために取り組んでほしいこと 37
４　ボランティア活動について 39
（１）福祉ボランティア活動や助け合い活動の状況 39
（２）現在取り組んでいる活動の内容 41
（３）どのような条件や環境であれば活動したいか 42

（４）福祉ボランティア活動への興味や参加意向 44
（５）ボランティア活動に参加するうえで支障になること 46
（６）ボランティアや近隣住民に手助けしてほしいこと 48
（７）活動の輪を広げるために特に重要なこと 50
５　保健・福祉に関する情報の入手について 52
（１）保健・福祉情報を必要とした時があったか 52
（２）必要とした情報をすぐに入手できたか 54
（３）必要とした情報の入手先 56
（４）今後町の保健・福祉情報をどのように入手したいか 58
６　相談について 60
（１）暮らしの中での悩みや不安 60
（２）暮らしの問題で困ったときの相談相手 62
（３）福祉・保健・年金などに関する窓口の利用 64
（４）市の窓口は利用しやすかったか 66
（５）相談や手続きに行く場合どんな窓口を希望するか 68
７　人権・権利擁護について 70
（１）虐待等を知った場合の通報義務について 70
（２）成年後見制度について 72
（３）日常生活自立支援事業について 74
８　外出の状況について 76
（１）ふだんの外出状況について 76
（２）その状態はどれくらい続いているか 78
（３）現在の状態になったきっかけ 78
（４）現在の状態について誰かに相談したか 80
（５）誰かに相談したいか 80
（６）どのような人・機関なら相談したいか 81
（７）相談したくないと思う理由 82
９　いのちの支え合いについて 82
（１）孤立死について 82
（２）自殺対策基本法について 84
（３）自殺を減少させるために重要だと思うこと 86
（４）地域で安心して暮らすために必要なこと 88
10　瑞浪市社会福祉協議会について 90
（１）社会福祉協議会の認知状況 90
（２）知っている社会福祉協議会の活動 92
（３）社会福祉協議会の利用状況 94
（４）どのようなことで利用したか 96
（５）現在の社会福祉協議会について 98
（６）社会福祉協議会に期待すること 100
11　民生委員・児童委員について 102
（１）民生委員・児童委員について 102

（２）地域の民生委員・児童委員を知っているか 104
（３）民生委員・児童委員にどのような対応をして欲しいか 106
12　災害時における助け合いについて 108
（１）災害時の備えとして重要だと思うこと 108
（２）被災直後に誰を頼りにするか 110
（３）災害等時の障がい者や高齢者への支援体制について 112
（４）災害時要配慮者に対する対策として取り組むこと 114
13　これからの市の福祉環境について 116
（１）瑞浪市をどんな福祉のまちにしたいか 116
（２）瑞浪市の保健・福祉施策として今後重要な取り組み 118
14　自由意見 120
２　中学生 121
１　回答者の属性 123
（１）性別 123
（２）居住地区 123
２　日常生活について 124
（１）近所の人に会ったときにあいさつするか 124
（２）近所の人にあいさつされたり声をかけられたりするか 125
（３）住んでいる地域について 126
３　ボランティアや地域活動について 127
（１）地域の行事に参加しているか 127
（２）ボランティア活動をしたことがあるか 128
（３）経験したボランティアの内容 129
（４）誰と一緒に活動したか 131
（５）今後参加したいボランティア活動 132
（６）ボランティア活動の参加で一番に考えること 134
（７）まわりに障がいや手助けが必要な高齢者はいるか 135
（８）困っている人を見かけた時に手助けをしているか 136
（９）手助けをしていない理由 137
（10）まちなかで心がけていること 138
（11）瑞浪市は大人になっても住み続けたいまちか 140
（12）住み続けたい市にするために整備すべきこと 141
（13）住みよいまちにするためにあるといい活動 143
４　災害時における助け合いについて 145
（１）地域における災害の備えとして重要な事 145
５　自由意見 147

Ⅰ　調査の概要

１　調査の概要

（１）調査目的

本調査は、「第４期瑞浪市地域福祉計画」（2020 年度～2024 年度）策定のため、地域での生活や福祉活動に関する状況を把握し、計画づくりの基礎資料とするために実施した。

（２）調査対象及び調査方法

項目	市民	中学生
調査対象	20 歳以上の市民	市内の中学２年生
配布数	1,000	300
抽出法	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送法	学校での配布・回収
調査時期	平成 31 年２月～３月	平成 31 年２月～３月
調査地域	瑞浪市全域	瑞浪市全域

（３）配布数及び回収結果

項目	市民	中学生
有効配布数	1,000	300
有効回収数	446	287
有効回収率	44.6%	95.7%

２　本調査報告書の基本的な事項

（１）数値の基本的な取り扱いについて

①比率はすべて百分率（%）で表し、小数点以下２位を四捨五入して算出している。従って、合計が 100%を上下する場合もある。

②基数となるべき実数は、“ｎ＝○○○”として掲載し、各比率はｎを 100%として算出している。

③質問の終わりに【複数回答】とある問は、１人の回答者が２つ以上の回答を出しても良い問であり、従って各回答の合計比率は 100%を超える場合がある。

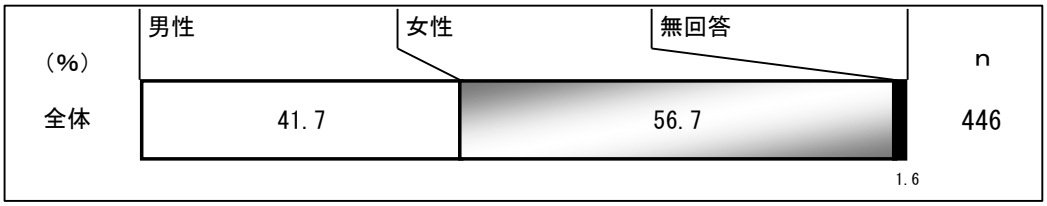
Ⅱ　調査結果

１　市民

１　回答者の属性

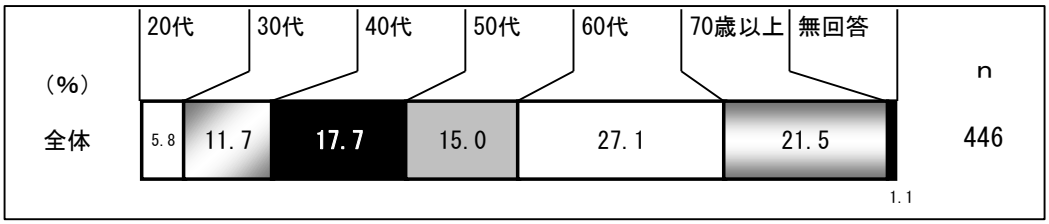
（１）性別

回答者の性別は、「女性」（56.7%）、「男性」（41.7%）となっている。



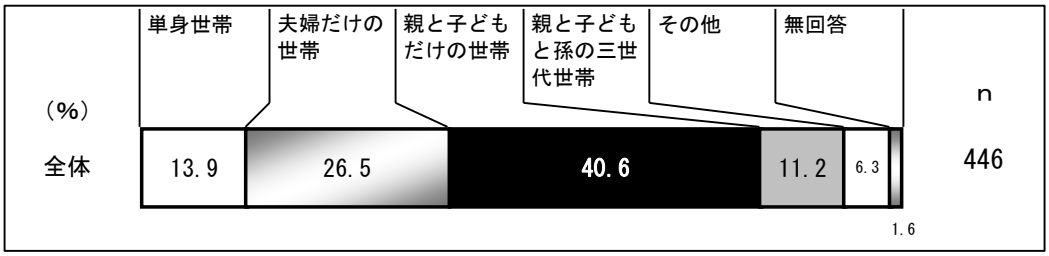
（２）年齢

回答者の年齢は、「60 代」（27.1%）、「70 歳以上」（21.5%）、「40 代」（17.7%）、「50 代」（15.0%）、「30 代」（11.7%）、「20 代」（5.8%）となっている。



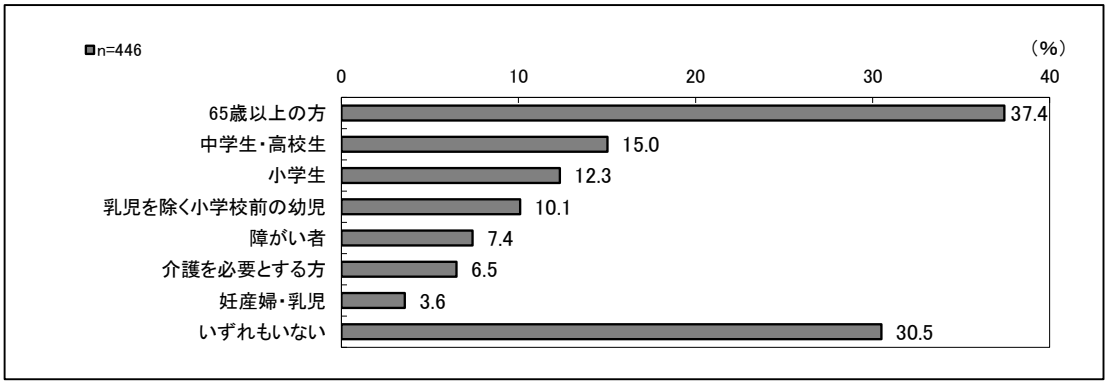
（３）世帯構成

回答者の世帯構成は、「親と子どもだけの世帯」（40.6%）、「夫婦だけの世帯」（26.5%）、「単身世帯」（13.9%）、「親と子どもと孫の三世代世帯」（11.2%）となっている。



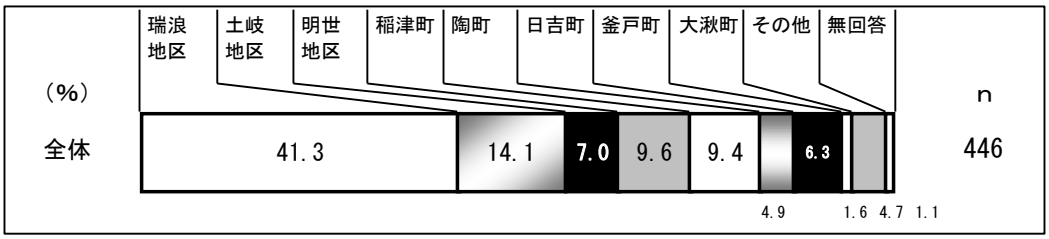
（４）同居している家族

同居している家族は、「65 歳以上の方」（37.4%）、「中学生・高校生」（15.0%）、「小学生」（12.3%）、「乳児を除く小学校前の幼児」（10.1%）、「障がい者」（7.4%）、「介護を必要とする方」（6.5%）、「妊産婦・乳児」（3.6%）となっている。なお、「いずれもいない」は 30.5%となっている。



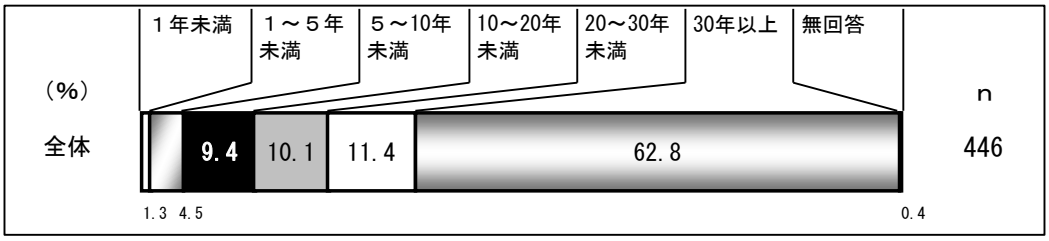
（５）居住地区

回答者の居住地区は、「瑞浪地区」（41.3%）、「土岐地区」（14.1%）、「稲津町」（9.6%）、「陶町」（9.4%）、「明世地区」（7.0%）、「釜戸町」（6.3%）、「日吉町」（4.9%）、「大湫町」（1.6%）となっている。



（６）居住年数

回答者の瑞浪市での居住年数は、「30 年以上」（62.8%）、「20～30 年未満」（11.4%）、「10～20 年未満」（10.1%）、「５～10 年未満」（9.4%）、「１～５年未満」（4.5%）、「１年未満」（1.3%）となっている。



２　地域とのかかわりについて

（１）互いに助け合いの活動ができる地域とはどこまでか

問７　あなたにとって、市民が互いに助け合いの活動ができる「地域」とはどこまでをさすと思われますか。

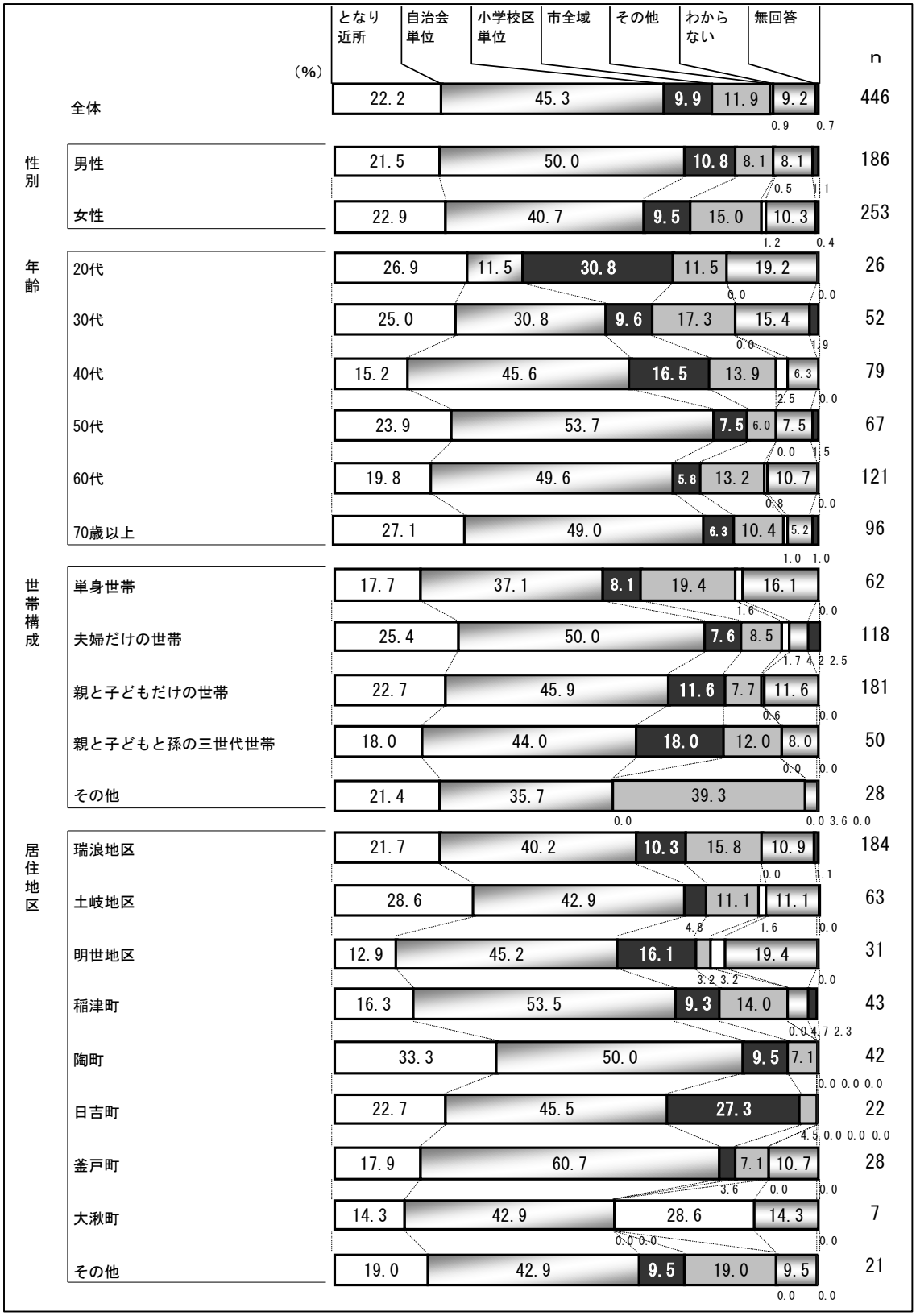
▼

● 「自治会単位」が４割台半ばを占める。

助け合いの活動ができる地域の範囲については、「自治会単位」（45.3％）が最も多く、以下、「となり近所」（22.2％）、「市全域」（11.9％）、「小学校区単位」（9.9％）となっている。

属性別の年齢別でみると、「自治会単位」の率は 40 代以上では４割～５割を占めているのに対し、20 代、30 代では３割以下にとどまるなど、若年層においては互いに助け合いの活動ができると考える地域の範囲は比較的狭いことがうかがえる。

図表　互いに助け合いの活動ができる地域とはどこまでか



（２）近所との関係

問８　あなたのご近所との関係は次のどれに最も近いですか。

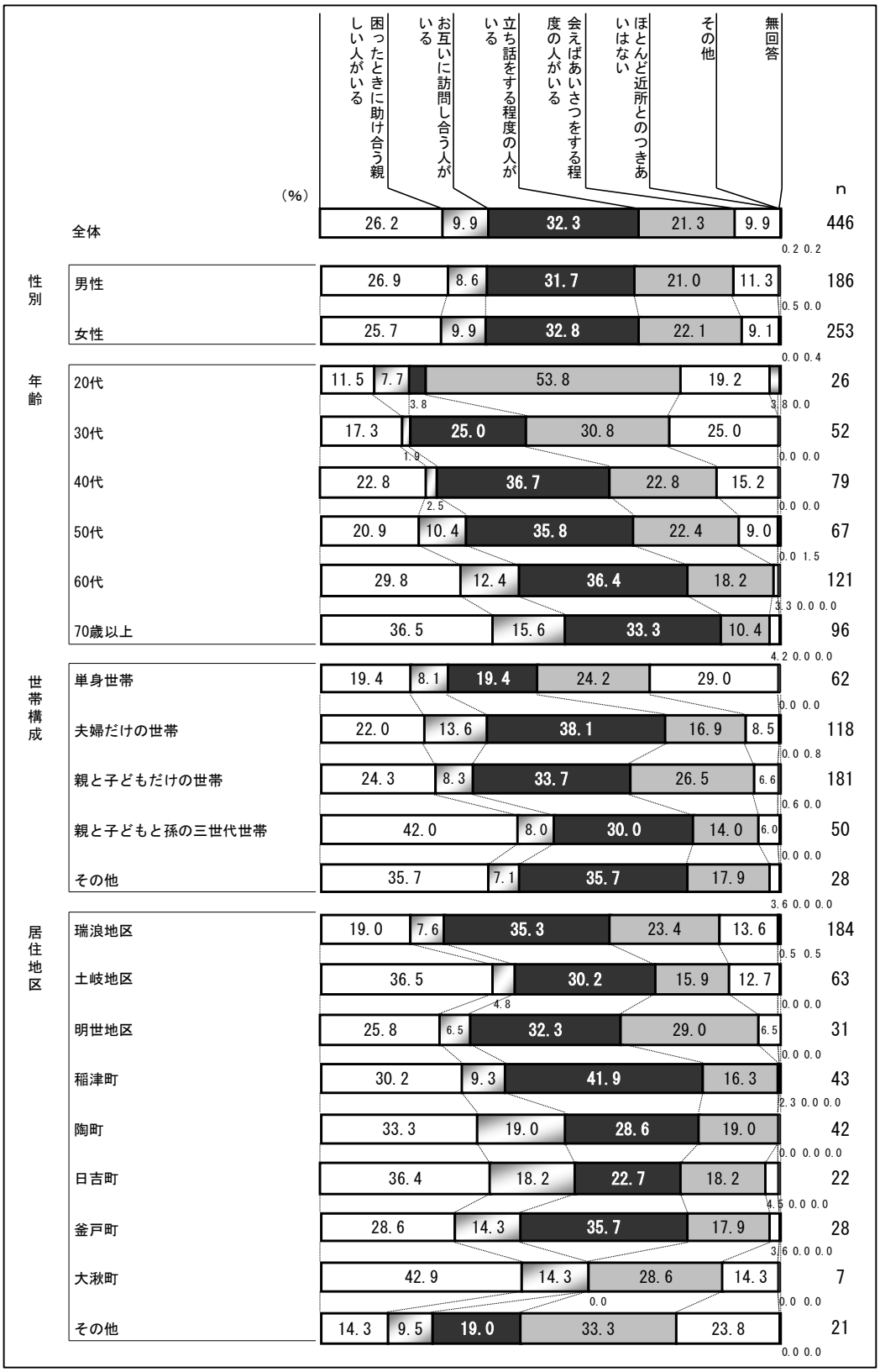
▼

●　「立ち話をする程度の人がいる」が３割強を占める。

近所との関係は、「立ち話をする程度の人がいる」（32.3%）が最も多く、以下、「困ったときに助け合う親しい人がいる」（26.2%）、「会えばあいさつをする程度の人がいる」（21.3%）、「お互いに訪問し合う人がいる」・「ほとんど近所とのつきあいはない」（同率9.9%）となっている。

属性別の年齢別でみると、年齢層の高さに比例して、近所づきあいの緊密度が高くなることがうかがえる。

図表　近所との関係


困ったときに助け合う親しい人がいる
お互いに訪問し合う人がいる
立ち話をする程度の人がいる
会えばあいさつをする程度の人がいる
ほとんど近所とのつきあいはない
その他
無回答
（%）
n
全体 26.2 9.9 32.3 21.3 9.9 0.2 0.2 446
性別
男性 26.9 8.6 31.7 21.0 11.3 0.5 0.0 186
女性 25.7 9.9 32.8 22.1 9.1 0.0 0.4 253
年齢
20代 11.5 7.7 3.8 53.8 19.2 3.8 0.0 26
30代 17.3 1.9 25.0 30.8 25.0 0.0 0.0 52
40代 22.8 2.5 36.7 22.8 15.2 0.0 0.0 79
50代 20.9 10.4 35.8 22.4 9.0 0.0 1.5 67
60代 29.8 12.4 36.4 18.2 3.3 0.0 0.0 121
70歳以上 36.5 15.6 33.3 10.4 4.2 0.0 0.0 96
世帯構成
単身世帯 19.4 8.1 19.4 24.2 29.0 0.0 0.0 62
夫婦だけの世帯 22.0 13.6 38.1 16.9 8.5 0.0 0.8 118
親と子どもだけの世帯 24.3 8.3 33.7 26.5 6.6 0.6 0.0 181
親と子どもと孫の三世代世帯 42.0 8.0 30.0 14.0 6.0 0.0 0.0 50
その他 35.7 7.1 35.7 17.9 3.6 0.0 0.0 28
居住地区
瑞浪地区 19.0 7.6 35.3 23.4 13.6 0.5 0.5 184
土岐地区 36.5 4.8 30.2 15.9 12.7 0.0 0.0 63
明世地区 25.8 6.5 32.3 29.0 6.5 0.0 0.0 31
稲津町 30.2 9.3 41.9 16.3 2.3 0.0 0.0 43
陶町 33.3 19.0 28.6 19.0 0.0 0.0 0.0 42
日吉町 36.4 18.2 22.7 18.2 4.5 0.0 0.0 22
釜戸町 28.6 14.3 35.7 17.9 3.6 0.0 0.0 28
大湫町 42.9 14.3 28.6 14.3 0.0 0.0 0.0 7
その他 14.3 9.5 19.0 33.3 23.8 0.0 0.0 21

（３）住んでいる地域は暮らしやすいか

問９　お住まいの地域は暮らしやすいと思いますか。

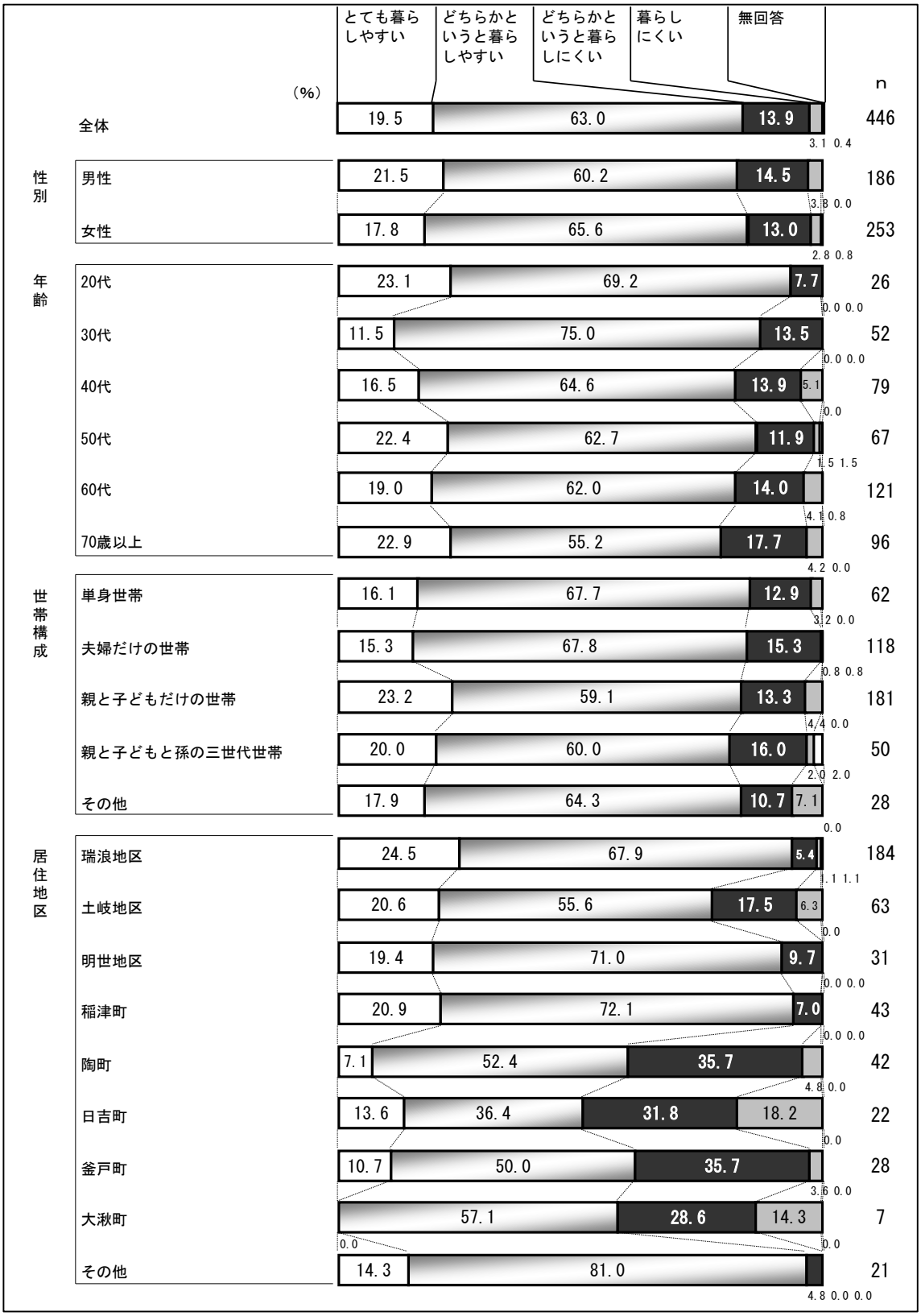
▼

● “暮らしやすい”は８割強を占める。

住んでいる地域は暮らしやすいかどうかたずねたところ、「どちらかというと暮らしやすい」（63.0%）が最も多く、これに「とても暮らしやすい」（19.5%）を合わせた“暮らしやすい”は 82.5%となっている。一方、“暮らしにくい”（「どちらかというと暮らしにくい」（13.9%）と「暮らしにくい」（3.1%）の合計）は 17.0%となっている。

属性別にみると、居住地区別の日吉町では“暮らしやすい”と“暮らしにくい”の率が同率となっている。

図表　住んでいる地域は暮らしやすいか



（４）今より暮らしやすくするためにはどうしたらいいか

問９-1　今より暮らしやすくするためにはどうしたらいいと思うかをお答えください。

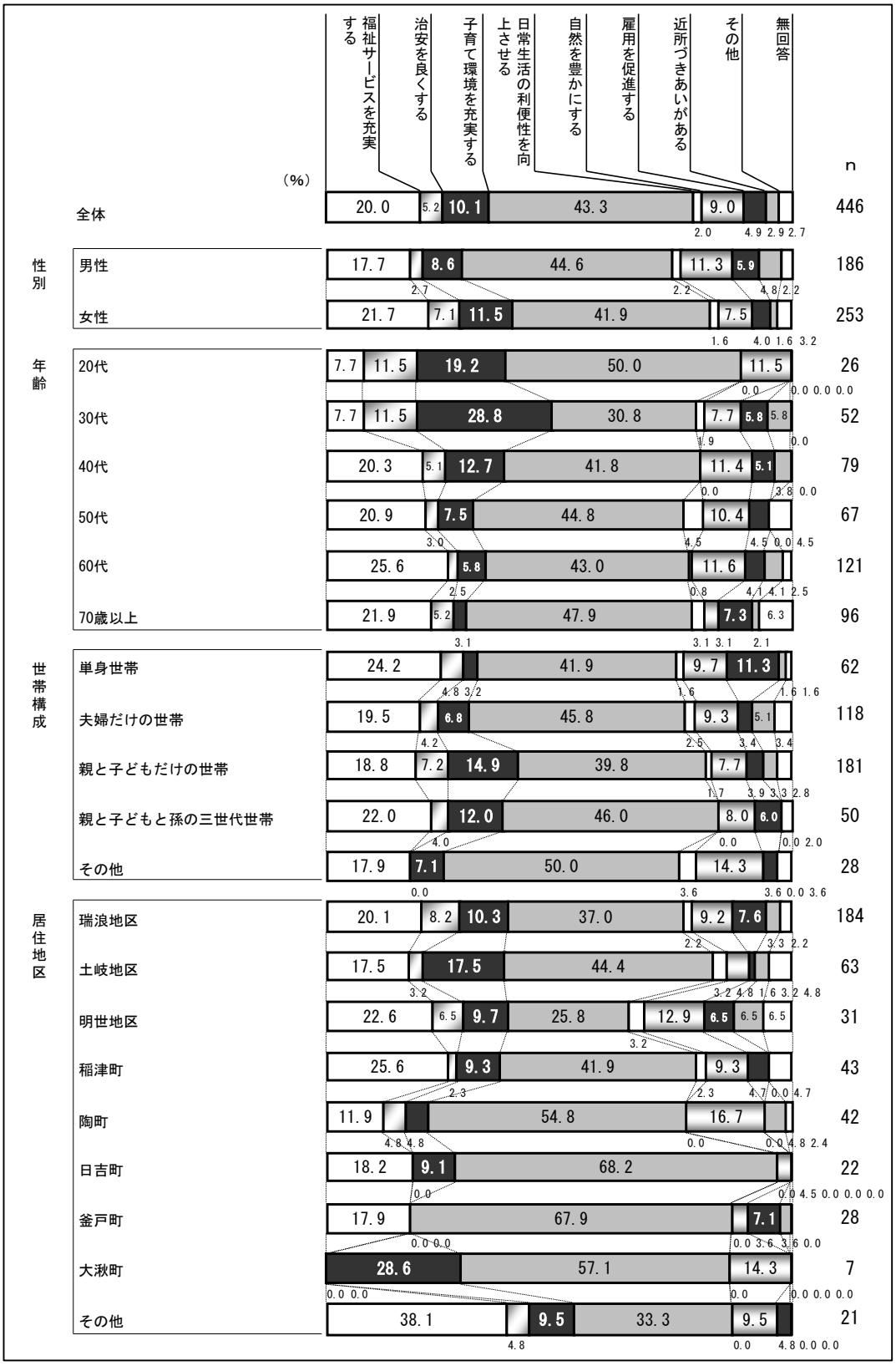
▼

● 「日常生活の利便性を向上させる」が４割強を占める。

瑞浪市を今より暮らしやすくするためにはどうしたらいいか、たずねたところ、「日常生活の利便性を向上させる」（43.3%）が最も多く、以下、「福祉サービスを充実する」（20.0%）、「子育て環境を充実する」（10.1%）、「雇用を促進する」（9.0%）、「治安を良くする」（5.2%）、「近所づきあいがある」（4.9%）、「自然を豊かにする」（2.0%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「日常生活の利便性を向上させる」が最も多くなっているが、年齢別の 20 代、30 代では「治安を良くする」の率も高くなっており、若年層の治安に対する関心が高いことがうかがえる。

図表　今より暮らしやすくするためにはどうしたらいいか



（５）自治会への加入状況

問 10　あなたは、自治会に加入していますか。

▼

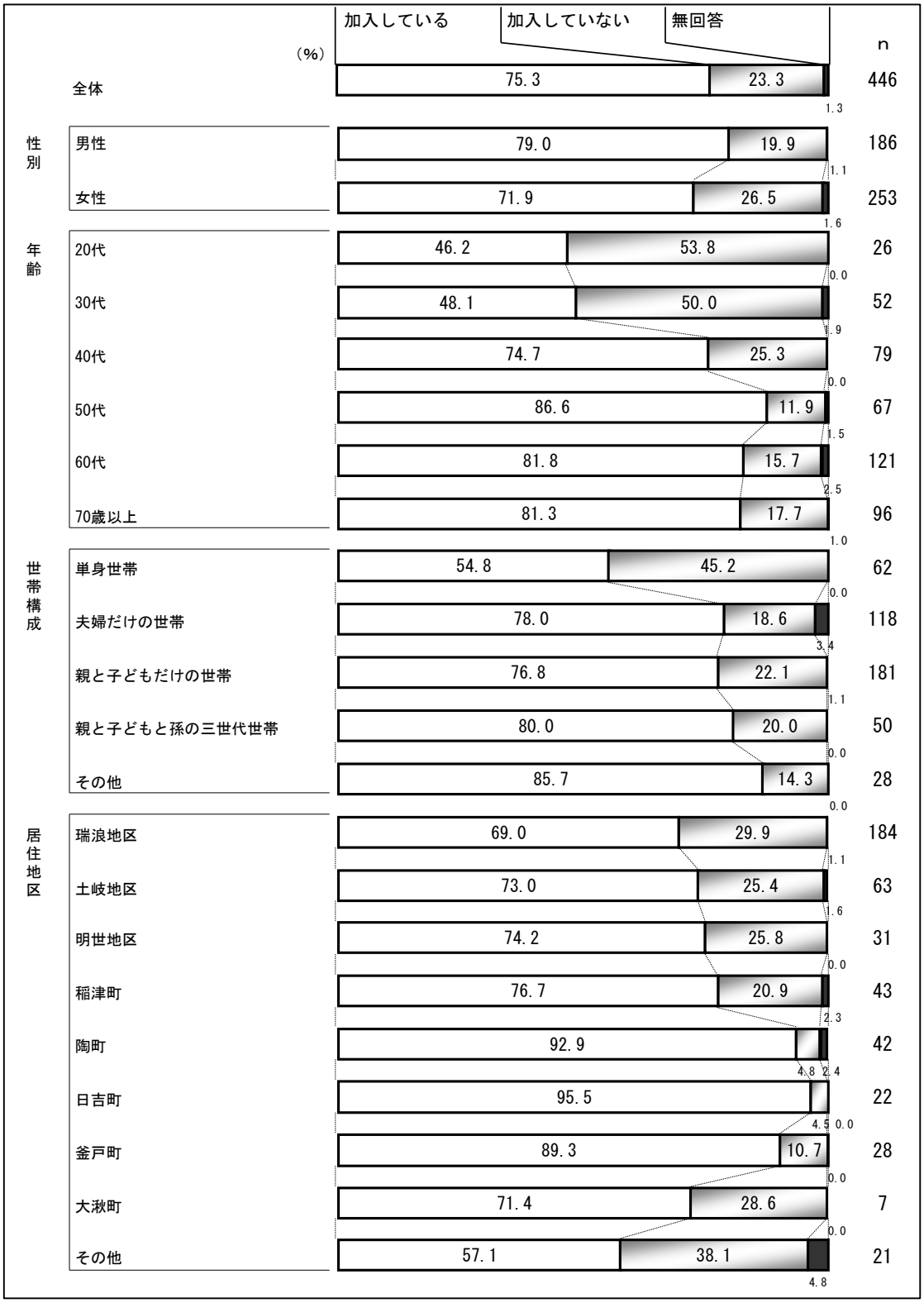
● 「加入している」が７割台半ばを占める。

自治会への加入状況については、「加入している」が 75.3%、一方、「加入していない」が 23.3%となっている。

属性別で「加入している」率を見ると、年齢別の 20 代、30 代で加入率が低く、５割弱にとどまる。

世帯構成別では、単身世帯が他の世帯に比べて低く、５割台半ばにとどまる。

図表　自治会への加入状況



（６）自治会の活動への参加状況

問 10-1　あなたは、自治会の活動にどの程度参加していますか。

▼

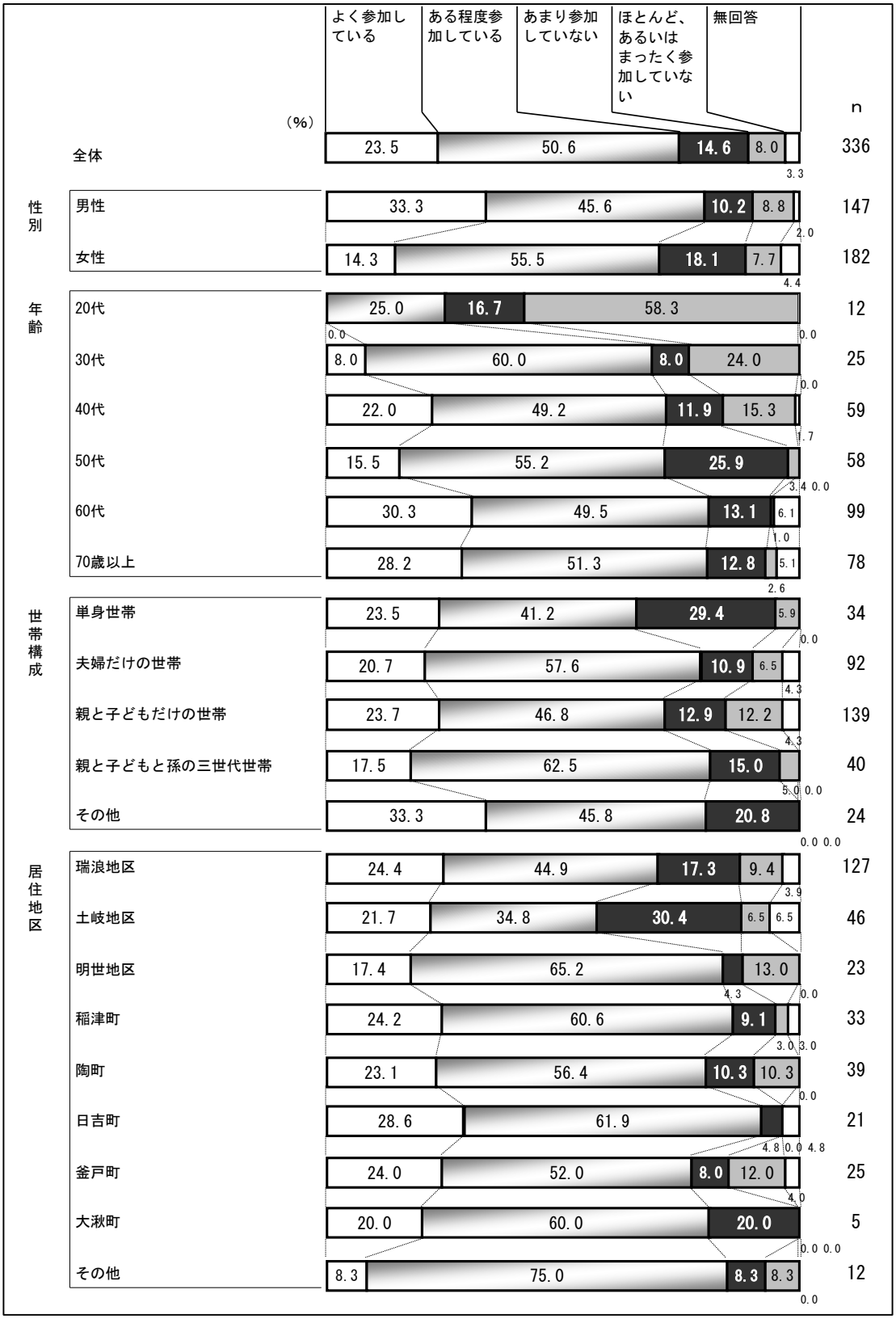
●　“参加している”が７割台半ば、“参加していない”が２割強を占める。

問 10 で「１．加入している」と答えた方（336 名・全体の 75.3%）に、自治会等の活動への参加状況をたずねたところ、「ある程度参加している」（50.6%）が最も多く、これに「よく参加している」（23.5%）を合わせた“参加している”は、74.1%となっている。一方、“参加していない”（「あまり参加していない」（14.6%）と「ほとんど、あるいはまったく参加していない」（8.0%）の合計）は、22.6%となっている。

属性別で“参加している”の率をみると、性別では、男性が女性を大きく上回る。

年齢別では、概ね年齢層の高さに比例して高くなる傾向がみられる。

図表　自治会の活動への参加状況



（７）自治会の活動に参加している主な理由

【問 10-1 で「１．よく参加している」または「２．ある程度参加している」と答えた方のみ】
問 10-２　あなたが自治会の活動に参加している主な理由は何ですか。【複数回答】

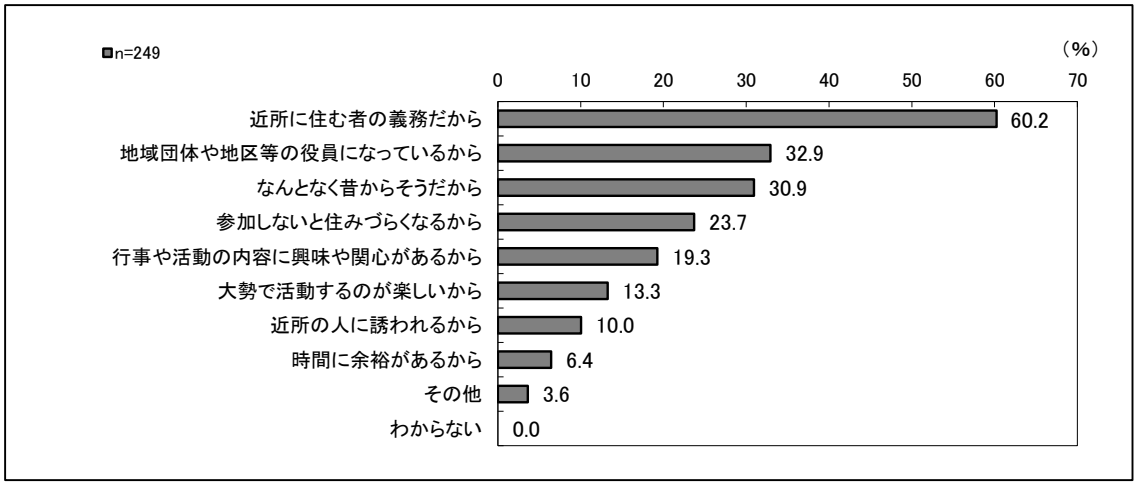
▼

● 「近所に住む者の義務だから」が第１位。

問 10-1 で「１．よく参加している」または「２．ある程度参加している」と答えた方（249 名・74.1%）に、自治会等の活動に参加している主な理由をたずねたところ、「近所に住む者の義務だから」(60.2%) が第１位、次いで、「地域団体や地区等の役員になっているから」(32.9%)、「なんとなく昔からそうだから」(30.9%)、「参加しないと住みづらくなるから」(23.7%)、「行事や活動の内容に興味や関心があるから」(19.3%)、「大勢で活動するのが楽しいから」(13.3%)、「近所の人に誘われるから」(10.0%)、「時間に余裕があるから」(6.4%) となっている。

属性別でみると、年齢別では 30 代以上で「近所に住む者の義務だから」が第１位となっているが、20 代では「なんとなく昔からそうだから」が第１位となっている。

図表　自治会の活動に参加している主な理由（全体／複数回答）



図表　自治会の活動に参加している主な理由（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		近所に住む者の義務だから 60.2	地域団体や地区等の役員になっているから 32.9	なんとなく昔からそうだから 30.9
性別	男性	近所に住む者の義務だから 65.5	地域団体や地区等の役員になっているから 40.5	なんとなく昔からそうだから 27.6
	女性	近所に住む者の義務だから 55.9	なんとなく昔からそうだから 34.6	地域団体や地区等の役員になっているから／参加しないと住みづらくなるから 25.2
年齢	20 代	なんとなく昔からそうだから 100.0	近所に住む者の義務だから／参加しないと住みづらくなるから 33.3	
	30 代	近所に住む者の義務だから 47.1	地域団体や地区等の役員になっているから 35.3	参加しないと住みづらくなるから 29.4
	40 代	近所に住む者の義務だから 69.0	参加しないと住みづらくなるから 33.3	なんとなく昔からそうだから 23.8
	50 代	近所に住む者の義務だから 78.0	参加しないと住みづらくなるから 36.6	なんとなく昔からそうだから 31.7
	60 代	近所に住む者の義務だから 53.2	地域団体や地区等の役員になっているから 50.6	なんとなく昔からそうだから 36.7
	70 歳以上	近所に住む者の義務だから 58.1	行事や活動の内容に興味や関心があるから／地域団体や地区等の役員になっているから／なんとなく昔からそうだから 29.0	
世帯構成	単身世帯	近所に住む者の義務だから 40.9	地域団体や地区等の役員になっているから 31.8	行事や活動の内容に興味や関心があるから 27.3
	夫婦だけの世帯	近所に住む者の義務だから 54.2	なんとなく昔からそうだから 34.7	地域団体や地区等の役員になっているから 33.3
	親と子どもだけの世帯	近所に住む者の義務だから 69.4	地域団体や地区等の役員になっているから／参加しないと住みづらくなるから 31.6	
	親と子どもと孫の三世代世帯	近所に住む者の義務だから 59.4	なんとなく昔からそうだから 53.1	地域団体や地区等の役員になっているから 28.1
	その他	近所に住む者の義務だから 68.4	地域団体や地区等の役員になっているから 42.1	なんとなく昔からそうだから 36.8
居住地区	瑞浪地区	近所に住む者の義務だから 63.6	地域団体や地区等の役員になっているから／参加しないと住みづらくなるから 27.3	
	土岐地区	近所に住む者の義務だから 53.8	地域団体や地区等の役員になっているから 46.2	行事や活動の内容に興味や関心があるから 26.9
	明世地区	地域団体や地区等の役員になっているから／近所に住む者の義務だから 52.6		なんとなく昔からそうだから 36.8
	稲津町	近所に住む者の義務だから 67.9	なんとなく昔からそうだから 39.3	地域団体や地区等の役員になっているから 25.0
	陶町	近所に住む者の義務だから 64.5	地域団体や地区等の役員になっているから 41.9	なんとなく昔からそうだから 38.7
	日吉町	近所に住む者の義務だから 63.2	なんとなく昔からそうだから 47.4	地域団体や地区等の役員になっているから／参加しないと住みづらくなるから 26.3
	釜戸町	地域団体や地区等の役員になっているから 47.4	近所に住む者の義務だから 42.1	なんとなく昔からそうだから 31.6
	大湫町	近所に住む者の義務だから／なんとなく昔からそうだから 75.0		参加しないと住みづらくなるから 50.0
	その他	近所に住む者の義務だから 60.0	参加しないと住みづらくなるから 40.0	なんとなく昔からそうだから 30.0

（８）自治会に加入、参加するために必要な条件や環境

【問 10 で「２.加入していない」、問 10-1 で「３．あまり参加していない」または「４．ほとんど、あるいはまったく参加していない」と答えた方のみ】

問 10-３　あなたが自治会に加入、参加するために必要な条件や環境などはどれですか。【複数回答】

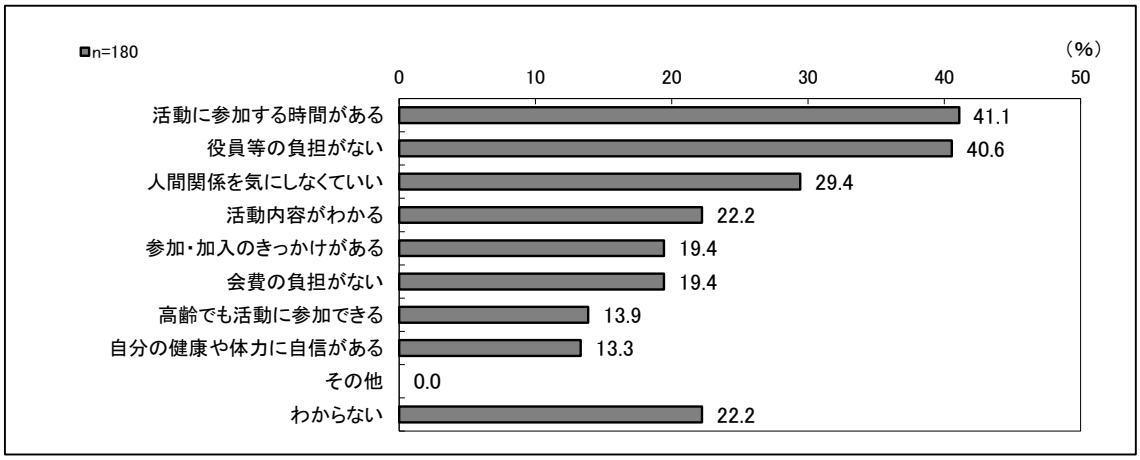
▼

● 「活動に参加する時間がある」及び「役員等の負担がない」が２大要件。

問 10 で「２.加入していない」、問 10-1 で「３．あまり参加していない」または「４．ほとんど、あるいはまったく参加していない」と答えた方（180 名・全体の 40.4%）に、自治会に加入、参加するために必要な条件や環境についてたずねたところ、「活動に参加する時間がある」（41.1%）が第１位、次いで、「役員等の負担がない」（40.6%）、「人間関係を気にしなくていい」（29.4%）、「活動内容がわかる」（22.2%）、「参加・加入のきっかけがある」・「会費の負担がない」（同率 19.4%）、「高齢でも活動に参加できる」（13.9%）、「自分の健康や体力に自信がある」（13.3%）となっている。

属性別でみると、年齢別では 20 代、40 代、50 代は「活動に参加する時間がある」、30 代、60 代では「役員等の負担がない」、70 歳以上では「高齢でも活動に参加できる」が第１位となっており、年齢層によって参加するために必要と思う条件や環境は異なる。

図表　自治会に加入、参加するために必要な条件や環境（全体／複数回答）



図表　自治会に加入、参加するために必要な条件や環境（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		活動に参加する時間がある 41.1	役員等の負担がない 40.6	人間関係を気にしなくていい 29.4
性別	男性	活動に参加する時間がある 41.5	役員等の負担がない 30.8	人間関係を気にしなくていい 29.2
	女性	役員等の負担がない 46.5	活動に参加する時間がある 41.2	人間関係を気にしなくていい 29.8
年齢	20 代	活動に参加する時間がある 56.5	役員等の負担がない 52.2	人間関係を気にしなくていい 47.8
	30 代	役員等の負担がない 52.9	活動に参加する時間がある／活動内容がわかる／人間関係を気にしなくていい 41.2	
	40 代	活動に参加する時間がある 47.2	役員等の負担がない 36.1	活動内容がわかる／参加・加入のきっかけがある／会費の負担がない 22.2
	50 代	活動に参加する時間がある 52.0	役員等の負担がない 44.0	人間関係を気にしなくていい 36.0
	60 代	役員等の負担がない 48.5	活動に参加する時間がある 42.4	自分の健康や体力に自信がある 27.3
	70 歳以上	高齢でも活動に参加できる 24.1	人間関係を気にしなくていい 13.8	活動に参加する時間がある／役員等の負担がない／参加・加入のきっかけがある 10.3
世帯構成	単身世帯	活動に参加する時間がある 40.0	役員等の負担がない 35.0	人間関係を気にしなくていい 30.0
	夫婦だけの世帯	役員等の負担がない 50.0	人間関係を気にしなくていい 31.6	活動に参加する時間がある 26.3
	親と子どもだけの世帯	活動に参加する時間がある 44.0	役員等の負担がない 40.0	人間関係を気にしなくていい 28.0
	親と子どもと孫の三世代世帯	活動に参加する時間がある 61.1	役員等の負担がない／人間関係を気にしなくていい 38.9	
	その他	活動に参加する時間がある 44.4	活動内容がわかる／役員等の負担がない 33.3	
居住地区	瑞浪地区	役員等の負担がない 46.1	活動に参加する時間がある 39.3	人間関係を気にしなくていい 32.6
	土岐地区	活動に参加する時間がある 39.4	役員等の負担がない 30.3	人間関係を気にしなくていい 27.3
	明世地区	役員等の負担がない 41.7	活動に参加する時間がある／会費の負担がない／自分の健康や体力に自信がある 33.3	
	稲津町	活動に参加する時間がある 46.2	活動内容がわかる／役員等の負担がない／人間関係を気にしなくていい 30.8	
	陶町	活動に参加する時間がある／役員等の負担がない 50.0		人間関係を気にしなくていい／参加・加入のきっかけがある／自分の健康や体力に自信がある 30.0
	日吉町	活動に参加する時間がある／活動内容がわかる／役員等の負担がない／会費の負担がない 50.0		
	釜戸町	活動に参加する時間がある／役員等の負担がない 37.5		人間関係を気にしなくていい 25.0
	大湫町	活動に参加する時間がある／活動内容がわかる／役員等の負担がない／人間関係を気にしなくていい／参加・加入のきっかけがある／会費の負担がない 33.3		
	その他	活動に参加する時間がある 60.0	参加・加入のきっかけがある 40.0	役員等の負担がない／人間関係を気にしなくていい／会費の負担がない／高齢でも活動に参加できる 30.0

３　地域福祉について

（１）地域住民がお互いに支え助け合う関係が必要か

問 11　あなたは、地域で生じている様々な福祉分野の生活課題（高齢者・障がい者・生活困窮者、子育て、健康に関する問題など）に対し、地域住民がお互いに支え合い、助け合う関係が必要だと思いますか。

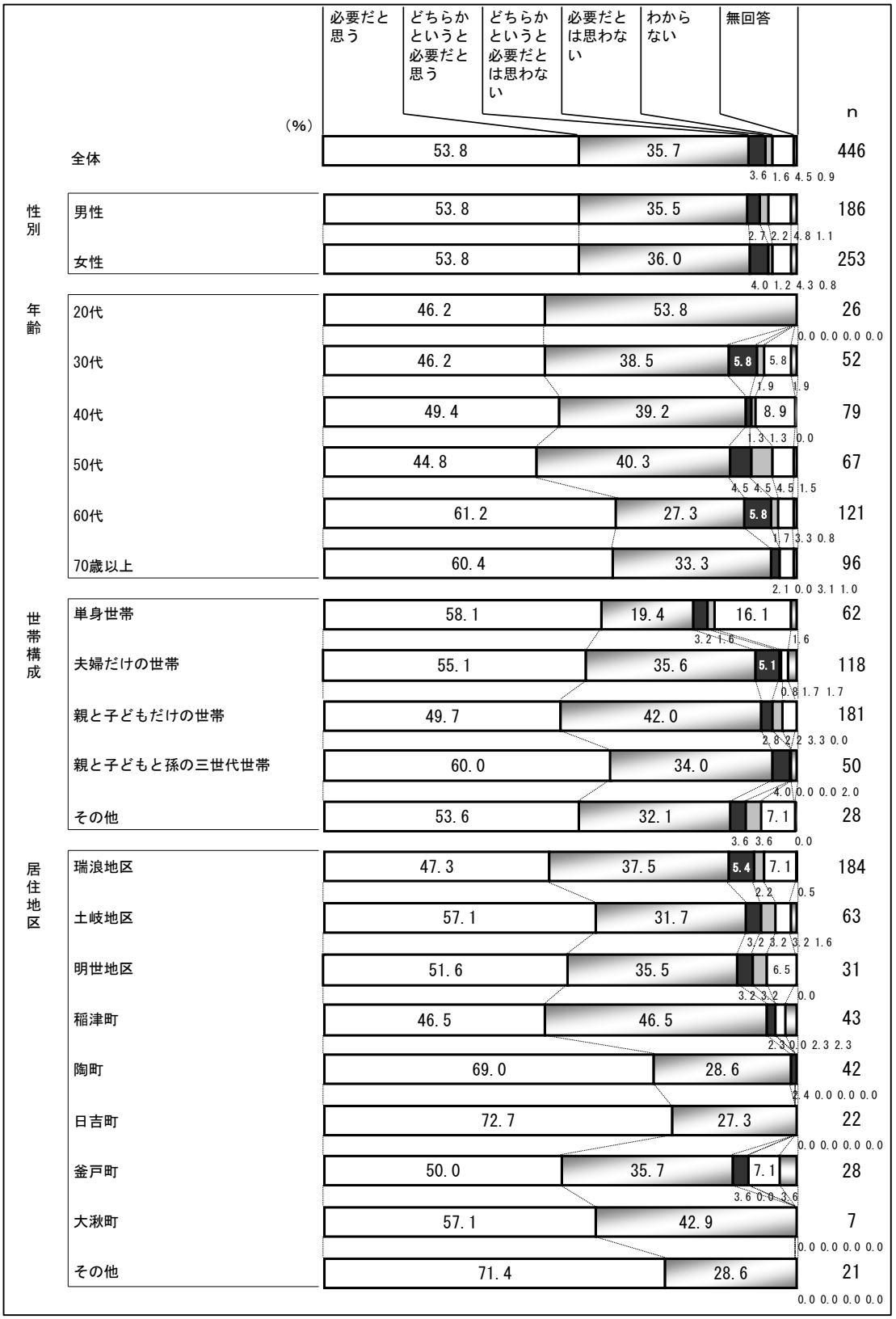
▼

● “必要だと思う”は約９割を占める。

地域住民がお互いに支え助け合う関係が必要かどうかたずねたところ、「必要だと思う」（53.8%）が最も多く、これに「どちらかというと必要だと思う」（35.7%）を合わせた“必要だと思う”が 89.5%となっている。一方、“必要だとは思わない”（「どちらかというと必要だとは思わない」（3.6%）と「必要だとは思わない」（1.6%）の合計）は 5.2%となっている。

属性別で「必要だと思う」の率をみると、年齢別の 60 代、70 歳以上では６割を超えるなど、高齢者ほど地域住民における相互扶助の重要性を認識していることがうかがえる。

図表　地域住民がお互いに支え助け合う関係が必要か



（２）高齢者が住む世帯に対して支援や協力できること

問 12　あなたが、高齢者が住む近所の世帯に対して、支援や協力ができることは何ですか。
【複数回答】

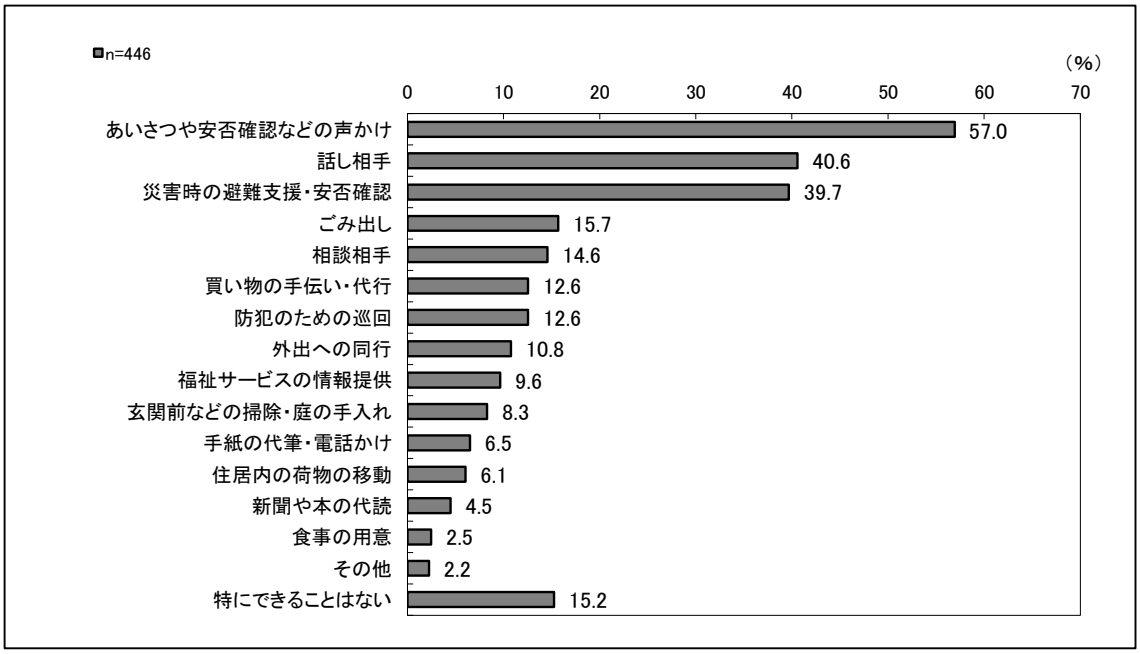
▼

● 「あいさつや安否確認などの声かけ」が他を引き離して第１位。

高齢者が住む近所の世帯に対して支援や協力できることをたずねたところ、「あいさつや安否確認などの声かけ」（57.0%）が第１位、次いで、「話し相手」（40.6%）、「災害時の避難支援・安否確認」（39.7%）、「ごみ出し」（15.7%）、「相談相手」（14.6%）、「買い物の手伝い・代行」・「防犯のための巡回」（同率 12.6%）、「外出への同行」（10.8%）、「福祉サービスの情報提供」（9.6%）、「玄関前などの掃除・庭の手入れ」（8.3%）、「手紙の代筆・電話かけ」（6.5%）、「住居内の荷物の移動」（6.1%）、「新聞や本の代読」（4.5%）、「食事の用意」（2.5%）となっている。なお、「特にできることはない」は 15.2%となっている。

属性別でみると、ほとんどの層で「あいさつや安否確認などの声かけ」が第１位となっている。（居住地区別の陶町では「話し相手」が第１位）

図表　高齢者が住む世帯に対して支援や協力できること（全体／複数回答）



図表　高齢者が住む世帯に対して支援や協力できること（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		あいさつや安否確認などの声かけ 57.0	話し相手 40.6	災害時の避難支援・安否確認 39.7
性別	男性	あいさつや安否確認などの声かけ 55.9	災害時の避難支援・安否確認 45.2	話し相手 35.5
	女性	あいさつや安否確認などの声かけ 58.9	話し相手 43.9	災害時の避難支援・安否確認 36.0
年齢	20代	あいさつや安否確認などの声かけ 57.7	災害時の避難支援・安否確認 50.0	話し相手 38.5
	30代	あいさつや安否確認などの声かけ 67.3	災害時の避難支援・安否確認 38.5	話し相手 26.9
	40代	あいさつや安否確認などの声かけ 58.2	話し相手 44.3	災害時の避難支援・安否確認 36.7
	50代	あいさつや安否確認などの声かけ 67.2	災害時の避難支援・安否確認 53.7	話し相手 32.8
	60代	あいさつや安否確認などの声かけ 51.2	災害時の避難支援・安否確認 42.1	話し相手 41.3
	70歳以上	あいさつや安否確認などの声かけ 52.1	話し相手 47.9	災害時の避難支援・安否確認 28.1
世帯構成	単身世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 48.4	話し相手 37.1	災害時の避難支援・安否確認 32.3
	夫婦だけの世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 56.8	話し相手 39.8	災害時の避難支援・安否確認 34.7
	親と子どもだけの世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 61.3	災害時の避難支援・安否確認 47.0	話し相手 43.1
	親と子どもと孫の三世代世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 54.0	話し相手 40.0	災害時の避難支援・安否確認 34.0
	その他	あいさつや安否確認などの声かけ 57.1	災害時の避難支援・安否確認 39.3	話し相手 28.6
居住地区	瑞浪地区	あいさつや安否確認などの声かけ 57.1	話し相手 42.4	災害時の避難支援・安否確認 39.1
	土岐地区	あいさつや安否確認などの声かけ 54.0	災害時の避難支援・安否確認 44.4	話し相手 34.9
	明世地区	あいさつや安否確認などの声かけ 61.3	話し相手 48.4	災害時の避難支援・安否確認 38.7
	稲津町	あいさつや安否確認などの声かけ 62.8	災害時の避難支援・安否確認 44.2	話し相手 30.2
	陶町	話し相手 57.1	あいさつや安否確認などの声かけ 50.0	災害時の避難支援・安否確認 38.1
	日吉町	あいさつや安否確認などの声かけ 72.7	買い物の手伝い・代行／災害時の避難支援・安否確認 36.4	
	釜戸町	あいさつや安否確認などの声かけ 50.0	災害時の避難支援・安否確認 42.9	話し相手／相談相手 25.0
	大湫町	あいさつや安否確認などの声かけ／災害時の避難支援・安否確認 57.1		話し相手 42.9
	その他	あいさつや安否確認などの声かけ 61.9	話し相手 38.1	買い物の手伝い・代行／玄関前などの掃除・庭の手入れ／災害時の避難支援・安否確認／防犯のための巡回 23.8

（３）障がい者が住む世帯に対して支援や協力できること

問 13　あなたが、障がい者が住む近所の世帯に対して、支援や協力ができることは何ですか。【複数回答】

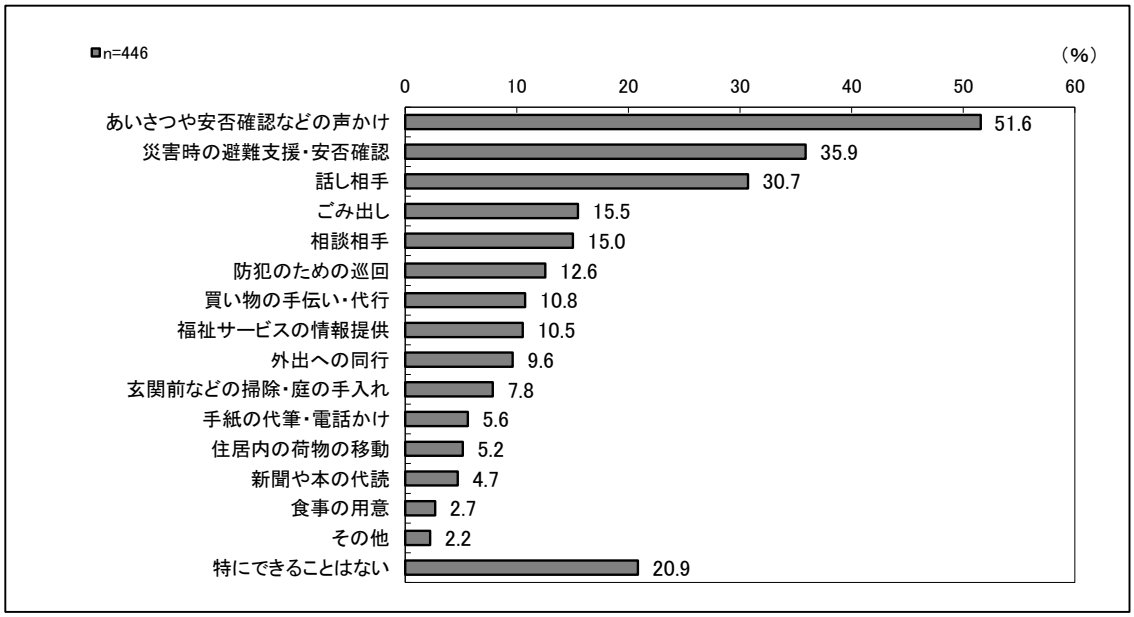
▼

● 「あいさつや安否確認などの声かけ」が他を引き離して第１位。

障がい者が住む近所の世帯に対して支援や協力できることをたずねたところ、「あいさつや安否確認などの声かけ」（51.6%）が第１位、次いで、「災害時の避難支援・安否確認」（35.9%）、「話し相手」（30.7%）、「ごみ出し」（15.5%）、「相談相手」（15.0%）、「防犯のための巡回」（12.6%）、「買い物の手伝い・代行」（10.8%）、「福祉サービスの情報提供」（10.5%）、「外出への同行」（9.6%）、「玄関前などの掃除・庭の手入れ」（7.8%）、「手紙の代筆・電話かけ」（5.6%）、「住居内の荷物の移動」（5.2%）、「新聞や本の代読」（4.7%）、「食事の用意」（2.7%）となっている。なお、「特にできることはない」は 20.9%となっている。

属性別でみると、ほとんどの層で「あいさつや安否確認などの声かけ」が第１位となっている。（年齢別の 20 代と居住地区別の大淑町では「災害時の避難支援・安否確認」が第１位）

図表　障がい者が住む世帯に対して支援や協力できること（全体／複数回答）



図表　障がい者が住む世帯に対して支援や協力できること（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		あいさつや安否確認などの声かけ 51.6	災害時の避難支援・安否確認 35.9	話し相手 30.7
性別	男性	あいさつや安否確認などの声かけ 50.0	災害時の避難支援・安否確認 41.4	話し相手 31.2
	女性	あいさつや安否確認などの声かけ 53.4	災害時の避難支援・安否確認 32.0	話し相手 30.0
年齢	20 代	災害時の避難支援・安否確認 53.8	あいさつや安否確認などの声かけ 50.0	話し相手 26.9
	30 代	あいさつや安否確認などの声かけ 57.7	災害時の避難支援・安否確認 32.7	話し相手 21.2
	40 代	あいさつや安否確認などの声かけ 51.9	災害時の避難支援・安否確認 34.2	話し相手 32.9
	50 代	あいさつや安否確認などの声かけ 61.2	災害時の避難支援・安否確認 50.7	話し相手 25.4
	60 代	あいさつや安否確認などの声かけ 44.6	災害時の避難支援・安否確認 37.2	話し相手 32.2
	70 歳以上	あいさつや安否確認などの声かけ 51.0	話し相手 35.4	災害時の避難支援・安否確認 22.9
世帯構成	単身世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 41.9	話し相手 30.6	災害時の避難支援・安否確認 29.0
	夫婦だけの世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 50.8	話し相手 33.1	災害時の避難支援・安否確認 30.5
	親と子どもだけの世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 54.1	災害時の避難支援・安否確認 42.0	話し相手 33.1
	親と子どもと孫の三世代世帯	あいさつや安否確認などの声かけ 56.0	災害時の避難支援・安否確認 36.0	話し相手 26.0
	その他	あいさつや安否確認などの声かけ 53.6	災害時の避難支援・安否確認 32.1	外出への同行／相談相手 14.3
居住地区	瑞浪地区	あいさつや安否確認などの声かけ 47.3	災害時の避難支援・安否確認 32.6	話し相手 31.0
	土岐地区	あいさつや安否確認などの声かけ 55.6	災害時の避難支援・安否確認 38.1	話し相手 23.8
	明世地区	あいさつや安否確認などの声かけ 54.8	話し相手／災害時の避難支援・安否確認 35.5	
	稲津町	あいさつや安否確認などの声かけ 60.5	災害時の避難支援・安否確認 46.5	話し相手 23.3
	陶町	あいさつや安否確認などの声かけ 52.4	話し相手 45.2	災害時の避難支援・安否確認 35.7
	日吉町	あいさつや安否確認などの声かけ 63.6	災害時の避難支援・安否確認 31.8	外出への同行／話し相手 27.3
	釜戸町	あいさつや安否確認などの声かけ 42.9	災害時の避難支援・安否確認 39.3	話し相手 21.4
	大湫町	災害時の避難支援・安否確認 71.4	話し相手 57.1	あいさつや安否確認などの声かけ 42.9
	その他	あいさつや安否確認などの声かけ 57.1	話し相手／災害時の避難支援・安否確認 28.6	

（４）子どもが住む世帯に対して支援や協力できること

問 14　あなたが、子どもが住む近所の世帯に対して、支援や協力ができることは何ですか。
【複数回答】

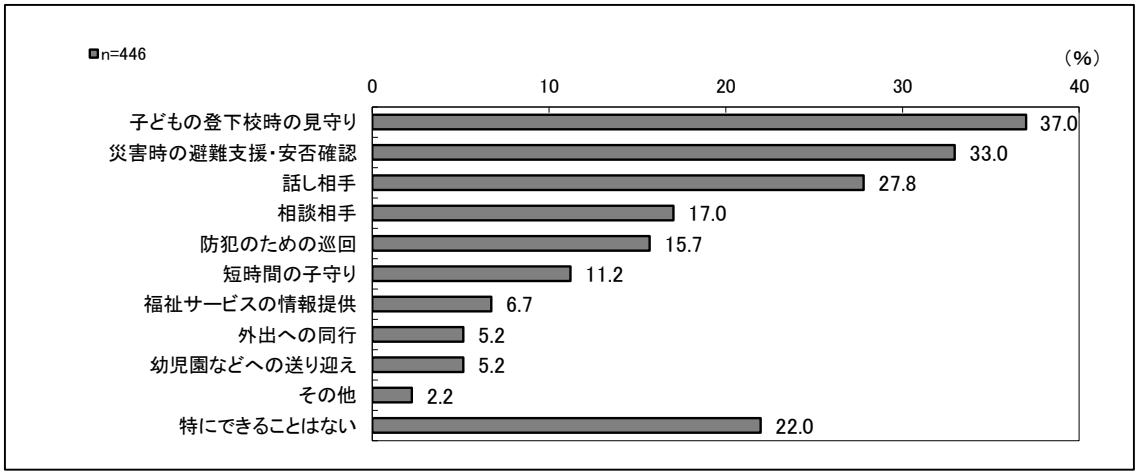
▼

●　「子どもの登下校時の見守り」が第１位、「災害時の避難支援・安否確認」、「話し相手」が続く。

子どもが住む近所の世帯に対して支援や協力できることをたずねたところ、「子どもの登下校時の見守り」(37.0%) が第１位、次いで、「災害時の避難支援・安否確認」(33.0%)、「話し相手」(27.8%)、「相談相手」(17.0%)、「防犯のための巡回」(15.7%)、「短時間の子守り」(11.2%)、「福祉サービスの情報提供」(6.7%)、「外出への同行」・「幼児園などへの送り迎え」(同率 5.2%) となっている。なお、「特にできることはない」は 22.0%となっている。

属性別でみると、各層において、子どもが住む近所の世帯に対して支援や協力できる内容は多様である。

図表　子どもが住む世帯に対して支援や協力できること（全体／複数回答）



図表　子どもが住む世帯に対して支援や協力できること（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		子どもの登下校時の見守り 37.0	災害時の避難支援・安否確認 33.0	話し相手 27.8
性別	男性	災害時の避難支援・安否確認 41.4	子どもの登下校時の見守り 38.2	防犯のための巡回 23.7
	女性	子どもの登下校時の見守り 36.4	話し相手 32.8	災害時の避難支援・安否確認 26.9
年齢	20 代	子どもの登下校時の見守り／災害時の避難支援・安否確認 42.3		話し相手 30.8
	30 代	子どもの登下校時の見守り 44.2	災害時の避難支援・安否確認 38.5	話し相手 32.7
	40 代	災害時の避難支援・安否確認 38.0	話し相手 34.2	子どもの登下校時の見守り 31.6
	50 代	災害時の避難支援・安否確認 44.8	子どもの登下校時の見守り 31.3	話し相手 25.4
	60 代	子どもの登下校時の見守り 37.2	災害時の避難支援・安否確認 28.9	話し相手 24.8
	70 歳以上	子どもの登下校時の見守り 39.6	話し相手 25.0	災害時の避難支援・安否確認 20.8
世帯構成	単身世帯	話し相手／子どもの登下校時の見守り 30.6		災害時の避難支援・安否確認 29.0
	夫婦だけの世帯	子どもの登下校時の見守り 38.1	話し相手 30.5	災害時の避難支援・安否確認 25.4
	親と子どもだけの世帯	災害時の避難支援・安否確認 39.2	子どもの登下校時の見守り 37.6	話し相手 29.8
	親と子どもと孫の三世代世帯	子どもの登下校時の見守り／災害時の避難支援・安否確認 38.0		話し相手 22.0
	その他	子どもの登下校時の見守り 35.7	災害時の避難支援・安否確認 21.4	外出への同行／話し相手／短時間の子守り／防犯のための巡回 7.1
居住地区	瑞浪地区	災害時の避難支援・安否確認 35.3	子どもの登下校時の見守り 34.2	話し相手 28.8
	土岐地区	子どもの登下校時の見守り 38.1	話し相手 34.9	災害時の避難支援・安否確認 31.7
	明世地区	話し相手 38.7	子どもの登下校時の見守り 35.5	災害時の避難支援・安否確認 29.0
	稲津町	災害時の避難支援・安否確認 39.5	子どもの登下校時の見守り 30.2	話し相手／防犯のための巡回 16.3
	陶町	子どもの登下校時の見守り 50.0	災害時の避難支援・安否確認 31.0	話し相手 26.2
	日吉町	子どもの登下校時の見守り 50.0	災害時の避難支援・安否確認 36.4	話し相手／相談相手 27.3
	釜戸町	子どもの登下校時の見守り 42.9	防犯のための巡回 21.4	災害時の避難支援・安否確認 17.9
	大湫町	話し相手 57.1	相談相手 42.9	短時間の子守り 42.9
	その他	子どもの登下校時の見守り 38.1	災害時の避難支援・安否確認／防犯のための巡回 33.3	

（５）子育てしやすい地域づくりに大切なこと

問 15　あなたは、子育てがしやすい地域づくりのためにどんなことが大切だと思いますか。
【複数回答】

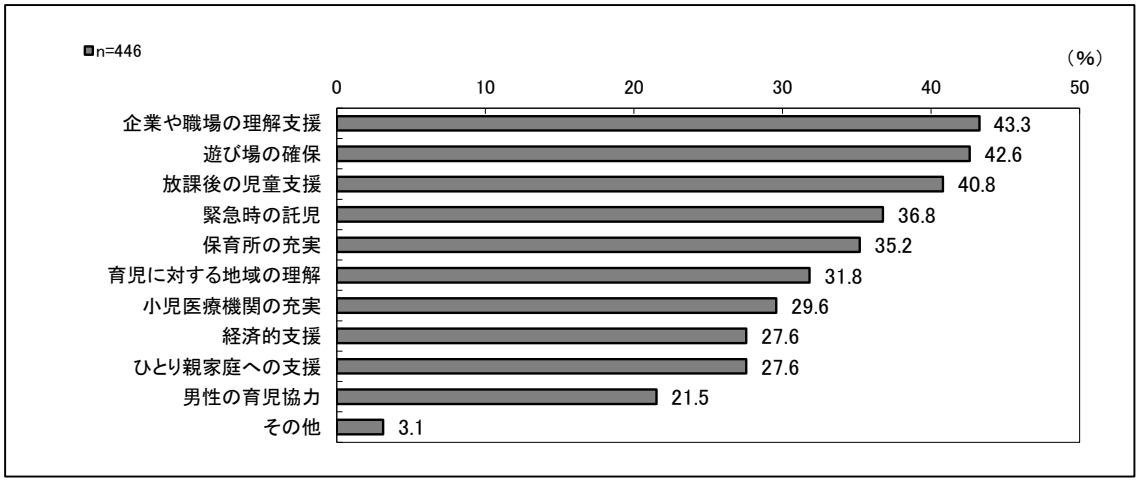
▼

● 「企業や職場の理解支援」が第１位、「遊び場の確保」、「放課後の児童支援」が続く。

子育てしやすい地域づくりのために大切なことについては、「企業や職場の理解支援」（43.3%）が第１位、次いで、「遊び場の確保」（42.6%）、「放課後の児童支援」（40.8%）、「緊急時の託児」(36.8%)、「保育所の充実」(35.2%)、「育児に対する地域の理解」(31.8%)、「小児医療機関の充実」（29.6%）、「経済的支援」（27.6%）、「ひとり親家庭への支援」(27.6%)、「男性の育児協力」(21.5%) となっている。

属性別でみると、各層において、子育てしやすい地域づくりに大切と思う内容は多様である。

図表　子育てしやすい地域づくりに大切なこと（全体／複数回答）



図表　子育てしやすい地域づくりに大切なこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		企業や職場の理解支援 43.3	遊び場の確保 42.6	放課後の児童支援 40.8
性別	男性	遊び場の確保 39.8	保育所の充実／企業や職場の理解支援 37.1	
	女性	企業や職場の理解支援 48.2	遊び場の確保／放課後の児童支援 44.3	
年齢	20 代	遊び場の確保 57.7	企業や職場の理解支援 50.0	経済的支援／放課後の児童支援 46.2
	30 代	遊び場の確保 59.6	経済的支援／企業や職場の理解支援 53.8	
	40 代	企業や職場の理解支援 57.0	遊び場の確保 46.8	緊急時の託児 44.3
	50 代	放課後の児童支援 55.2	企業や職場の理解支援 53.7	緊急時の託児 40.3
	60 代	放課後の児童支援 47.9	遊び場の確保 38.0	保育所の充実 36.4
	70 歳以上	育児に対する地域の理解 36.5	遊び場の確保 35.4	緊急時の託児 29.2
世帯構成	単身世帯	育児に対する地域の理解／企業や職場の理解支援 41.9		遊び場の確保 38.7
	夫婦だけの世帯	放課後の児童支援 41.5	緊急時の託児 39.8	遊び場の確保／企業や職場の理解支援 38.1
	親と子どもだけの世帯	企業や職場の理解支援 48.1	遊び場の確保 45.9	放課後の児童支援 42.5
	親と子どもと孫の三世代世帯	放課後の児童支援 52.0	緊急時の託児 44.0	企業や職場の理解支援 40.0
	その他	遊び場の確保 57.1	企業や職場の理解支援 46.4	緊急時の託児 35.7
居住地区	瑞浪地区	企業や職場の理解支援 48.9	遊び場の確保 44.0	放課後の児童支援／保育所の充実 42.9
	土岐地区	遊び場の確保 42.9	企業や職場の理解支援 41.3	緊急時の託児／放課後の児童支援 38.1
	明世地区	遊び場の確保 41.9	緊急時の託児／保育所の充実 38.7	
	稲津町	遊び場の確保 46.5	企業や職場の理解支援 44.2	放課後の児童支援 37.2
	陶町	放課後の児童支援 50.0	小児医療機関の充実 47.6	企業や職場の理解支援 42.9
	日吉町	遊び場の確保 54.5	企業や職場の理解支援 50.0	放課後の児童支援 45.5
	釜戸町	放課後の児童支援 39.3	遊び場の確保 35.7	緊急時の託児 32.1
	大湫町	遊び場の確保 71.4	緊急時の託児／経済的支援／ひとり親家庭への支援／小児医療機関の充実 42.9	
	その他	保育所の充実／企業や職場の理解支援 47.6		放課後の児童支援 42.9

（６）福祉活動を推進するための市民と行政のあるべき関係

問 16　あなたは、地域での福祉活動を推進していくうえで、市民と行政との関係はどうあるべきだとお考えですか。

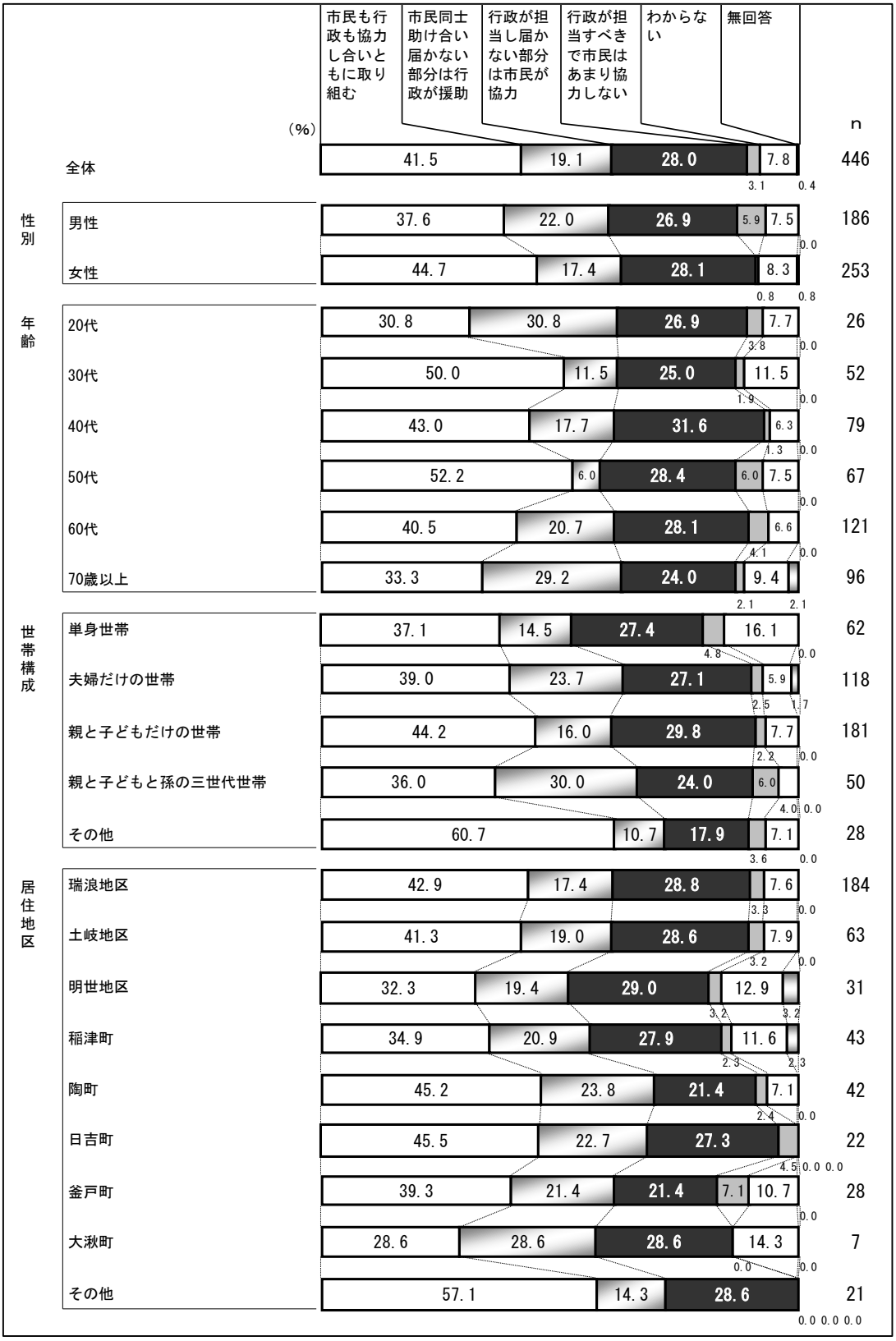
▼

●　「市民も行政も協力し合いともに取り組む」が４割強を占める。

地域での福祉活動を推進していくうえで、市民と行政との関係はどうあるべきかたずねたところ、「市民も行政も協力し合いともに取り組む」（41.5%）が最も多く、以下、「行政が担当し届かない部分は市民が協力」（28.0%）、「市民同士助け合い届かない部分は行政が援助」（19.1%）、「行政が担当すべきで市民はあまり協力しない」（3.1%）となっている。

属性別でみても、すべての層で「市民も行政も協力し合いともに取り組む」が最も多くなっている。

図表　福祉活動を推進するための市民と行政のあるべき関係



（７）福祉のまちづくりのために取り組んでほしいこと

問 17　福祉のまちづくりのために市に取り組んでほしいことは何ですか。【複数回答】

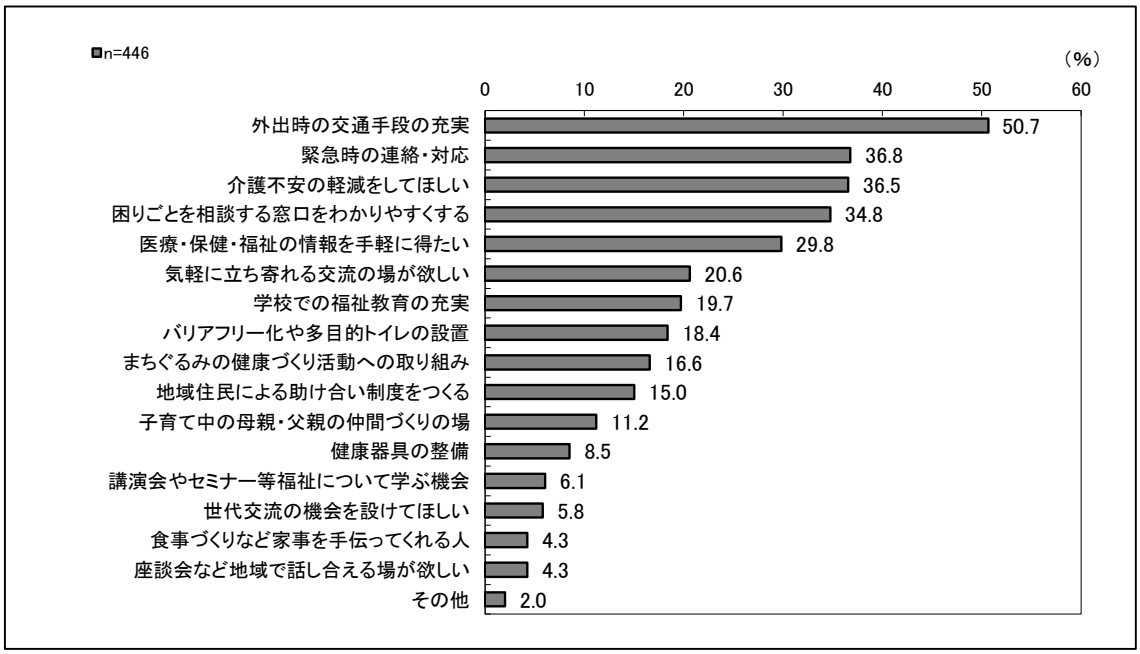
▼

● 「外出時の交通手段の充実」が他を引き離して第１位。

子育てしやすい地域づくりのために大切なことについては、「外出時の交通手段の充実」（50.7%）が第１位、次いで、「緊急時の連絡・対応」（36.8%）、「介護不安の軽減をしてほしい」（36.5%）、「困りごとを相談する窓口をわかりやすくする」（34.8%）、「医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい」（29.8%）、「気軽に立ち寄れる交流の場が欲しい」（20.6%）、「学校での福祉教育の充実」（19.7%）、「バリアフリー化や多目的トイレの設置」（18.4%）、「まちぐるみの健康づくり活動への取り組み」（16.6%）、「地域住民による助け合い制度をつくる」（15.0%）、「子育て中の母親・父親の仲間づくりの場」（11.2%）、「健康器具の整備」（8.5%）、「講演会やセミナー等福祉について学ぶ機会」（6.1%）、「世代交流の機会を設けてほしい」（5.8%）、「食事づくりなど家事を手伝ってくれる人」・「座談会など地域で話し合える場が欲しい」（同率 4.3%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「外出時の交通手段の充実」が第１位となっている。（居住地区別の稲津町では「介護不安の軽減をしてほしい」、その他では「緊急時の連絡・対応」が第１位）

図表　福祉のまちづくりのために取り組んでほしいこと（全体／複数回答）



図表　福祉のまちづくりのために取り組んでほしいこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		外出時の交通手段の充実 50.7	緊急時の連絡・対応 36.8	介護不安の軽減をしてほしい 36.5
性別	男性	外出時の交通手段の充実 49.5	緊急時の連絡・対応 38.7	介護不安の軽減をしてほしい 36.0
	女性	外出時の交通手段の充実 50.2	介護不安の軽減をしてほしい 36.8	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする 36.0
年齢	20代	外出時の交通手段の充実 53.8	緊急時の連絡・対応 34.6	子育て中の母親・父親の仲間づくりの場／バリアフリー化や多目的トイレの設置 26.9
	30代	外出時の交通手段の充実 46.2	緊急時の連絡・対応／困りごとを相談する窓口をわかりやすくする 32.7	
	40代	外出時の交通手段の充実 53.2	介護不安の軽減をしてほしい 43.0	緊急時の連絡・対応 39.2
	50代	外出時の交通手段の充実 44.8	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする 41.8	介護不安の軽減をしてほしい 38.8
	60代	外出時の交通手段の充実 52.1	介護不安の軽減をしてほしい 43.0	緊急時の連絡・対応 40.5
	70歳以上	外出時の交通手段の充実 50.0	緊急時の連絡・対応／介護不安の軽減をしてほしい 35.4	
世帯構成	単身世帯	外出時の交通手段の充実 58.1	緊急時の連絡・対応 40.3	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする／医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい 38.7
	夫婦だけの世帯	外出時の交通手段の充実 50.0	緊急時の連絡・対応 39.8	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする／介護不安の軽減をしてほしい 37.3
	親と子どもだけの世帯	外出時の交通手段の充実 45.9	介護不安の軽減をしてほしい 40.3	緊急時の連絡・対応 35.4
	親と子どもと孫の三世代世帯	外出時の交通手段の充実 52.0	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする／介護不安の軽減をしてほしい 32.0	
	その他	外出時の交通手段の充実 57.1	緊急時の連絡・対応 39.3	介護不安の軽減をしてほしい 35.7
居住地区	瑞浪地区	外出時の交通手段の充実 45.1	緊急時の連絡・対応 40.8	介護不安の軽減をしてほしい 35.9
	土岐地区	外出時の交通手段の充実 52.4	介護不安の軽減をしてほしい 41.3	緊急時の連絡・対応 33.3
	明世地区	外出時の交通手段の充実 51.6	緊急時の連絡・対応／介護不安の軽減をしてほしい／医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい 38.7	
	稲津町	介護不安の軽減をしてほしい 46.5	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする 44.2	外出時の交通手段の充実 34.9
	陶町	外出時の交通手段の充実 64.3	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする／医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい 40.5	
	日吉町	外出時の交通手段の充実 81.8	学校での福祉教育の充実／介護不安の軽減をしてほしい／医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい 40.9	
	釜戸町	外出時の交通手段の充実 57.1	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする 39.3	緊急時の連絡・対応 32.1
	大湫町	外出時の交通手段の充実 85.7	緊急時の連絡・対応 42.9	学校での福祉教育の充実／介護不安の軽減をしてほしい／バリアフリー化や多目的トイレの設置 28.6
	その他	緊急時の連絡・対応 38.1	外出時の交通手段の充実 33.3	困りごとを相談する窓口をわかりやすくする／地域住民による助け合い制度をつくる／医療・保健・福祉の情報を手軽に得たい 28.6

４　ボランティア活動について

（１）福祉ボランティア活動や助け合い活動の状況

問 18　あなたは、福祉ボランティア活動や助け合い活動を行ったことがありますか。

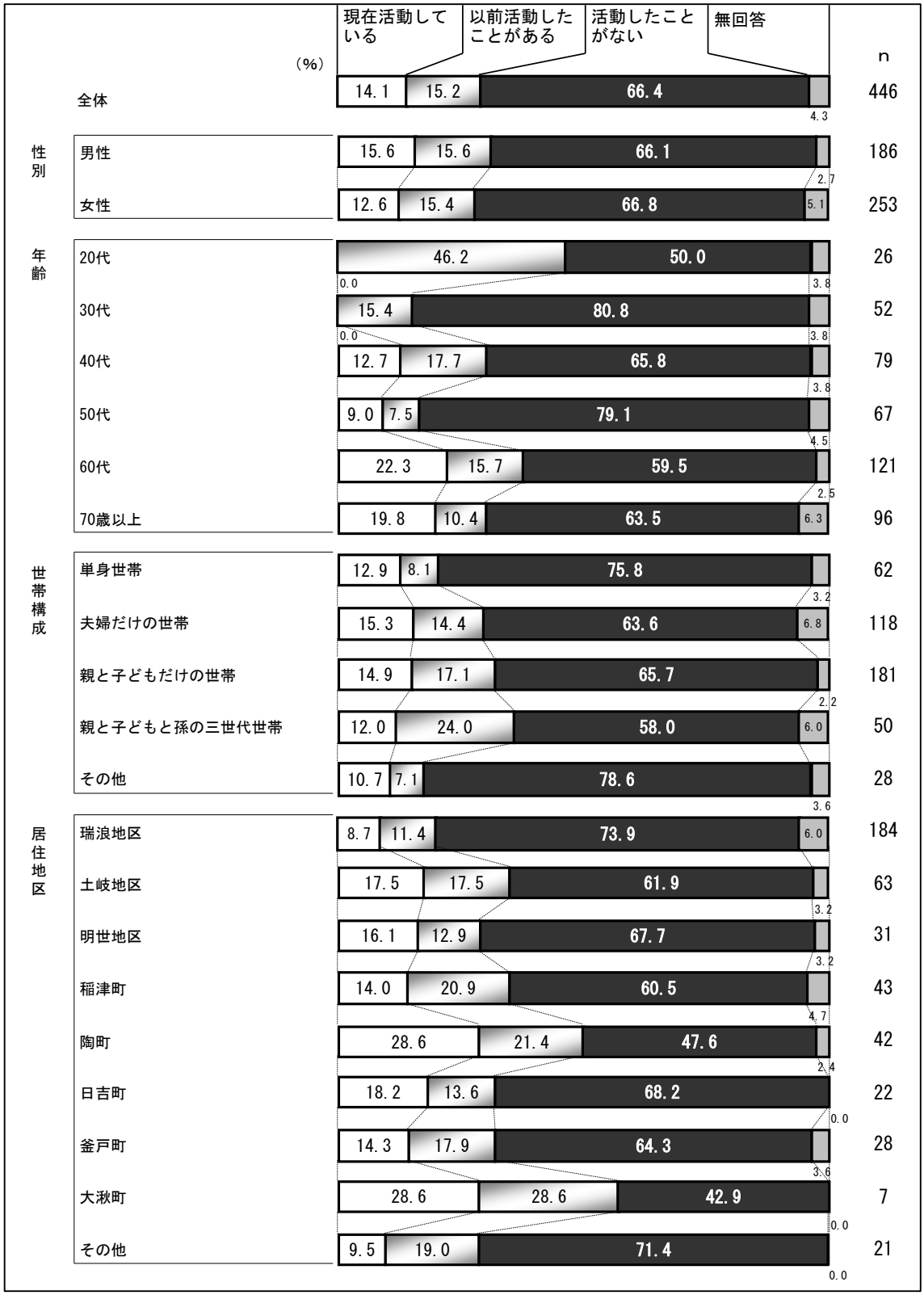
▼

● 「活動したことがない」が７割弱を占める。

福祉ボランティア活動や助け合い活動の参加経験をたずねたところ、「活動したことがない」（66.4%）が最も多く、以下、「以前活動したことがある」（15.2%）、「現在活動している」（14.1%）となっている。

属性別でみると、年齢別の 20 代、居住地区別の陶町、大淵町では他の層に比べ“参加経験”の率が高くなっている。

図表　福祉ボランティア活動や助け合い活動の状況



（２）現在取り組んでいる活動の内容

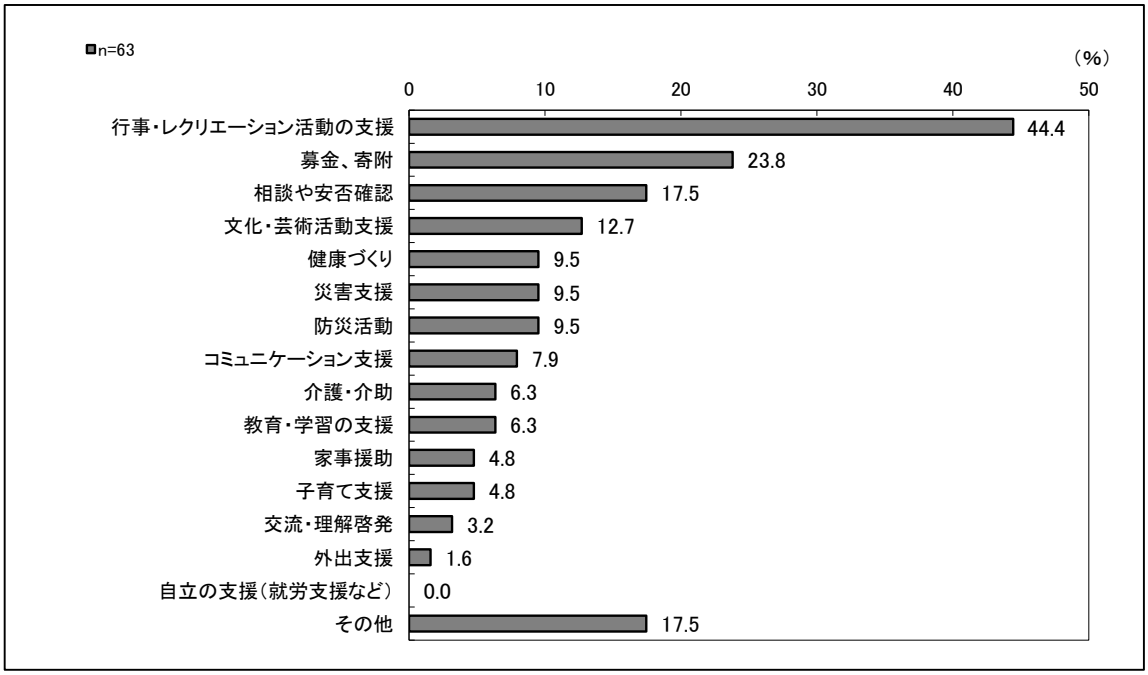
【問 18 で「１．現在活動している」と答えた方のみ】
問 18-1　あなたが現在取り組んでいる福祉ボランティア活動や助け合い活動の具体的な内容は次のどれですか。【複数回答】

▼

● 「行事・レクリエーション活動の支援」が他を引き離して第１位。

問 18 で「１．現在活動している」と答えた方（63 名・全体の 14.1%）に、現在取り組んでいる活動の内容をたずねたところ、「行事・レクリエーション活動の支援」（44.4%）が第 1 位、次いで、「募金、寄附」（23.8%）、「相談や安否確認」（17.5%）、「文化・芸術活動支援」（12.7%）、「健康づくり」・「災害支援」・「防災活動」（同率 9.5%）、「コミュニケーション支援」（7.9%）、「介護・介助」・「教育・学習の支援」（同率 6.3%）、「家事援助」・「子育て支援」（同率 4.8%）、「交流・理解啓発」（3.2%）、「外出支援」（1.6%）となっている。

図表　現在取り組んでいる活動の内容（全体／複数回答）



（３）どのような条件や環境であれば活動したいか

【問 18 で「２．以前活動したことがある」、「３．活動したことがない」と答えた方のみ】
問 18-2　どのような条件や環境であれば、上記のような活動をしたいと思いますか。
【複数回答】

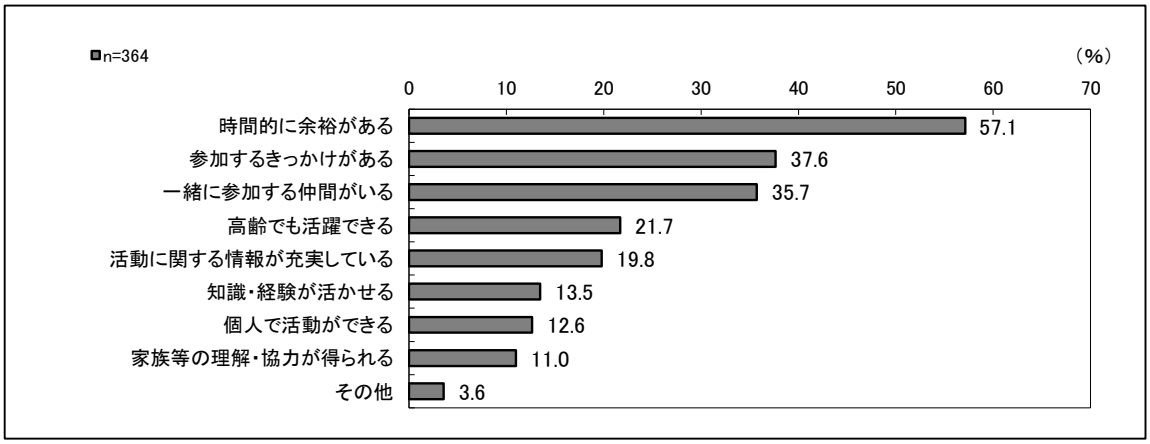
▼

● 「時間的に余裕がある」が他を引き離して第１位。

問 18 で「２．以前活動したことがある」、「３．活動したことがない」と答えた方（364 名・全体の 81.6%）に、どのような条件や環境であれば活動したいと思うか、たずねたところ、「時間的に余裕がある」（57.1%）が第１位、次いで、「参加するきっかけがある」（37.6%）、「一緒に参加する仲間がいる」（35.7%）、「高齢でも活躍できる」（21.7%）、「活動に関する情報が充実している」（19.8%）、「知識・経験が活かせる」（13.5%）、「個人で活動ができる」（12.6%）、「家族等の理解・協力が得られる」（11.0%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「時間的に余裕がある」が第１位となっている。（年齢別の 70 歳以上では「高齢でも活躍できる」、居住地区別の陶町では「一緒に参加する仲間がいる」が第１位）

図表　どのような条件や環境であれば活動したいか（全体／複数回答）



図表　どのような条件や環境であれば活動したいか（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		時間的に余裕がある 57.1	参加するきっかけがある 37.6	一緒に参加する仲間がいる 35.7
性別	男性	時間的に余裕がある 55.9	参加するきっかけがある 33.6	一緒に参加する仲間がいる 30.9
	女性	時間的に余裕がある 58.2	参加するきっかけがある 40.9	一緒に参加する仲間がいる 38.9
年齢	20 代	時間的に余裕がある／参加するきっかけがある 64.0		一緒に参加する仲間がいる 44.0
	30 代	時間的に余裕がある 66.0	参加するきっかけがある 52.0	一緒に参加する仲間がいる 40.0
	40 代	時間的に余裕がある 77.3	参加するきっかけがある 43.9	一緒に参加する仲間がいる 33.3
	50 代	時間的に余裕がある 74.1	一緒に参加する仲間がいる 39.7	参加するきっかけがある 32.8
	60 代	時間的に余裕がある 51.6	一緒に参加する仲間がいる 39.6	高齢でも活躍できる 37.4
	70 歳以上	高齢でも活躍できる 47.9	参加するきっかけがある 25.4	時間的に余裕がある 23.9
世帯構成	単身世帯	時間的に余裕がある 53.8	一緒に参加する仲間がいる／参加するきっかけがある 40.4	
	夫婦だけの世帯	時間的に余裕がある 41.3	一緒に参加する仲間がいる 38.0	参加するきっかけがある 32.6
	親と子どもだけの世帯	時間的に余裕がある 70.0	参加するきっかけがある 41.3	一緒に参加する仲間がいる 37.3
	親と子どもと孫の三世代世帯	時間的に余裕がある 58.5	参加するきっかけがある 41.5	高齢でも活躍できる 34.1
	その他	時間的に余裕がある 50.0	一緒に参加する仲間がいる／参加するきっかけがある 29.2	
居住地区	瑞浪地区	時間的に余裕がある 54.8	参加するきっかけがある 39.5	一緒に参加する仲間がいる 36.9
	土岐地区	時間的に余裕がある 70.0	参加するきっかけがある 44.0	一緒に参加する仲間がいる 28.0
	明世地区	時間的に余裕がある／一緒に参加する仲間がいる 52.0		参加するきっかけがある 28.0
	稲津町	時間的に余裕がある 62.9	参加するきっかけがある 34.3	高齢でも活躍できる 31.4
	陶町	一緒に参加する仲間がいる 48.3	時間的に余裕がある 44.8	参加するきっかけがある 37.9
	日吉町	時間的に余裕がある 61.1	一緒に参加する仲間がいる 38.9	高齢でも活躍できる 33.3
	釜戸町	時間的に余裕がある 52.2	参加するきっかけがある 30.4	高齢でも活躍できる 26.1
	大湫町	時間的に余裕がある 60.0	一緒に参加する仲間がいる／参加するきっかけがある 40.0	
	その他	時間的に余裕がある 63.2	一緒に参加する仲間がいる／参加するきっかけがある 47.4	

（４）福祉ボランティア活動への興味や参加意向

問 19　あなたは、福祉ボランティア活動に興味や参加の意向がありますか。

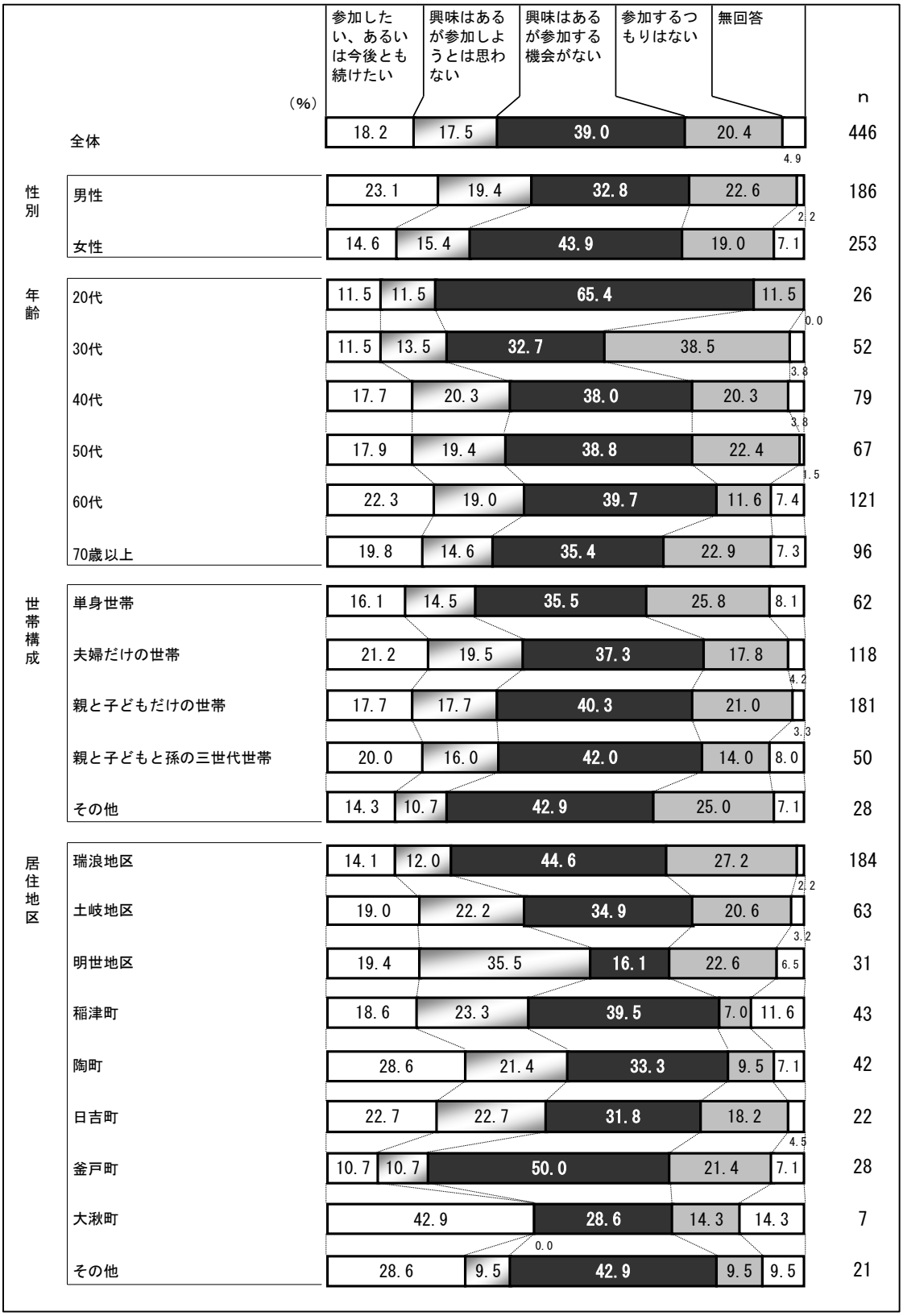
▼

● 「興味はあるが参加する機会がない」が約４割を占める。

福祉ボランティア活動への興味や参加意向をたずねたところ、「興味はあるが参加する機会がない」（39.0%）が最も多く、以下、「参加するつもりはない」（20.4%）、「参加したい、あるいは今後とも続けたい」（18.2%）、「興味はあるが参加しようとは思わない」（17.5%）となっている。

属性別で「興味はあるが参加する機会がない」の率をみると、年齢別の 20 代において高くなっている。

図表　福祉ボランティア活動への興味や参加意向



（５）ボランティア活動に参加するうえで支障になること

問 20　あなたがボランティア活動に参加するうえで、支障になることがありますか。
【複数回答】

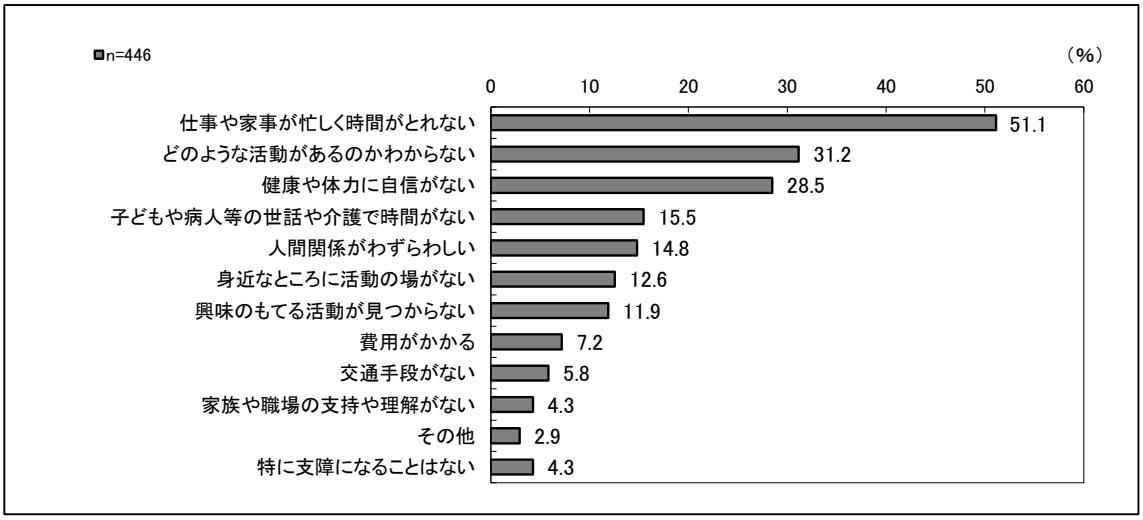
▼

● 「仕事や家事が忙しく時間がとれない」が他を引き離して第１位。

ボランティア活動に参加するうえで支障になることは、「仕事や家事が忙しく時間がとれない」（51.1%）が第１位、次いで、「どのような活動があるのかわからない」（31.2%）が続き、以下、「健康や体力に自信がない」（28.5%）、「子どもや病人等の世話や介護で時間がない」（15.5%）、「人間関係がわずらわしい」（14.8%）、「身近なところに活動の場がない」（12.6%）、「興味のもてる活動が見つからない」（11.9%）、「費用がかかる」（7.2%）、「交通手段がない」（5.8%）、「家族や職場の支持や理解がない」（4.3%）となっている。なお、「特に支障になることはない」は 4.3%となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「仕事や家事が忙しく時間がとれない」が第１位となっている。（年齢別の 70 歳以上では「健康や体力に自信がない」が第１位）

図表　ボランティア活動に参加するうえで支障になること（全体／複数回答）



図表　ボランティア活動に参加するうえで支障になること（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		仕事や家事が忙しく時間がとれない 51.1	どのような活動があるのかわからない 31.2	健康や体力に自信がない 28.5
性別	男性	仕事や家事が忙しく時間がとれない 51.6	健康や体力に自信がない 30.6	どのような活動があるのかわからない 29.0
	女性	仕事や家事が忙しく時間がとれない 50.6	どのような活動があるのかわからない 32.8	健康や体力に自信がない 26.5
年齢	20 代	仕事や家事が忙しく時間がとれない 69.2	どのような活動があるのかわからない 42.3	人間関係がわずらわしい 30.8
	30 代	仕事や家事が忙しく時間がとれない 67.3	どのような活動があるのかわからない 46.2	子どもや病人等の世話や介護で時間がない 36.5
	40 代	仕事や家事が忙しく時間がとれない 79.7	どのような活動があるのかわからない 36.7	子どもや病人等の世話や介護で時間がない 20.3
	50 代	仕事や家事が忙しく時間がとれない 68.7	健康や体力に自信がない／どのような活動があるのかわからない 31.3	
	60 代	仕事や家事が忙しく時間がとれない 38.0	健康や体力に自信がない 32.2	どのような活動があるのかわからない 28.9
	70 歳以上	健康や体力に自信がない 49.0	仕事や家事が忙しく時間がとれない／どのような活動があるのかわからない 18.8	
世帯構成	単身世帯	仕事や家事が忙しく時間がとれない／健康や体力に自信がない 45.2		どのような活動があるのかわからない 40.3
	夫婦だけの世帯	仕事や家事が忙しく時間がとれない 38.1	健康や体力に自信がない 35.6	どのような活動があるのかわからない 28.0
	親と子どもだけの世帯	仕事や家事が忙しく時間がとれない 60.2	どのような活動があるのかわからない 32.0	子どもや病人等の世話や介護で時間がない 24.9
	親と子どもと孫の三世代世帯	仕事や家事が忙しく時間がとれない 60.0	どのような活動があるのかわからない 34.0	健康や体力に自信がない 28.0
	その他	仕事や家事が忙しく時間がとれない 50.0	健康や体力に自信がない 21.4	どのような活動があるのかわからない／身近なところに活動の場がない 17.9
居住地区	瑞浪地区	仕事や家事が忙しく時間がとれない 56.0	どのような活動があるのかわからない 33.7	健康や体力に自信がない 28.3
	土岐地区	仕事や家事が忙しく時間がとれない 50.8	どのような活動があるのかわからない 22.2	興味のもてる活動が見つからない 20.6
	明世地区	仕事や家事が忙しく時間がとれない 51.6	健康や体力に自信がない 38.7	どのような活動があるのかわからない 32.3
	稲津町	仕事や家事が忙しく時間がとれない 46.5	健康や体力に自信がない 34.9	どのような活動があるのかわからない 25.6
	陶町	仕事や家事が忙しく時間がとれない 45.2	どのような活動があるのかわからない 33.3	健康や体力に自信がない 28.6
	日吉町	仕事や家事が忙しく時間がとれない 45.5	健康や体力に自信がない 31.8	子どもや病人等の世話や介護で時間がない／どのような活動があるのかわからない 27.3
	釜戸町	仕事や家事が忙しく時間がとれない／どのような活動があるのかわからない 35.7		健康や体力に自信がない 32.1
	大湫町	仕事や家事が忙しく時間がとれない 42.9	どのような活動があるのかわからない／人間関係がわずらわしい 28.6	
	その他	仕事や家事が忙しく時間がとれない 61.9	どのような活動があるのかわからない 42.9	健康や体力に自信がない 28.6

（６）ボランティアや近隣住民に手助けしてほしいこと

問 21　今後、近所付き合いの中で、ボランティアや近隣住民に「手助けしてほしい」と思うことはありますか。【複数回答】

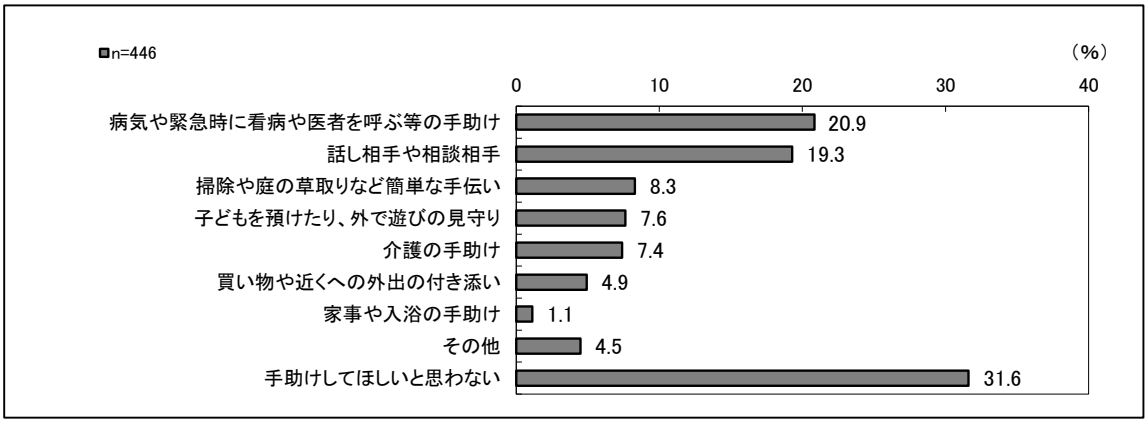
▼

●　「病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け」及び「話し相手や相談相手」が２大要望。

ボランティアや近隣住民に手助けしてほしいことは何かをたずねたところ、具体的には、「病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け」（20.9％）が第１位、次いで、「話し相手や相談相手」（19.3％）、「掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い」（8.3％）、「子どもを預けたり、外で遊びの見守り」（7.6％）、「介護の手助け」（7.4％）、「買い物や近くへの外出の付き添い」（4.9％）、「家事や入浴の手助け」（1.1％）となっている。なお、「手助けしてほしいと思わない」は 31.6％となっている。

属性別でみると、各層において、ボランティア等に手助けしてほしいと思う内容は多様である。

図表　ボランティアや近隣住民に手助けしてほしいこと（全体／複数回答）



図表　ボランティアや近隣住民に手助けしてほしいこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 20.9	話し相手や相談相手 19.3	掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 8.3
性別	男性	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 19.9	話し相手や相談相手 15.6	掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 8.6
	女性	話し相手や相談相手／病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 21.7		子どもを預けたり、外で遊びの見守り 9.1
年齢	20 代	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 15.4	話し相手や相談相手／子どもを預けたり、外で遊びの見守り／掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い／介護の手助け 7.7	
	30 代	子どもを預けたり、外で遊びの見守り 26.9	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 13.5	話し相手や相談相手 9.6
	40 代	子どもを預けたり、外で遊びの見守り 17.7	話し相手や相談相手 15.2	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 13.9
	50 代	話し相手や相談相手 20.9	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 14.9	介護の手助け 13.4
	60 代	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 28.1	話し相手や相談相手 25.6	掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 9.9
	70 歳以上	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 27.1	話し相手や相談相手 20.8	買い物や近くへの外出の付き添い 7.3
世帯構成	単身世帯	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 32.3	話し相手や相談相手 21.0	買い物や近くへの外出の付き添い／掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 8.1
	夫婦だけの世帯	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 26.3	話し相手や相談相手 24.6	掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 10.2
	親と子どもだけの世帯	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 15.5	話し相手や相談相手 13.8	子どもを預けたり、外で遊びの見守り 11.6
	親と子どもと孫の三世代世帯	話し相手や相談相手 26.0	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 18.0	子どもを預けたり、外で遊びの見守り 12.0
	その他	話し相手や相談相手／病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 14.3		掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い／介護の手助け 10.7
居住地区	瑞浪地区	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 23.9	話し相手や相談相手 12.5	掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 9.2
	土岐地区	話し相手や相談相手 20.6	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 15.9	買い物や近くへの外出の付き添い 9.5
	明世地区	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 32.3	話し相手や相談相手 29.0	子どもを預けたり、外で遊びの見守り／介護の手助け 9.7
	稲津町	話し相手や相談相手／病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 18.6		介護の手助け 9.3
	陶町	話し相手や相談相手 35.7	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 14.3	買い物や近くへの外出の付き添い 11.9
	日吉町	話し相手や相談相手 36.4	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 31.8	子どもを預けたり、外で遊びの見守り／掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 18.2
	釜戸町	病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 17.9	話し相手や相談相手 14.3	介護の手助け 10.7
	大湫町	子どもを預けたり、外で遊びの見守り 42.9	掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い 14.3	
	その他	話し相手や相談相手 19.0	掃除や庭の草取りなど簡単な手伝い／病気や緊急時に看病や医者を呼ぶ等の手助け 9.5	

（７）活動の輪を広げるために特に重要なこと

問 22　あなたは、福祉ボランティア活動の輪を広げるために、今後どのようなことが特に重要だと考えますか。【複数回答】

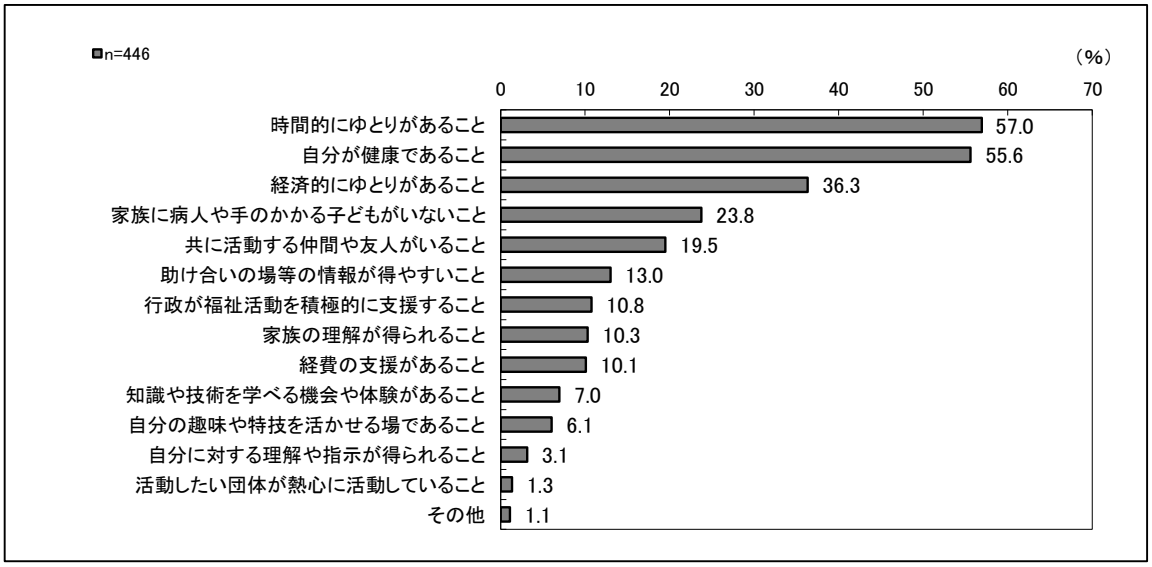
▼

●　「時間的にゆとりがあること」及び「自分が健康であること」が２大要件。

活動の輪を広げるために特に重要なことは、「時間的にゆとりがあること」（57.0%）が第１位、次いで、「自分が健康であること」(55.6%)、「経済的にゆとりがあること」(36.3%)、「家族に病人や手のかかる子どもがいないこと」（23.8%)、「共に活動する仲間や友人がいること」(19.5%)、「助け合いの場等の情報が得やすいこと」(13.0%)、「行政が福祉活動を積極的に支援すること」(10.8%)、「家族の理解が得られること」(10.3%)、「経費の支援があること」(10.1%)、「知識や技術を学べる機会や体験があること」(7.0%)、「自分の趣味や特技を活かせる場であること」(6.1%)、「自分に対する理解や指示が得られること」(3.1%)、「活動したい団体が熱心に活動していること」(1.3%) となっている。

属性別でみると、年齢別では、50 代以上は全体と同様に「時間的にゆとりがあること」及び「自分が健康であること」が２大要件となっているが、40 代以下は「時間的にゆとりがあること」に加え、「経済的にゆとりがあること」が要件となっている。

図表　活動の輪を広げるために特に重要なこと（全体／複数回答）



図表　活動の輪を広げるために特に重要なこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		時間的にゆとりがあること 57.0	自分が健康であること 55.6	経済的にゆとりがあること 36.3
性別	男性	自分が健康であること 59.1	時間的にゆとりがあること 55.9	経済的にゆとりがあること 37.1
	女性	時間的にゆとりがあること 58.1	自分が健康であること 52.2	経済的にゆとりがあること 36.4
年齢	20 代	時間的にゆとりがあること 76.9	経済的にゆとりがあること 42.3	自分が健康であること 38.5
	30 代	時間的にゆとりがあること 65.4	経済的にゆとりがあること 50.0	自分が健康であること 28.8
	40 代	時間的にゆとりがあること 77.2	経済的にゆとりがあること 50.6	自分が健康であること 38.0
	50 代	時間的にゆとりがあること 58.2	自分が健康であること 52.2	経済的にゆとりがあること 44.8
	60 代	自分が健康であること 66.9	時間的にゆとりがあること 48.8	家族に病人や手のかかる子どもがいないこと／共に活動する仲間や友人がいること 26.4
	70 歳以上	自分が健康であること 75.0	時間的にゆとりがあること 40.6	経済的にゆとりがあること 27.1
世帯構成	単身世帯	自分が健康であること 56.5	時間的にゆとりがあること 50.0	経済的にゆとりがあること 33.9
	夫婦だけの世帯	自分が健康であること 62.7	時間的にゆとりがあること 56.8	経済的にゆとりがあること 33.9
	親と子どもだけの世帯	時間的にゆとりがあること 62.4	自分が健康であること 47.0	経済的にゆとりがあること 43.1
	親と子どもと孫の三世代世帯	自分が健康であること 58.0	時間的にゆとりがあること 50.0	家族に病人や手のかかる子どもがいないこと 30.0
	その他	自分が健康であること 67.9	時間的にゆとりがあること 57.1	経済的にゆとりがあること／家族に病人や手のかかる子どもがいないこと 32.1
居住地区	瑞浪地区	時間的にゆとりがあること 59.8	自分が健康であること 53.8	経済的にゆとりがあること 41.8
	土岐地区	自分が健康であること 55.6	時間的にゆとりがあること 52.4	経済的にゆとりがあること 33.3
	明世地区	自分が健康であること 64.5	時間的にゆとりがあること 54.8	家族に病人や手のかかる子どもがいないこと 29.0
	稲津町	時間的にゆとりがあること 65.1	経済的にゆとりがあること／自分が健康であること 46.5	
	陶町	自分が健康であること 59.5	時間的にゆとりがあること 52.4	家族に病人や手のかかる子どもがいないこと／共に活動する仲間や友人がいること 33.3
	日吉町	時間的にゆとりがあること／自分が健康であること 59.1		共に活動する仲間や友人がいること 36.4
	釜戸町	自分が健康であること 60.7	時間的にゆとりがあること 42.9	経済的にゆとりがあること 35.7
	大湫町	時間的にゆとりがあること 71.4	経済的にゆとりがあること 42.9	自分が健康であること／助け合いの場等の情報が得やすいこと 28.6
	その他	時間的にゆとりがあること／自分が健康であること 57.1		経済的にゆとりがあること 38.1

５　保健・福祉に関する情報の入手について

（１）保健・福祉情報を必要とした時があったか

問 23　あなたはこれまで、保健・福祉サービスなどの情報を必要としたことがありましたか。

▼

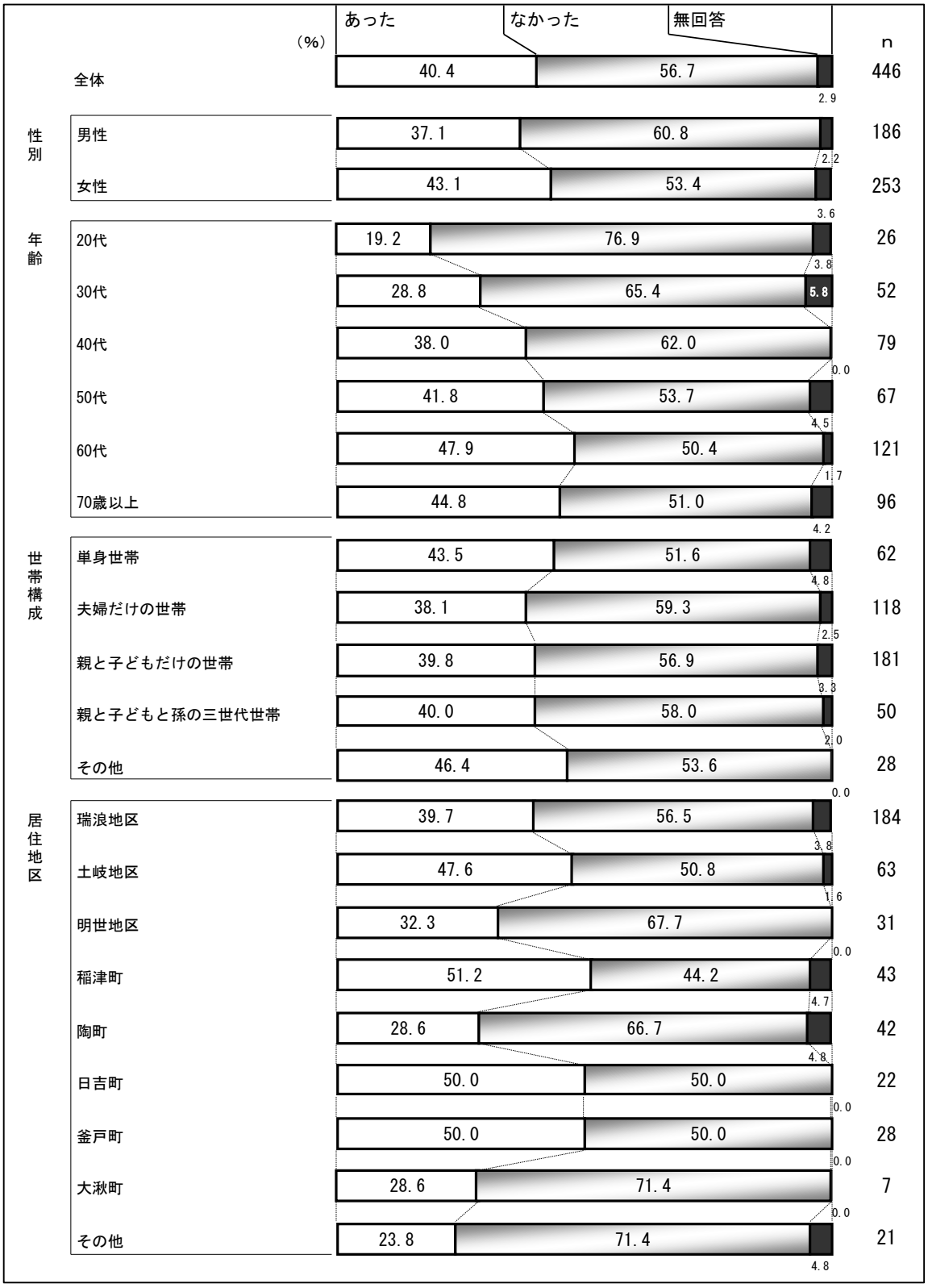
● 「なかった」が６割弱を占める。

町の保健・福祉情報を必要とした時があったかどうかたずねたところ、「なかった」が 56.7%、一方、「あった」が 40.4%となっている。

属性別で「あった」の率をみると、年齢別では概ね年齢層の高さに比例して高い傾向がみられる。

世帯構成別では、子をもつ家庭では４割前後を占めており、子育て世代を中心に町の保健・福祉情報のニーズが高いことがうかがえる。

図表　保健・福祉情報を必要とした時があったか



（２）必要とした情報をすぐに入手できたか

【問 23 で「１．あった」と答えた方のみ】
問 23-1　あなたは、必要とした情報をすぐに入手できましたか。

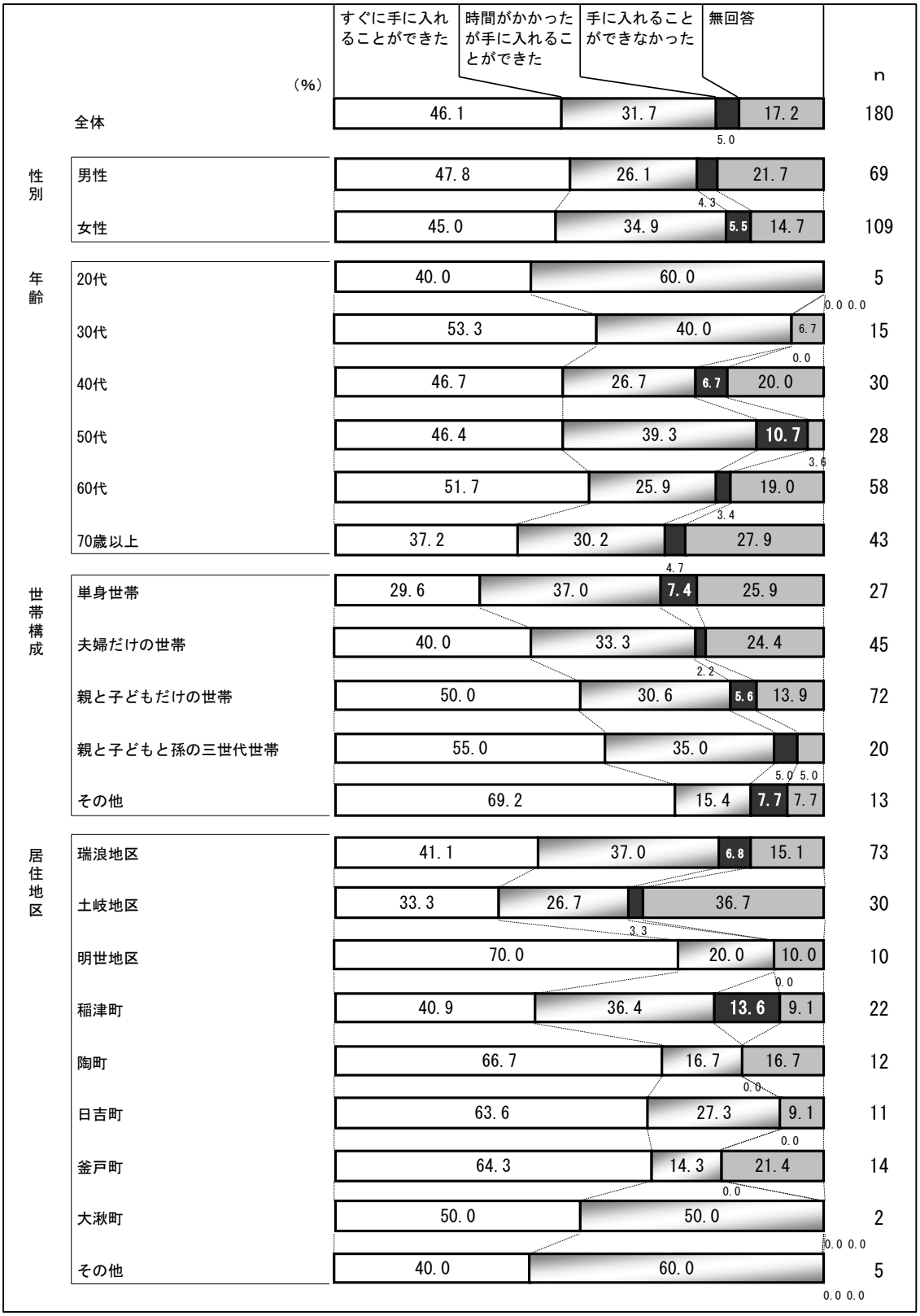
▼

● 「すぐに手に入れることができた」が５割弱を占める。

問 23 で「１．あった」と答えた方（180 名・全体の 40.4%）に、必要とした情報をすぐに入手できたかどうかたずねたところ、「すぐに手に入れることができた」（46.1%）が最も多く、以下、「時間がかかったが手に入れることができた」（31.7%）、「手に入れることができなかった」（5.0%）となっている。

属性別でみると、年齢別の 70 歳以上では「手に入れることができなかった」が３割弱にのぼり、他の年齢層より高くなっている。

図表　必要とした情報をすぐに入手できたか



（３）必要とした情報の入手先

【問 23 で「１．あった」と答えた方のみ】
問 23-2　あなたは、必要とした情報をどこで手に入れましたか（入れようとしましたか）。

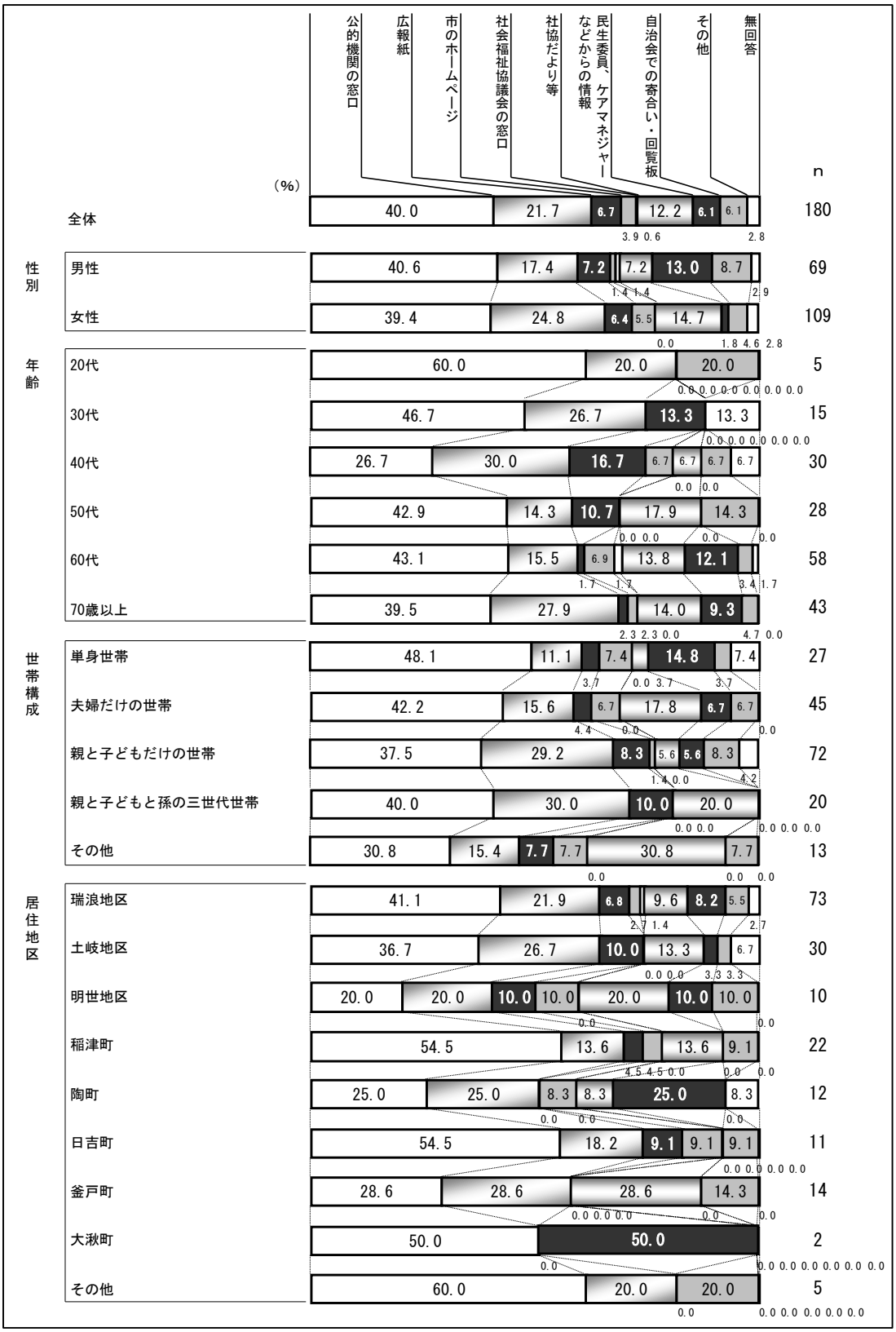
▼

● 「公的機関の窓口」が４割を占める。

問 23 で「１．あった」と答えた方に、情報の入手先をたずねたところ、「公的機関の窓口」（40.0%）が最も多く、以下、「広報紙」（21.7%）、「民生委員、ケアマネジャーなどからの情報」(12.2%)、「市のホームページ」(6.7%)、「自治会での寄合い・回覧板」(6.1%)、「社会福祉協議会の窓口」（3.9%）、「社協だより等」（0.6%）となっている。

属性別でみると、年齢別では、子育て世代である 30 代、40 代、70 歳以上で「広報紙」の比率も高い。

図表　必要とした情報の入手先



（４）今後町の保健・福祉情報をどのように入手したいか

問 24　あなたは、今後、保健・福祉に関する情報をどのような方法で入手したいですか。
【複数回答】

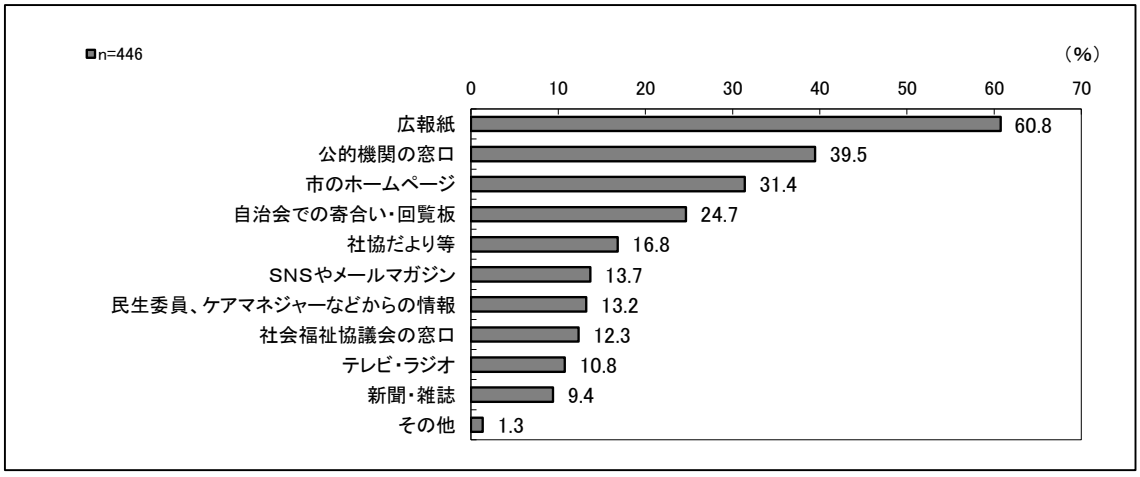
▼

● 「広報紙」が他を引き離して第１位。

今後町の保健･福祉情報をどのように入手したいかたずねたところ､｢広報紙｣(60.8%)が第１位、次いで、｢公的機関の窓口｣(39.5%)、｢市のホームページ｣(31.4%)、｢自治会での寄合い・回覧板｣(24.7%)、｢社協だより等｣(16.8%)、｢ＳＮＳやメールマガジン｣(13.7%)、｢民生委員、ケアマネジャーなどからの情報｣(13.2%)、｢社会福祉協議会の窓口｣(12.3%)、｢テレビ・ラジオ｣(10.8%)、｢新聞・雑誌｣(9.4%) となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「広報紙」が第１位となっている。(年齢別の 20 代は「ＳＮＳやメールマガジン」が第１位)

図表　今後町の保健・福祉情報をどのように入手したいか（全体／複数回答）



図表　今後町の保健・福祉情報をどのように入手したいか（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		広報紙 60.8	公的機関の窓口 39.5	市のホームページ 31.4
性別	男性	広報紙 52.7	市のホームページ 39.2	公的機関の窓口 35.5
	女性	広報紙 66.4	公的機関の窓口 42.3	市のホームページ 26.1
年齢	20 代	ＳＮＳやメールマガジン 46.2	広報紙／市のホームページ 42.3	
	30 代	広報紙 55.8	市のホームページ 44.2	公的機関の窓口 36.5
	40 代	広報紙 58.2	市のホームページ 49.4	公的機関の窓口 30.4
	50 代	広報紙 59.7	公的機関の窓口 44.8	市のホームページ 43.3
	60 代	広報紙 69.4	公的機関の窓口 44.6	自治会での寄合い・回覧板 31.4
	70 歳以上	広報紙 59.4	公的機関の窓口 40.6	自治会での寄合い・回覧板 32.3
世帯構成	単身世帯	広報紙 43.5	公的機関の窓口／市のホームページ 35.5	
	夫婦だけの世帯	広報紙 65.3	公的機関の窓口 44.1	自治会での寄合い・回覧板 25.4
	親と子どもだけの世帯	広報紙 62.4	公的機関の窓口 37.6	市のホームページ 36.5
	親と子どもと孫の三世代世帯	広報紙 70.0	公的機関の窓口 44.0	市のホームページ 38.0
	その他	広報紙 53.6	民生委員、ケアマネジャーなどからの情報／自治会での寄合い・回覧板 32.1	
居住地区	瑞浪地区	広報紙 54.3	公的機関の窓口 37.0	市のホームページ 33.7
	土岐地区	広報紙 61.9	公的機関の窓口 36.5	市のホームページ 34.9
	明世地区	広報紙 83.9	公的機関の窓口 41.9	市のホームページ／社協だより等 38.7
	稲津町	広報紙 60.5	公的機関の窓口 53.5	市のホームページ 32.6
	陶町	広報紙 66.7	公的機関の窓口 42.9	自治会での寄合い・回覧板 38.1
	日吉町	広報紙 68.2	公的機関の窓口 54.5	市のホームページ／民生委員、ケアマネジャーなどからの情報 31.8
	釜戸町	広報紙 53.6	市のホームページ 25.0	公的機関の窓口／民生委員、ケアマネジャーなどからの情報 21.4
	大湫町	広報紙 85.7	公的機関の窓口／市のホームページ 28.6	
	その他	広報紙 57.1	市のホームページ 42.9	公的機関の窓口 38.1

６　相談について

（１）暮らしの中での悩みや不安

問 25　あなたは、暮らしの中で、どのような悩みや不安を感じていますか。【複数回答】

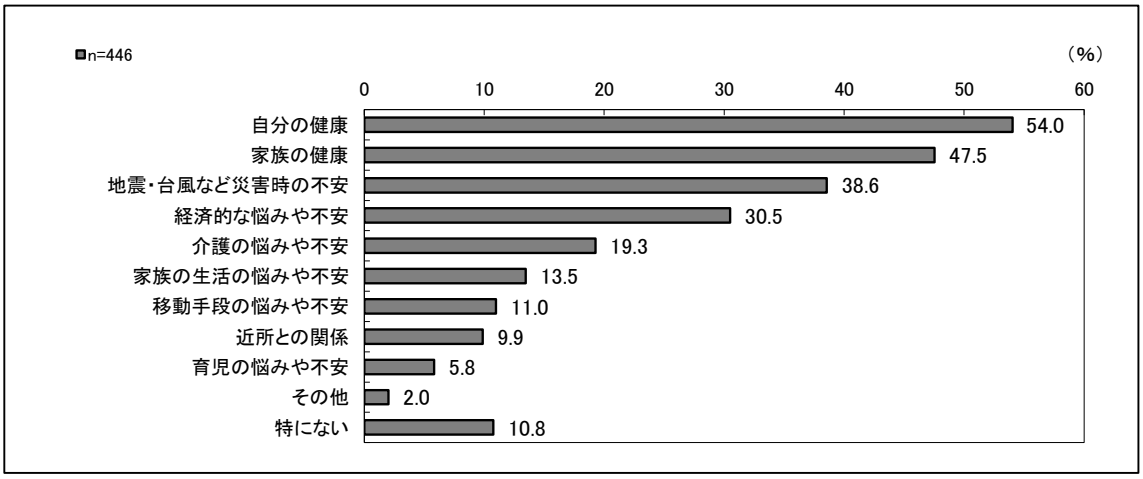
▼

● 「自分の健康」が第１位、「家族の健康」、「地震・台風など災害時の不安」が続く。

暮らしの中での悩みや不安については、「自分の健康」（54.0%）が第１位、次いで、「家族の健康」（47.5%）、「地震・台風など災害時の不安」（38.6%）、「経済的な悩みや不安」（30.5%）、「介護の悩みや不安」（19.3%）、「家族の生活の悩みや不安」（13.5%）、「移動手段の悩みや不安」（11.0%）、「近所との関係」（9.9%）、「育児の悩みや不安」（5.8%）となっている。なお、「特にない」は 10.8%となっている。

属性別でみると、各層において、抱える悩みや不安の内容は多様である。

図表　暮らしの中での悩みや不安（全体／複数回答）



図表　暮らしの中での悩みや不安（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		自分の健康 54.0	家族の健康 47.5	地震・台風など災害時の不安 38.6
性別	男性	自分の健康 54.3	家族の健康 45.2	地震・台風など災害時の不安 36.0
	女性	自分の健康 53.8	家族の健康 49.0	地震・台風など災害時の不安 41.1
年齢	20 代	地震・台風など災害時の不安 46.2	経済的な悩みや不安 38.5	家族の健康 30.8
	30 代	経済的な悩みや不安 50.0	地震・台風など災害時の不安 44.2	家族の健康 34.6
	40 代	地震・台風など災害時の不安 46.8	家族の健康 44.3	自分の健康 40.5
	50 代	自分の健康 55.2	家族の健康 50.7	地震・台風など災害時の不安 43.3
	60 代	自分の健康 61.2	家族の健康 48.8	地震・台風など災害時の不安 33.9
	70 歳以上	自分の健康 79.2	家族の健康 57.3	地震・台風など災害時の不安 30.2
世帯構成	単身世帯	自分の健康 64.5	経済的な悩みや不安 41.9	地震・台風など災害時の不安 37.1
	夫婦だけの世帯	家族の健康 63.6	自分の健康 59.3	地震・台風など災害時の不安 38.1
	親と子どもだけの世帯	自分の健康 47.0	家族の健康 45.9	地震・台風など災害時の不安 40.9
	親と子どもと孫の三世代世帯	自分の健康 52.0	家族の健康 48.0	地震・台風など災害時の不安 40.0
	その他	家族の健康 67.9	自分の健康 57.1	介護の悩みや不安／地震・台風など災害時の不安 32.1
居住地区	瑞浪地区	自分の健康 52.2	家族の健康 45.7	地震・台風など災害時の不安 38.6
	土岐地区	自分の健康／家族の健康 38.1		地震・台風など災害時の不安 31.7
	明世地区	自分の健康 61.3	家族の健康 54.8	地震・台風など災害時の不安 51.6
	稲津町	自分の健康 62.8	家族の健康 53.5	地震・台風など災害時の不安 37.2
	陶町	自分の健康 64.3	家族の健康 57.1	地震・台風など災害時の不安 45.2
	日吉町	自分の健康 63.6	家族の健康 50.0	地震・台風など災害時の不安 40.9
	釜戸町	自分の健康 67.9	家族の健康 50.0	地震・台風など災害時の不安 25.0
	大湫町	移動手段の悩みや不安 57.1	家族の健康／育児の悩みや不安／経済的な悩みや不安 42.9	
	その他	地震・台風など災害時の不安 52.4	自分の健康 47.6	家族の健康 42.9

（２）暮らしの問題で困ったときの相談相手

問 26　あなたは暮らしの問題で困ったときに、誰に相談しますか。【複数回答】

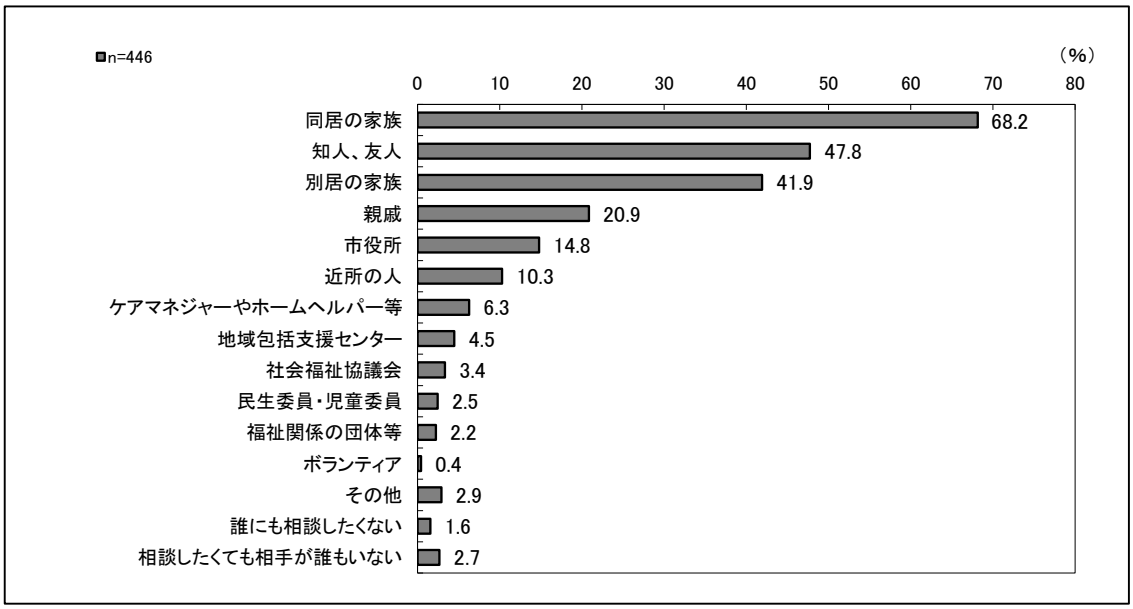
▼

● 「同居の家族」が他を引き離して第１位。

暮らしの問題で困ったときの相談相手は、「同居の家族」（68.2%）が第１位、次いで、「知人、友人」（47.8%）、「別居の家族」（41.9%）、「親戚」（20.9%）、「市役所」（14.8%）、「近所の人」（10.3%）、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」（6.3%）、「地域包括支援センター」（4.5%）、「社会福祉協議会」（3.4%）、「民生委員・児童委員」（2.5%）、「福祉関係の団体等」（2.2%）、「ボランティア」（0.4%）となっている。

属性別でみると、ほとんどの層で「同居の家族」が第１位となっている。（世帯構成別の単身世帯、居住地区別のその他は、「知人、友人」が第１位）

図表　暮らしの問題で困ったときの相談相手（全体／複数回答）



図表　暮らしの問題で困ったときの相談相手（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		同居の家族 68.2	知人、友人 47.8	別居の家族 41.9
性別	男性	同居の家族 64.0	知人、友人 48.9	別居の家族 32.8
	女性	同居の家族 71.5	別居の家族 48.6	知人、友人 47.8
年齢	20 代	同居の家族 92.3	知人、友人 50.0	別居の家族 26.9
	30 代	同居の家族 69.2	知人、友人 61.5	別居の家族 51.9
	40 代	同居の家族 63.3	知人、友人 60.8	別居の家族 43.0
	50 代	同居の家族 68.7	知人、友人 46.3	別居の家族 44.8
	60 代	同居の家族 65.3	知人、友人 45.5	別居の家族 39.7
	70 歳以上	同居の家族 69.8	別居の家族 39.6	知人、友人 34.4
世帯構成	単身世帯	知人、友人 51.6	別居の家族 46.8	市役所 21.0
	夫婦だけの世帯	同居の家族 78.8	別居の家族 50.8	知人、友人 43.2
	親と子どもだけの世帯	同居の家族 76.2	知人、友人 51.4	別居の家族 43.6
	親と子どもと孫の三世代世帯	同居の家族 90.0	知人、友人 48.0	親戚 22.0
	その他	同居の家族 71.4	知人、友人 39.3	別居の家族／親戚 28.6
居住地区	瑞浪地区	同居の家族 64.1	知人、友人 53.3	別居の家族 45.1
	土岐地区	同居の家族 69.8	知人、友人 47.6	別居の家族 41.3
	明世地区	同居の家族 74.2	別居の家族 54.8	知人、友人 32.3
	稲津町	同居の家族 81.4	知人、友人 51.2	別居の家族 37.2
	陶町	同居の家族 71.4	知人、友人 38.1	別居の家族 31.0
	日吉町	同居の家族 81.8	別居の家族 54.5	知人、友人 50.0
	釜戸町	同居の家族 60.7	知人、友人 25.0	親戚 17.9
	大湫町	同居の家族 85.7	知人、友人 71.4	別居の家族 57.1
	その他	知人、友人 61.9	同居の家族 52.4	別居の家族 42.9

（３）福祉・保健・年金などに関する窓口の利用

問 27　あなたは、市の窓口のうち、福祉・保健・年金などに関する窓口を利用したことがありますか。

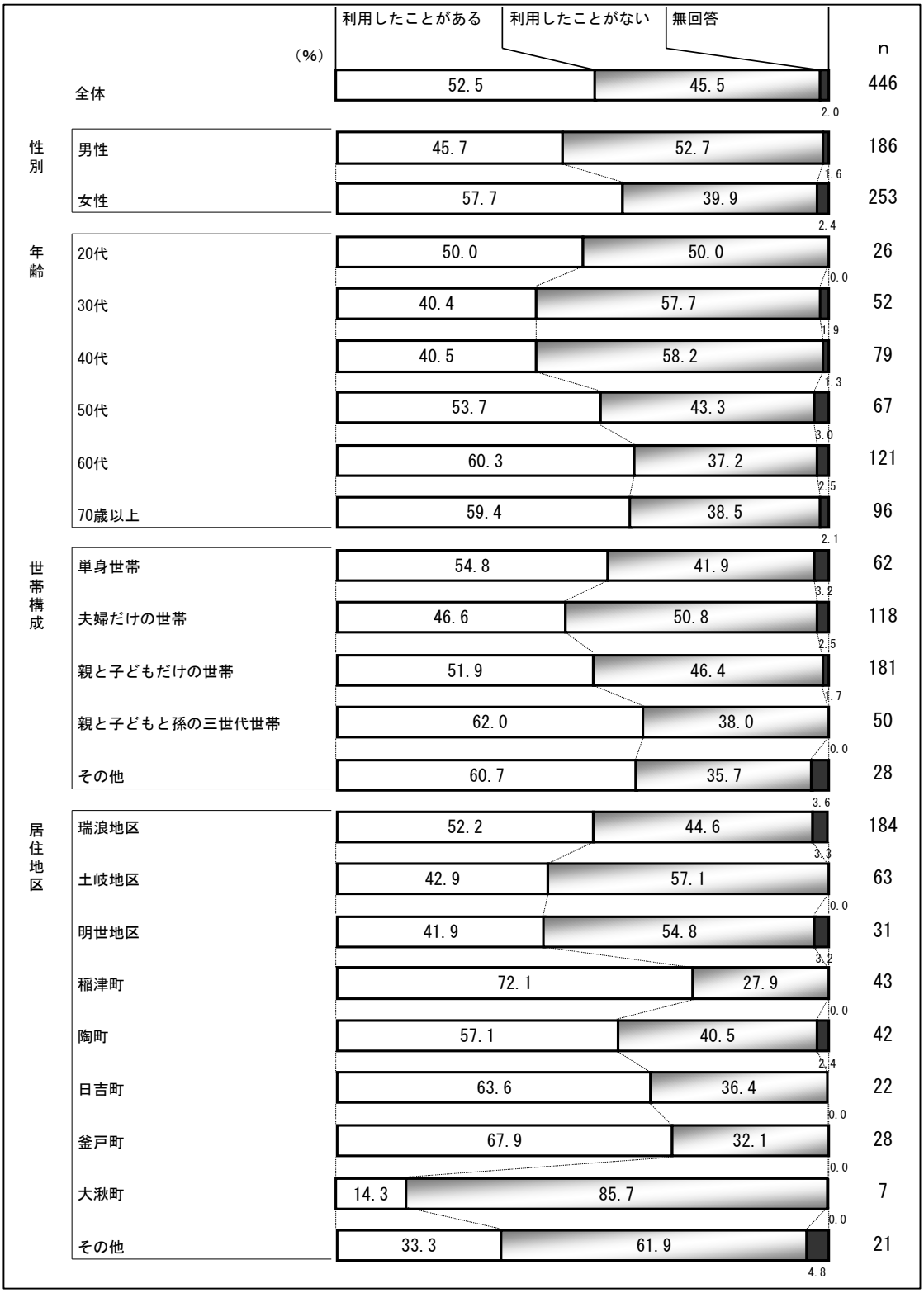
▼

● 「利用したことがある」が５割強を占める。

福祉・保健・年金などに関する窓口の利用経験は、「利用したことがある」が 52.5%、一方、「利用したことがない」が 45.5%となっている。

属性別で「利用したことがある」の率をみると、年齢別の 30 代、40 代では約４割にとどまり、「利用したことがない」の率より大きく下回る。

図表　福祉・保健・年金などに関する窓口の利用



（４）市の窓口は利用しやすかったか

【問 27 で「１．あった」と答えた方のみ】
問 27-1　市の窓口は利用しやすかったですか。

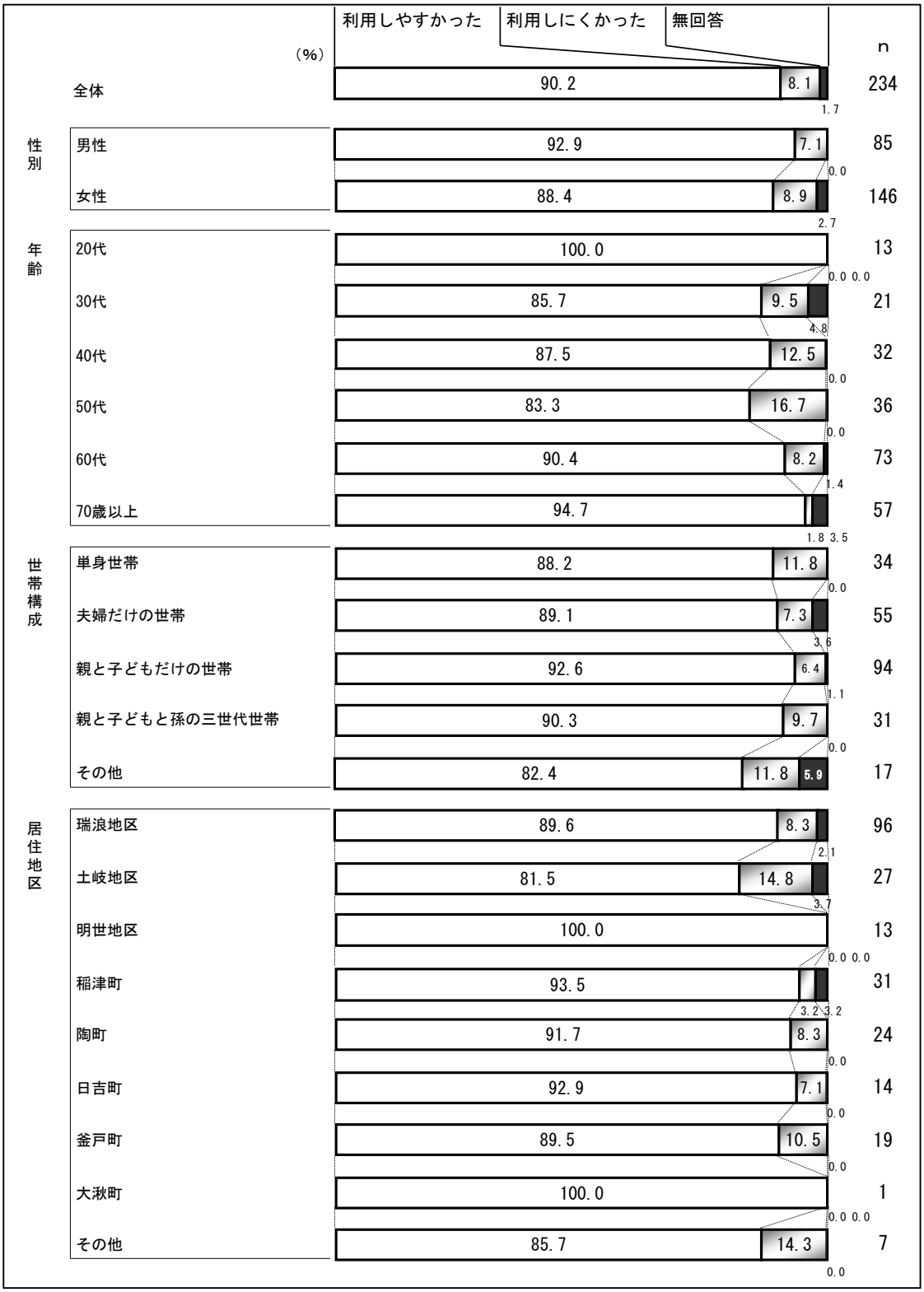
▼

● 「利用しやすかった」が約９割を占める。

問 27 で「１．利用したことがある」と答えた方（234 名・全体の 52.5%）に、市の窓口は利用しやすかったかどうかたずねたところ、「利用しやすかった」が 90.2%、一方、「利用しにくかった」が 8.1%となっている。

属性別でみても、各層において大きな違いはみられない。

図表　市の窓口は利用しやすかったか



（５）相談や手続きに行く場合どんな窓口を希望するか

問 28　あなたは、市の窓口に相談や手続きに行く場合、どのような窓口を希望しますか。
【複数回答】

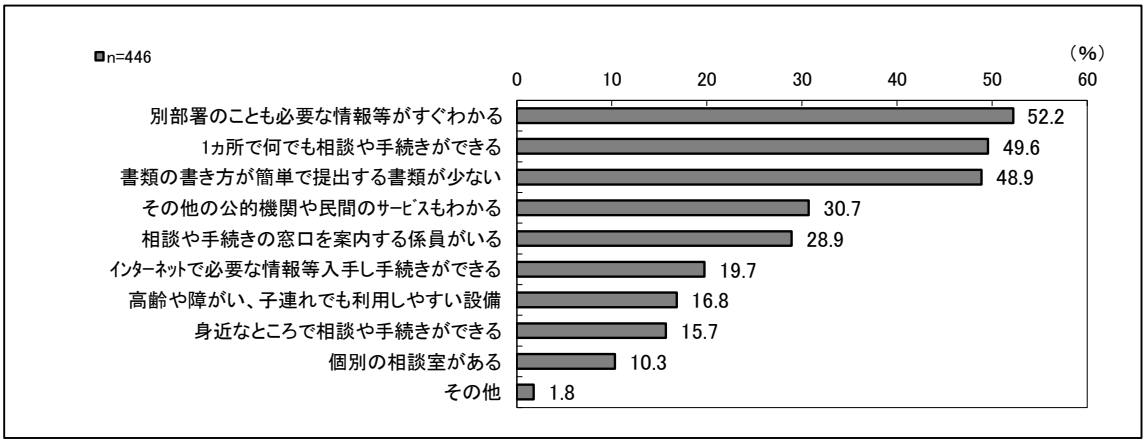
▼

●　「別部署のことも必要な情報等がすぐわかる」が第１位、「１ヵ所で何でも相談や手続きができる」、「書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない」が続く。

相談や手続きに行く場合どんな窓口を希望するかたずねたところ、「別部署のことも必要な情報等がすぐわかる」（52.2%）が第１位、次いで、「１ヵ所で何でも相談や手続きができる」（49.6%）、「書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない」（48.9%）、「その他の公的機関や民間のｻｰﾋﾞｽもわかる」（30.7%）、「相談や手続きの窓口を案内する係員がいる」（28.9%）、「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄで必要な情報等入手し手続きができる」（19.7%）、「高齢や障がい、子連れでも利用しやすい設備」（16.8%）、「身近なところで相談や手続きができる」（15.7%）、「個別の相談室がある」（10.3%）となっている。

属性別でみると、各層において、市の窓口に希望する内容は多様である。

図表　相談や手続きに行く場合どんな窓口を希望するか（全体／複数回答）



図表　相談や手続きに行く場合どんな窓口を希望するか（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 52.2	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 49.6	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 48.9
性別	男性	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 54.8	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 47.3	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 44.1
	女性	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 53.4	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 51.0	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 49.8
年齢	20代	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 53.8	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 46.2	相談や手続きの窓口を案内する係員がいる 42.3
	30代	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 50.0	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 46.2	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 40.4
	40代	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる／書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 54.4		1ヵ所で何でも相談や手続きができる 43.0
	50代	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 61.2	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 53.7	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 47.8
	60代	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 59.5	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 55.4	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 53.7
	70歳以上	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 49.0	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 43.8	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 37.5
世帯構成	単身世帯	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 59.7	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 46.8	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 40.3
	夫婦だけの世帯	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 55.1	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 51.7	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 49.2
	親と子どもだけの世帯	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 52.5	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる／1 ヵ所で何でも相談や手続きができる 51.9	
	親と子どもと孫の三世代世帯	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる／1 ヵ所で何でも相談や手続きができる 50.0		その他の公的機関や民間のｻｰﾋﾞｽもわかる 38.0
	その他	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 50.0	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 42.9	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 32.1
居住地区	瑞浪地区	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 55.4	1 ヵ所で何でも相談や手続きができる／書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 50.0	
	土岐地区	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 54.0	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 52.4	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 46.0
	明世地区	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 64.5	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 61.3	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 51.6
	稲津町	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 51.2	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 46.5	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 44.2
	陶町	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 50.0	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 42.9	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 38.1
	日吉町	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 72.7	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 59.1	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 50.0
	釜戸町	1ヵ所で何でも相談や手続きができる 53.6	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 39.3	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 32.1
	大湫町	書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 57.1	その他の公的機関や民間のｻｰﾋﾞｽもわかる／身近なところで相談や手続きができる 42.9	
	その他	別部署のことも必要な情報等がすぐわかる 61.9	相談や手続きの窓口を案内する係員がいる／書類の書き方が簡単で提出する書類が少ない 42.9	

7　人権・権利擁護について

（1）虐待等を知った場合の通報義務について

問 29　あなたは、児童や高齢者や障がい者への虐待、家庭内暴力を知った場合に、市など公的機関に速やかに通報する義務が市民にあることをご存知でしたか。

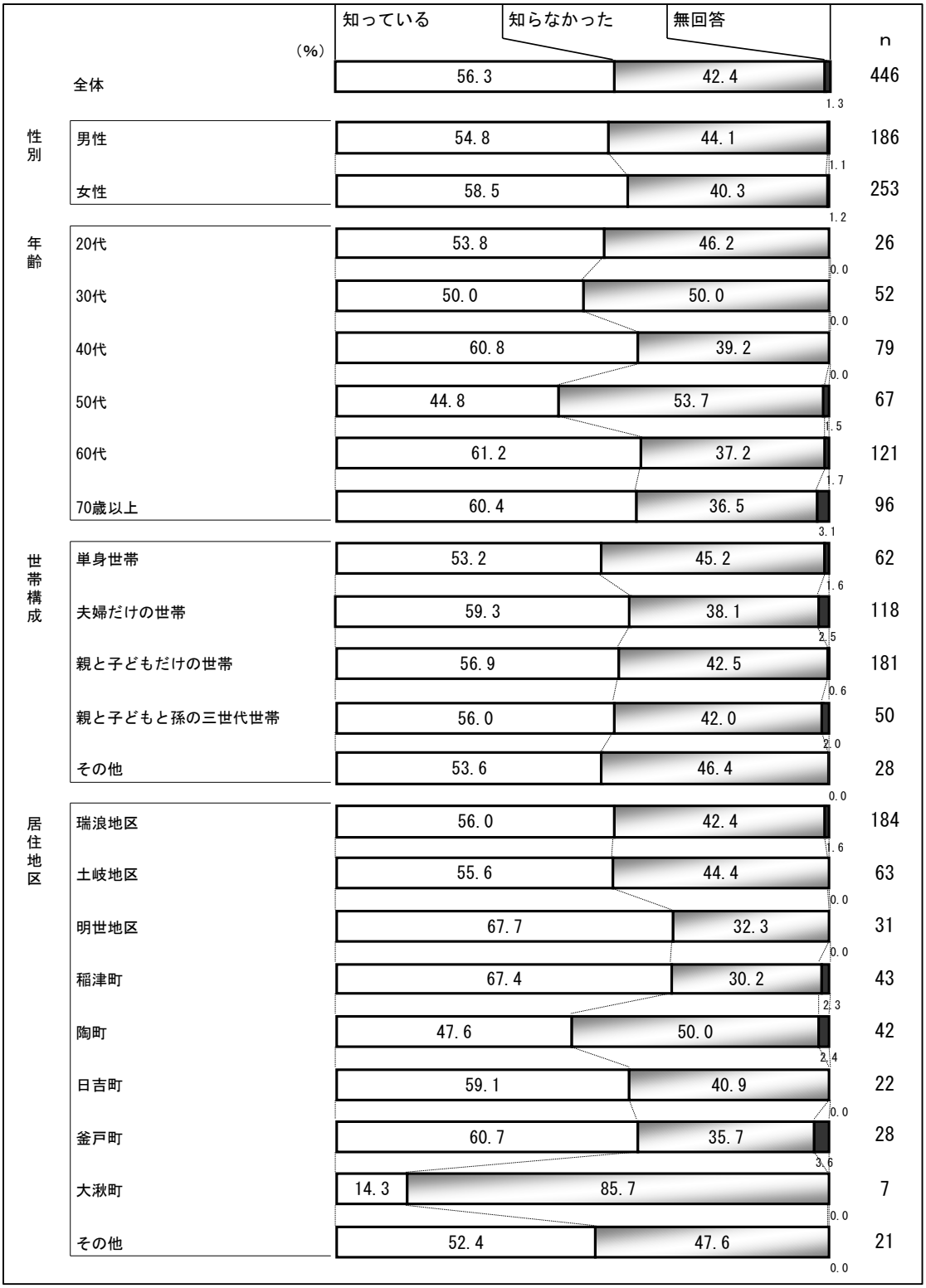
▼

● 「知っている」が６割弱を占める。

虐待等を知った場合の通報義務については、「知っている」が 56.3%、一方、「知らなかった」が 42.4%となっている。

属性別で「知っている」の率をみると、年齢別の 50 代では４割台半ばにとどまり、「知らなかった」の率を下回る。

図表　虐待等を知った場合の通報義務について



（２）成年後見制度について

問 30　あなたは、成年後見制度について、どの程度ご存知ですか。

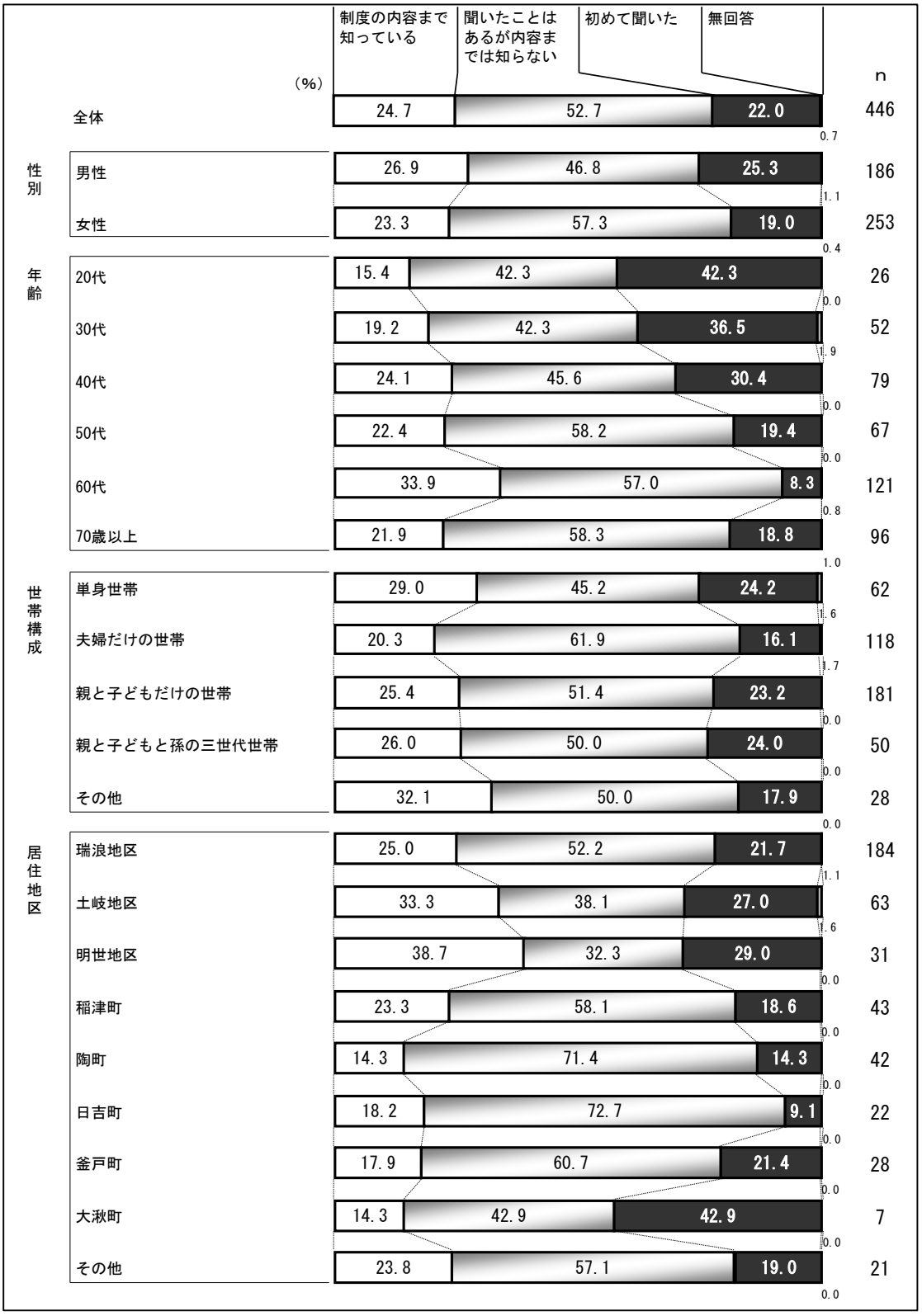
▼

● 「聞いたことはあるが内容までは知らない」が５割強を占める。

成年後見制度については、「聞いたことはあるが内容までは知らない」（52.7%）が最も多く、以下、「制度の内容まで知っている」（24.7%）、「初めて聞いた」（22.0%）となっている。

属性別でみると、年齢別では、概ね年齢層の高さに比例して、認知度が高くなる傾向がみられる。

図表　成年後見制度について



（３）日常生活自立支援事業について

問 31　あなたは、日常生活自立支援事業について、どの程度ご存知ですか。

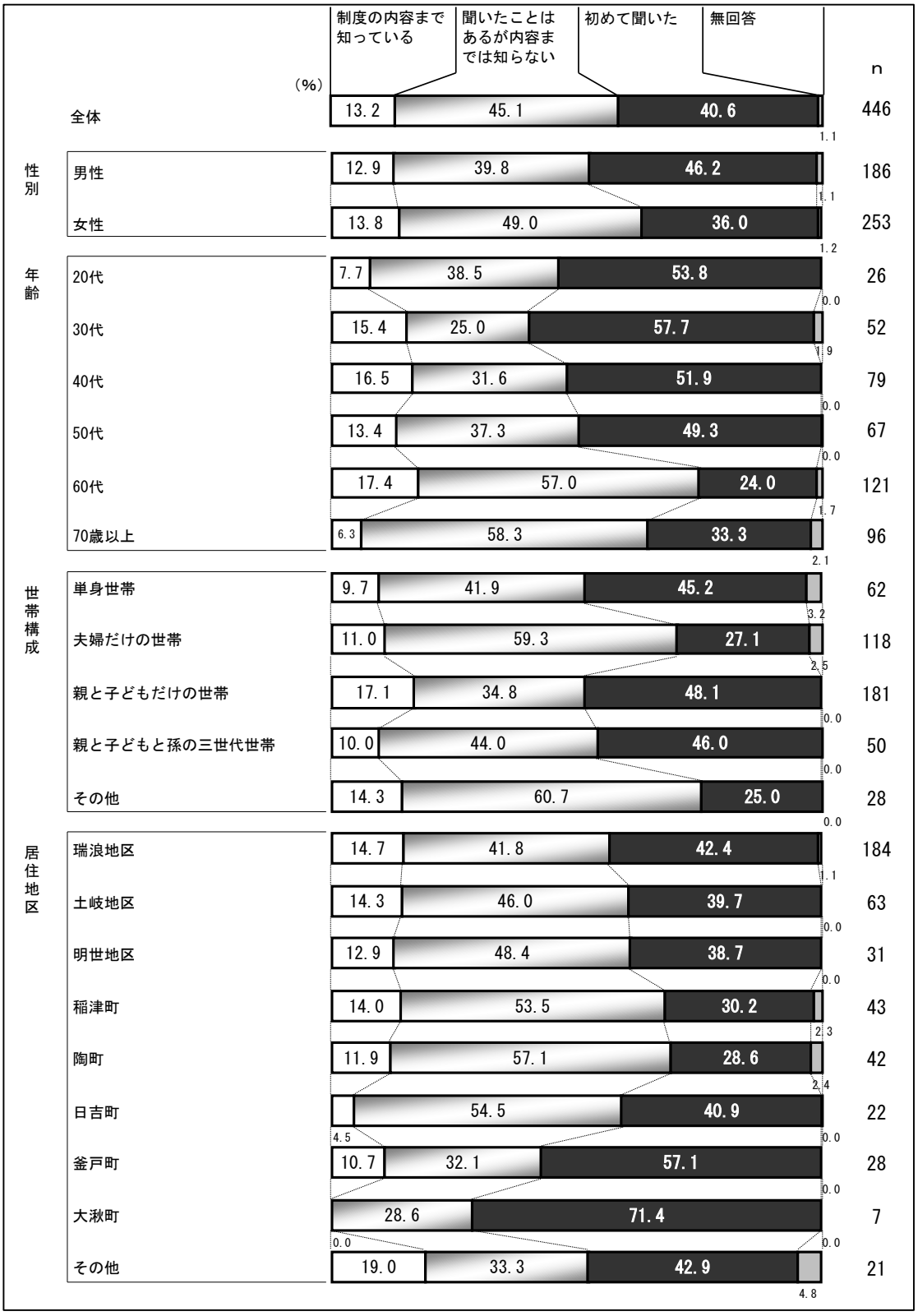
▼

● 「聞いたことはあるが内容までは知らない」が４割台半ばを占める。

日常生活自立支援事業については、「聞いたことはあるが内容までは知らない」(45.1%)が最も多く、以下、「初めて聞いた」(40.6%)、「制度の内容まで知っている」(13.2%)となっている。

属性別でみると、年齢別では、60 代、70 歳以上の認知度が他の年齢層より高くなっている。

図表　日常生活自立支援事業について



８　外出の状況について

（１）ふだんの外出状況について

問 32　ふだんの外出状況であてはまるものはどれですか。

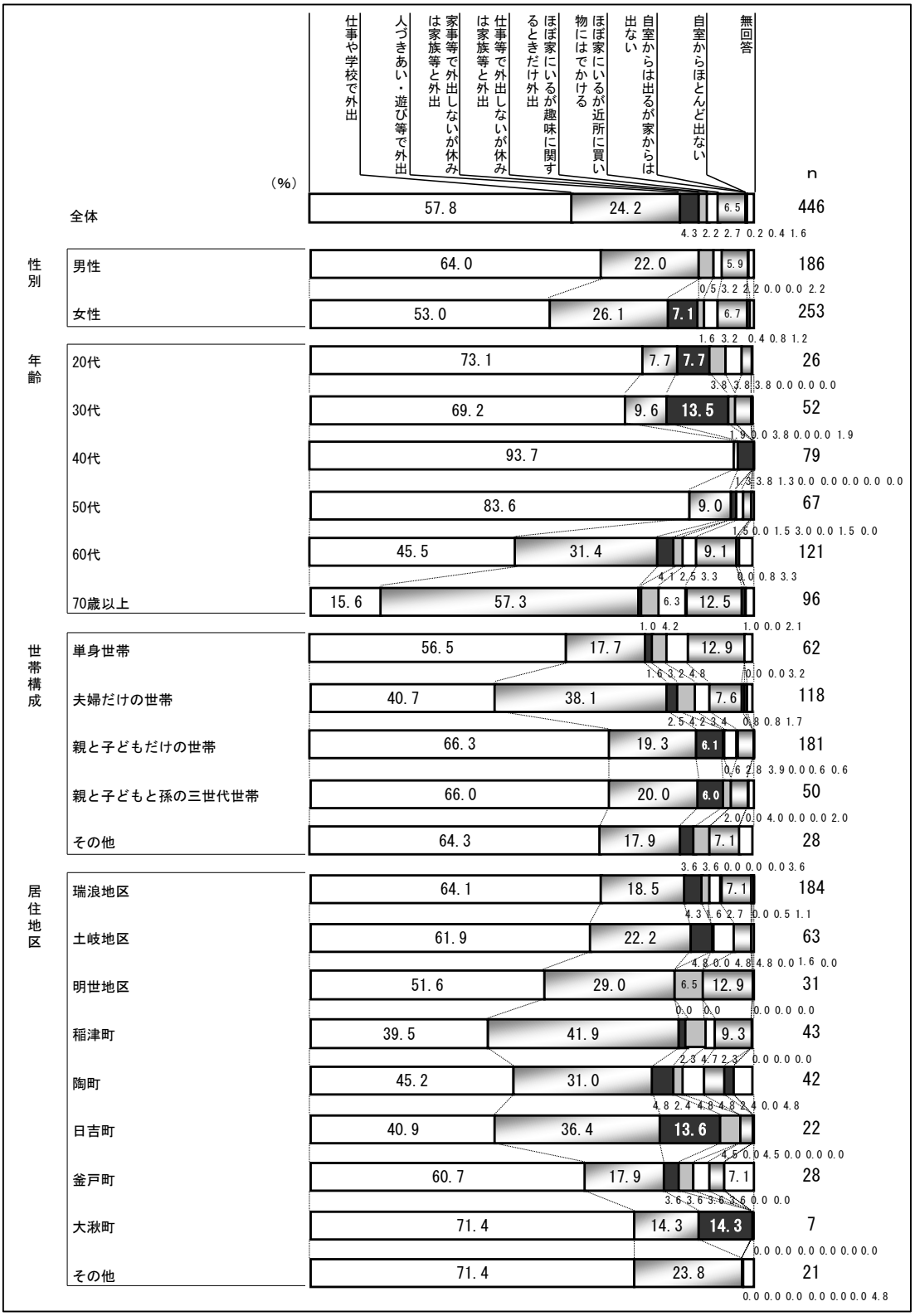
▼

● 「仕事や学校で外出」が６割弱を占める。

ふだんの外出状況については、「仕事や学校で外出」（57.8%）が最も多く、以下、「人づきあい・遊び等で外出」(24.2%)、「ほぼ家にいるが近所に買い物にはでかける」(6.5%)、「家事等で外出しないが休みは家族等と外出」(4.3%)、「ほぼ家にいるが趣味に関するときだけ外出」(2.7%)、「仕事等で外出しないが休みは家族等と外出」(2.2%)、「自室からほとんど出ない」(0.4%)、「自室からは出るが家からは出ない」(0.2%) となっている。

属性別でみると、年齢別の 60 代、70 歳以上では「人づきあい・遊び等で外出」の率が他の年齢層より高くなっている。

図表　ふだんの外出状況について



（２）その状態はどれくらい続いているか

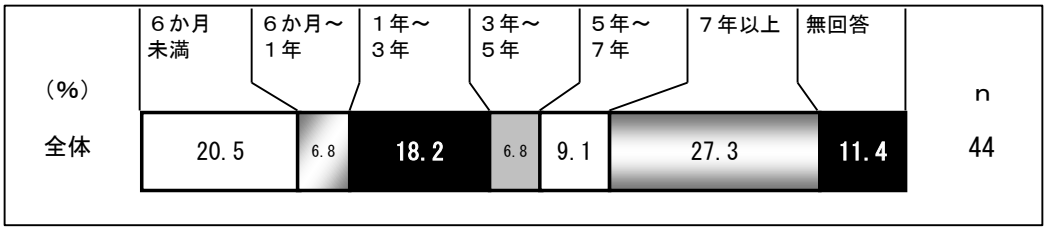
【問 32 で「５.」～「８.」と答えた方のみ】
問 32-1　その状態はどれくらい続いていますか。

▼

● 「７年以上」が３割弱を占める。

問 32 で「５.」～「８.」と答えた方（44 名・全体の 9.8%）に、その状態がどれくらい続いているかたずねたところ、「７年以上」(27.3%）が最も多く、以下、「６か月未満」(20.5%)、「１年～３年」(18.2%)、「５年～７年」(9.1%)、「６か月～１年」・「３年～５年」(同率 6.8%）となっている。

図表　その状態はどれくらい続いているか



（３）現在の状態になったきっかけ

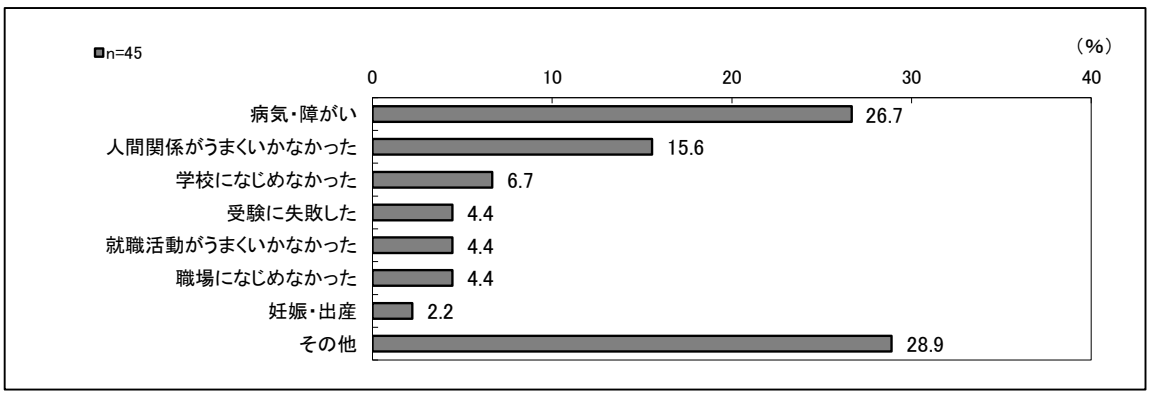
【問 32 で「５.」～「８.」と答えた方のみ】
問 32-2　現在の状態になったきっかけは何ですか。【複数回答】
　　なお、「１．学校になじめなかった」「２．受験に失敗した」「５．人間関係がうまくいかなかった」のいずれかを選択した方は、さらに付問にお答えください。

▼

● 「病気・障がい」が３割弱を占める。

現在の状態になったきっかけは、「病気・障がい」(26.7%）が最も多く、以下、「人間関係がうまくいかなかった」(15.6%)、「学校になじめなかった」(6.7%)、「受験に失敗した」・「就職活動がうまくいかなかった」・「職場になじめなかった」(同率 4.4%)、「妊娠・出産」(2.2%）となっている。

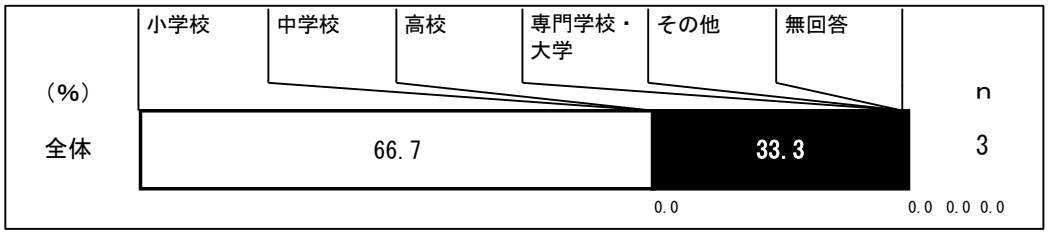
図表　現在の状態になったきっかけ



① 学校になじめなかった時期

「学校になじめなかった」と答えた方（３名・6.7%）の学校になじめなかった時期は、「小学校」(66.7%)、「高校」(33.3%) となっている。

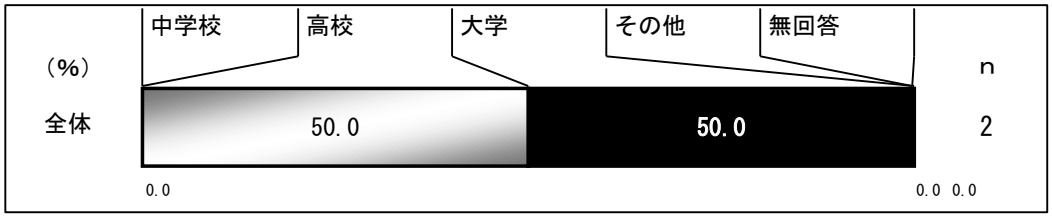
図表　学校になじめなかった時期



② 受験に失敗した時期

「受験に失敗した」と答えた方（２名・4.4%）の受験に失敗した時期は、「高校」・「大学」(同率 50.0%) となっている。

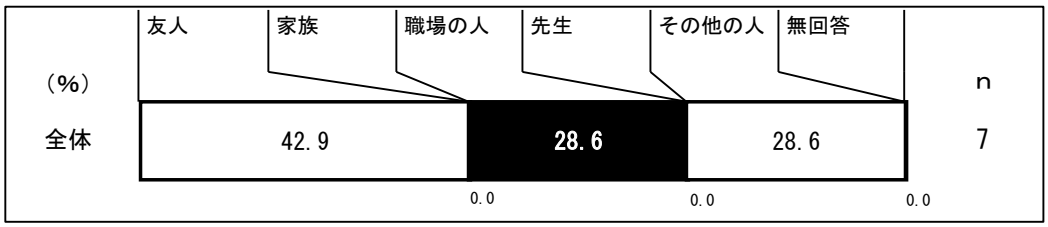
図表　受験に失敗した時期



③ 人間関係がうまくいかなかった相手

「人間関係がうまくいかなかった」と答えた方（７名・15.6%）の人間関係がうまくいかなかった相手は、「友人」(42.9%)、「職場の人」・「その他の人」(同率 28.6%) となっている。

図表　人間関係がうまくいかなかった相手



（４）現在の状態について誰かに相談したか

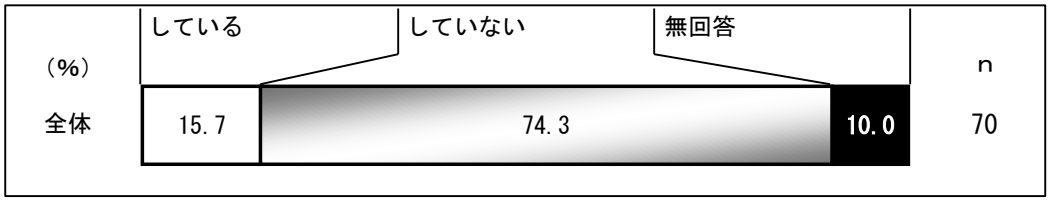
【問 32 で「５.」～「８.」と答えた方のみ】
問 32-3　現在の状態について、誰かに相談していますか。

▼

● 「していない」が７割台半ばを占める。

問 32 で「５.」～「８.」と答えた方に、現在の状態について誰かに相談したかどうかたずねたところ、「していない」が 74.3%、一方、「している」が 15.7%となっている。

図表　現在の状態について誰かに相談したか



（５）誰かに相談したいか

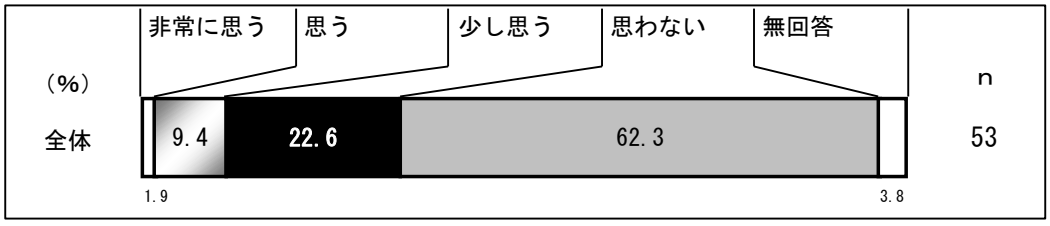
【問 32-3 で「２．していない」と答えた方のみ】
問 32-4　現在の状態について、誰かに相談したいと思いますか。

▼

● 「思わない」が６割強を占める。

問 32-3 で「２．していない」と答えた方（52 名・74.3%）に、誰かに相談したいかどうかたずねたところ、「思わない」（62.3%）が最も多く、以下、「少し思う」（22.6%）、「思う」（9.4%）、「非常に思う」（1.9%）となっている。

図表　誰かに相談したいか



（６）どのような人・機関なら相談したいか

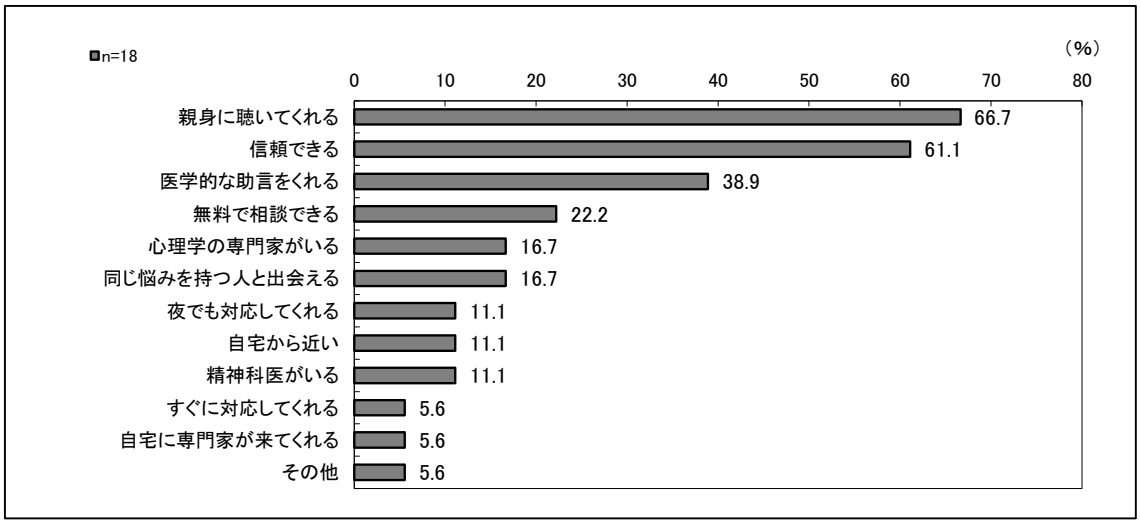
【問 32-4 で「１.」～「３.」と答えた方のみ】
問 32-5　現在の状態について、どのような人・機関なら、相談したいと思いますか。
【複数回答】

▼

● 「親身に聴いてくれる」及び「信頼できる」が２大要望。

問 32-4 で「１．非常に思う」、「２．思う」、「３．少し思う」と答えた方（18 名・33.4%）に、どのような人・機関なら相談したいかたずねたところ、「親身に聴いてくれる」（66.7%）が第１位、次いで、「信頼できる」（61.1%）、「医学的な助言をくれる」（38.9%）、「無料で相談できる」（22.2%）、「心理学の専門家がいる」・「同じ悩みを持つ人と出会える」（同率 16.7%）、「夜でも対応してくれる」・「自宅から近い」・「精神科医がいる」（同率 11.1%）、「すぐに対応してくれる」・「自宅に専門家が来てくれる」（同率 5.6%）となっている。

図表　どのような人・機関なら相談したいか（全体／複数回答）



（７）相談したくないと思う理由

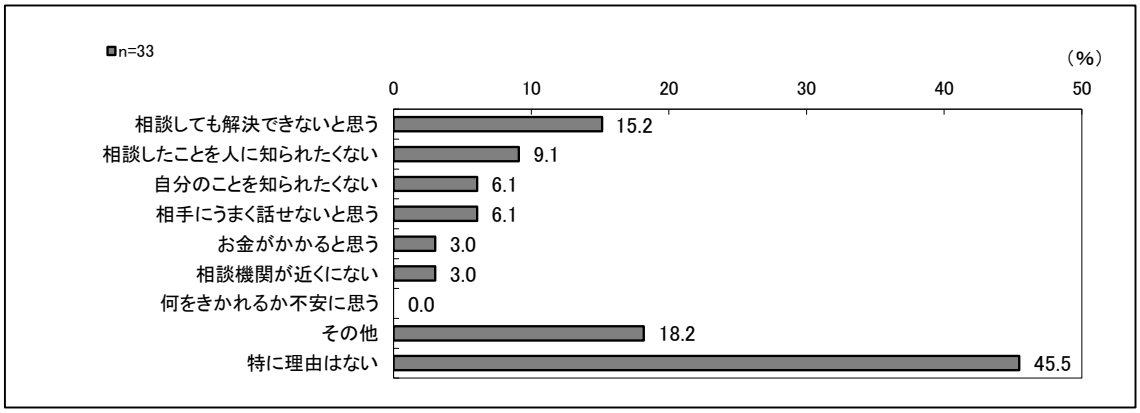
【問 32-4 で「４．思わない」と答えた方のみ】
問 32-6　相談したくないと思う理由は何ですか。

▼

● 「相談しても解決できないと思う」が第１位。

問 32-4 で「４．思わない」と答えた方（33 名・62.3%）に、相談したくないと思う理由をたずねたところ、具体的には、「相談しても解決できないと思う」(15.2%) が第１位、次いで、「相談したことを人に知られたくない」(9.1%)、「自分のことを知られたくない」・「相手にうまく話せないと思う」（同率 6.1%）、「お金がかかると思う」・「相談機関が近くにない」(同率 3.0%) となっている。なお、「特に理由はない」は 45.5%となっている。

図表　相談したくないと思う理由（全体／複数回答）



９　いのちの支え合いについて

（１）孤立死について

問 33　あなたは、「孤立死」について見聞きしたことがありますか。

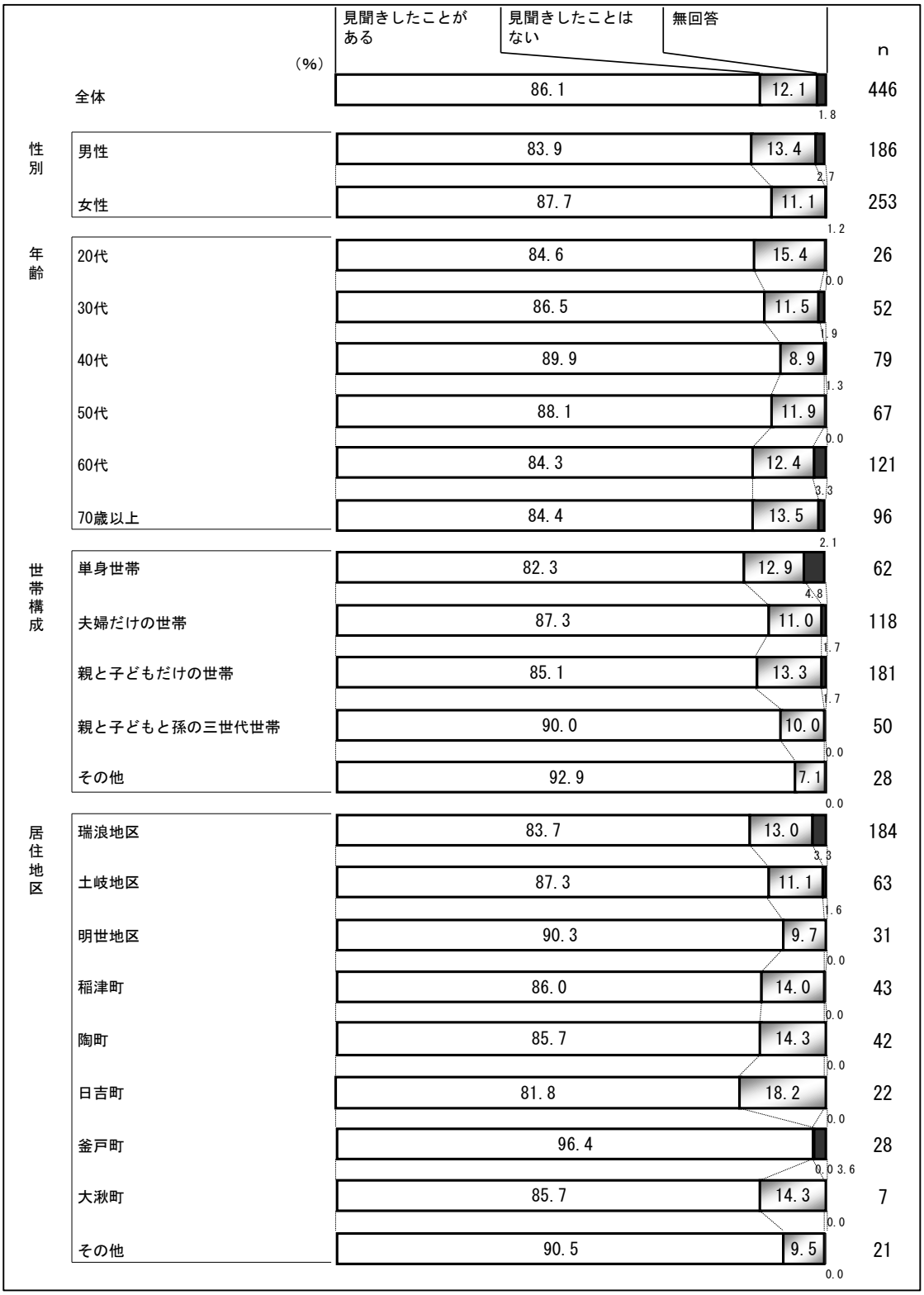
▼

● 「見聞きしたことがある」が９割弱を占める。

孤立死については、「見聞きしたことがある」が 86.1%、一方、「見聞きしたことはない」が 12.1%となっている。

属性別でみても、各層において大きな違いはみられない。

図表　孤立死について


見聞きしたことがある
見聞きしたことはない
無回答
（%）
n
全体 86.1 12.1 1.8 446
性別
男性 83.9 13.4 2.7 186
女性 87.7 11.1 1.2 253
年齢
20代 84.6 15.4 0.0 26
30代 86.5 11.5 1.9 52
40代 89.9 8.9 1.3 79
50代 88.1 11.9 0.0 67
60代 84.3 12.4 3.3 121
70歳以上 84.4 13.5 2.1 96
世帯構成
単身世帯 82.3 12.9 4.8 62
夫婦だけの世帯 87.3 11.0 1.7 118
親と子どもだけの世帯 85.1 13.3 1.7 181
親と子どもと孫の三世代世帯 90.0 10.0 0.0 50
その他 92.9 7.1 0.0 28
居住地区
瑞浪地区 83.7 13.0 3.3 184
土岐地区 87.3 11.1 1.6 63
明世地区 90.3 9.7 0.0 31
稲津町 86.0 14.0 0.0 43
陶町 85.7 14.3 0.0 42
日吉町 81.8 18.2 0.0 22
釜戸町 96.4 0.0 3.6 28
大湫町 85.7 14.3 0.0 7
その他 90.5 9.5 0.0 21

（２）自殺対策基本法について

問 34　あなたは、「自殺対策基本法」という法律を知っていますか。

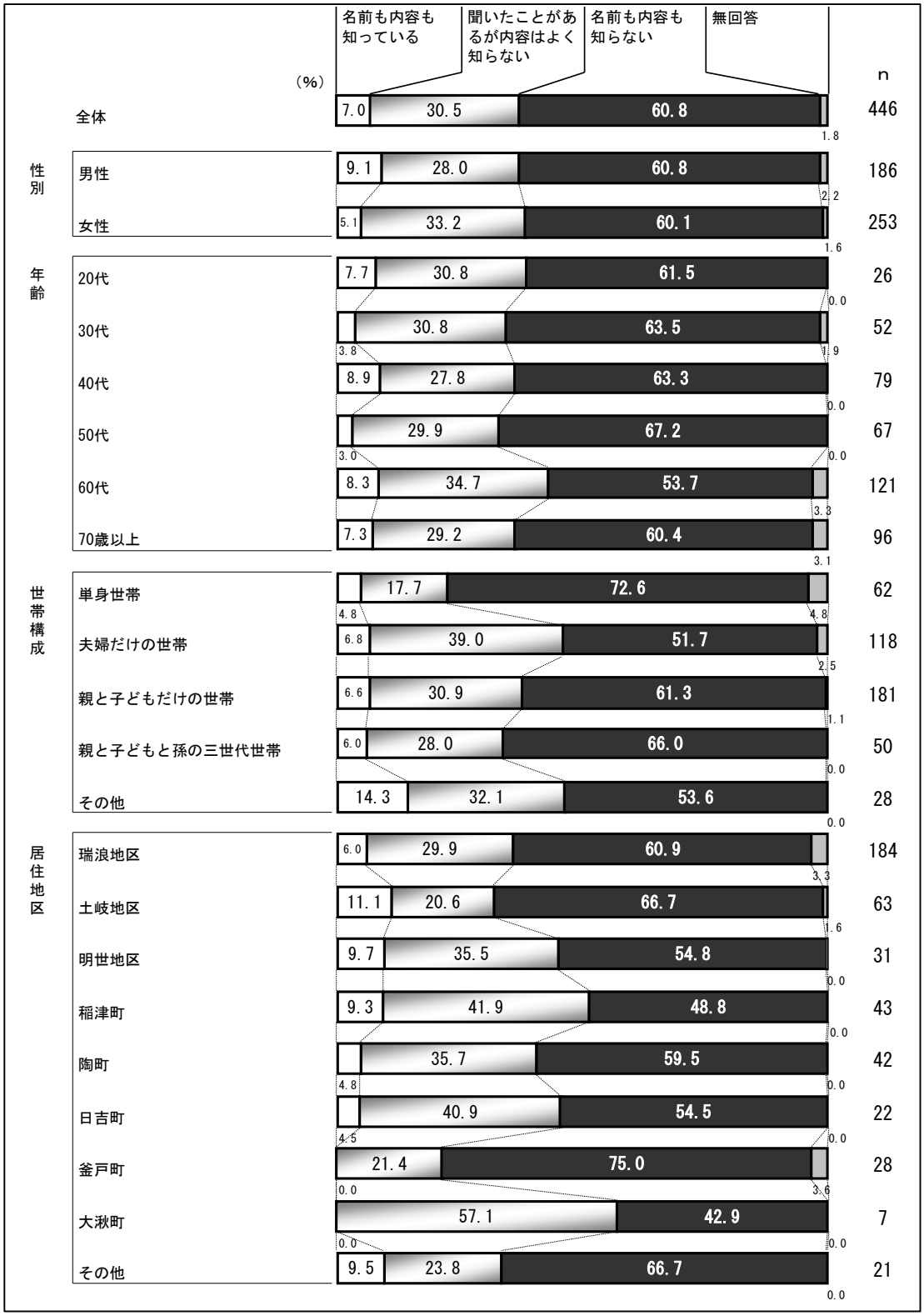
▼

● 「名前も内容も知らない」が約６割を占める。

自殺対策基本法については、「名前も内容も知らない」（60.8%）が最も多く、以下、「聞いたことがあるが内容はよく知らない」（30.5%）、「名前も内容も知っている」（7.0%）となっている。

属性別でみると、世帯構成別の単身世帯における認知度が、他の層より低い傾向がみられる。

図表　自殺対策基本法について



（３）自殺を減少させるために重要だと思うこと

問 35　あなたは、自殺を減少させるために重要だと思うことは何ですか。【複数回答】

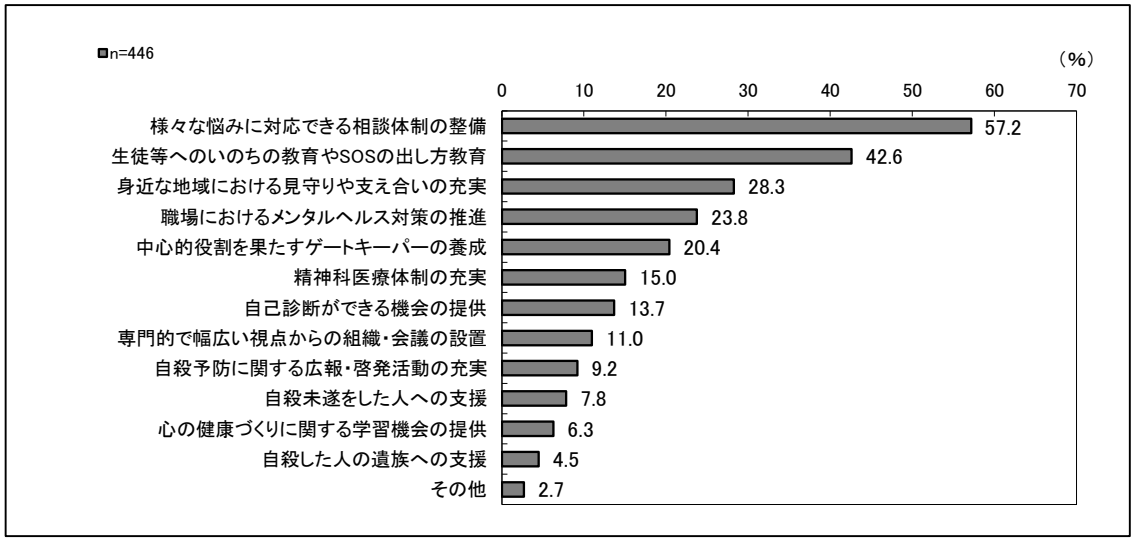
▼

● 「様々な悩みに対応できる相談体制の整備」が他を引き離して第１位。

自殺を減少させるために重要だと思うことは、「様々な悩みに対応できる相談体制の整備」(57.2%) が第１位、次いで、「生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育」(42.6%)、「身近な地域における見守りや支え合いの充実」(28.3%)、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(23.8%)、「中心的役割を果たすゲートキーパーの養成」(20.4%)、「精神科医療体制の充実」(15.0%)、「自己診断ができる機会の提供」(13.7%)、「専門的で幅広い視点からの組織・会議の設置」(11.0%)、「自殺予防に関する広報・啓発活動の充実」(9.2%)、「自殺未遂をした人への支援」(7.8%)、「心の健康づくりに関する学習機会の提供」(6.3%)、「自殺した人の遺族への支援」(4.5%) となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「様々な悩みに対応できる相談体制の整備」が第１位となっている（世帯構成別のその他では、「生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育」、居住地区別の大洲町では「身近な地域における見守りや支え合いの充実」が第１位）

図表　自殺を減少させるために重要だと思うこと（全体／複数回答）



図表　自殺を減少させるために重要だと思うこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		様々な悩みに対応できる相談体制の整備 57.2	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 42.6	身近な地域における見守りや支え合いの充実 28.3
性別	男性	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 60.2	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 34.4	職場におけるメンタルヘルス対策の推進 28.0
	女性	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 55.3	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 49.4	身近な地域における見守りや支え合いの充実 28.9
年齢	20 代	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 65.4	職場におけるメンタルヘルス対策の推進／生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 50.0	
	30 代	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 67.3	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 46.2	職場におけるメンタルヘルス対策の推進 34.6
	40 代	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 55.7	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 50.6	職場におけるメンタルヘルス対策の推進 24.1
	50 代	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 52.2	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 38.8	身近な地域における見守りや支え合いの充実／職場におけるメンタルヘルス対策の推進 31.3
	60 代	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 51.2	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 41.3	身近な地域における見守りや支え合いの充実／中心的役割を果たすゲートキーパーの養成 27.3
	70 歳以上	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 62.5	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 38.5	身近な地域における見守りや支え合いの充実 36.5
世帯構成	単身世帯	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 51.6	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 30.6	職場におけるメンタルヘルス対策の推進／自己診断ができる機会の提供 24.2
	夫婦だけの世帯	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 65.3	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 45.8	身近な地域における見守りや支え合いの充実 28.8
	親と子どもだけの世帯	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 56.4	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 43.6	身近な地域における見守りや支え合いの充実 30.4
	親と子どもと孫の三世代世帯	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 56.0	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 48.0	職場におけるメンタルヘルス対策の推進 28.0
	その他	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 50.0	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 42.9	中心的役割を果たすゲートキーパーの養成 28.6
居住地区	瑞浪地区	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 56.5	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 46.7	職場におけるメンタルヘルス対策の推進 26.6
	土岐地区	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 47.6	身近な地域における見守りや支え合いの充実 42.9	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 36.5
	明世地区	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 67.7	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 51.6	身近な地域における見守りや支え合いの充実 29.0
	稲津町	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 65.1	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 46.5	職場におけるメンタルヘルス対策の推進 30.2
	陶町	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 52.4	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 42.9	身近な地域における見守りや支え合いの充実 33.3
	日吉町	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 50.0	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 36.4	身近な地域における見守りや支え合いの充実 31.8
	釜戸町	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 60.7	中心的役割を果たすゲートキーパーの養成／生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 32.1	
	大湫町	身近な地域における見守りや支え合いの充実 57.1	様々な悩みに対応できる相談体制の整備／職場におけるメンタルヘルス対策の推進／生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 42.9	
	その他	様々な悩みに対応できる相談体制の整備 81.0	生徒等へのいのちの教育や SOS の出し方教育 33.3	心の健康づくりに関する学習機会の提供／精神科医療体制の充実 23.8

（４）地域で安心して暮らすために必要なこと

問 36　地域の中で安心して暮らすためにどんなことが必要なことと思いますか。【複数回答】

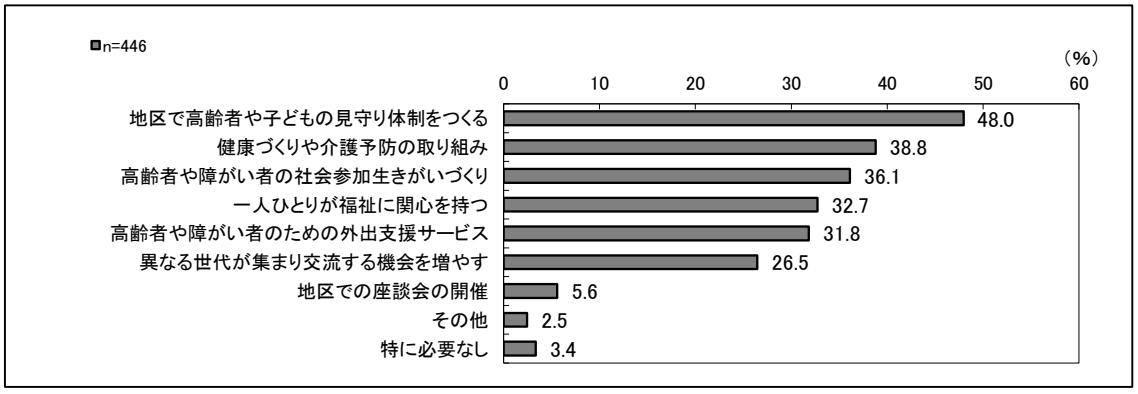
▼

● 「地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる」が第１位、「健康づくりや介護予防の取り組み」、「高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり」が続く。

地域で安心して暮らすために必要なことについては、「地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる」(48.0%) が第１位、次いで、「健康づくりや介護予防の取り組み」(38.8%)、「高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり」(36.1%)、「一人ひとりが福祉に関心を持つ」(32.7%)、「高齢者や障がい者のための外出支援サービス」(31.8%)、「異なる世代が集まり交流する機会を増やす」(26.5%)、「地区での座談会の開催」(5.6%) となっている。

属性別でみると、各層において、地域の中で安心して暮らすために必要と思う内容は多様である。

図表　地域で安心して暮らすために必要なこと（全体／複数回答）



図表　地域で安心して暮らすために必要なこと（全体、属性別／複数回答）（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 48.0	健康づくりや介護予防の取り組み 38.8	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 36.1
性別	男性	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 46.8	健康づくりや介護予防の取り組み 40.9	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり／一人ひとりが福祉に関心を持つ 37.1
	女性	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 49.0	健康づくりや介護予防の取り組み 37.2	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 36.4
年齢	20 代	異なる世代が集まり交流する機会を増やす／地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 38.5		高齢者や障がい者のための外出支援サービス／一人ひとりが福祉に関心を持つ 26.9
	30 代	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 46.2	健康づくりや介護予防の取り組み 32.7	高齢者や障がい者のための外出支援サービス／一人ひとりが福祉に関心を持つ 26.9
	40 代	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 49.4	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 36.7	高齢者や障がい者のための外出支援サービス 35.4
	50 代	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 52.2	健康づくりや介護予防の取り組み 49.3	一人ひとりが福祉に関心を持つ 43.3
	60 代	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 50.4	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり／健康づくりや介護予防の取り組み 42.1	
	70 歳以上	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 44.8	一人ひとりが福祉に関心を持つ 41.7	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり／健康づくりや介護予防の取り組み 38.5
世帯構成	単身世帯	一人ひとりが福祉に関心を持つ 43.5	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 41.9	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 35.5
	夫婦だけの世帯	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 48.3	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 39.8	高齢者や障がい者のための外出支援サービス／健康づくりや介護予防の取り組み 39.0
	親と子どもだけの世帯	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 47.5	健康づくりや介護予防の取り組み 40.3	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 34.3
	親と子どもと孫の三世代世帯	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 58.0	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 42.0	一人ひとりが福祉に関心を持つ 38.0
	その他	健康づくりや介護予防の取り組み 53.6	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 50.0	異なる世代が集まり交流する機会を増やす／高齢者や障がい者のための外出支援サービス／高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 28.6
居住地区	瑞浪地区	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 51.1	健康づくりや介護予防の取り組み 35.3	高齢者や障がい者のための外出支援サービス／高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり／一人ひとりが福祉に関心を持つ 34.8
	土岐地区	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 49.2	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 44.4	健康づくりや介護予防の取り組み 38.1
	明世地区	健康づくりや介護予防の取り組み 58.1	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 51.6	高齢者や障がい者のための外出支援サービス 35.5
	稲津町	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 51.2	高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 41.9	健康づくりや介護予防の取り組み 37.2
	陶町	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる／健康づくりや介護予防の取り組み 50.0		高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 35.7
	日吉町	地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる 50.0	健康づくりや介護予防の取り組み／一人ひとりが福祉に関心を持つ 40.9	
	釜戸町	異なる世代が集まり交流する機会を増やす 39.3	高齢者や障がい者のための外出支援サービス／高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 32.1	
	大湫町	高齢者や障がい者のための外出支援サービス 85.7	異なる世代が集まり交流する機会を増やす／地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる／高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり／健康づくりや介護予防の取り組み 28.6	
	その他	健康づくりや介護予防の取り組み／一人ひとりが福祉に関心を持つ 38.1		地区で高齢者や子どもの見守り体制をつくる／高齢者や障がい者のための外出支援サービス／高齢者や障がい者の社会参加生きがいづくり 33.3

10　瑞浪市社会福祉協議会について

（１）社会福祉協議会の認知状況

問 37　あなたは、社会福祉協議会を知っていますか。

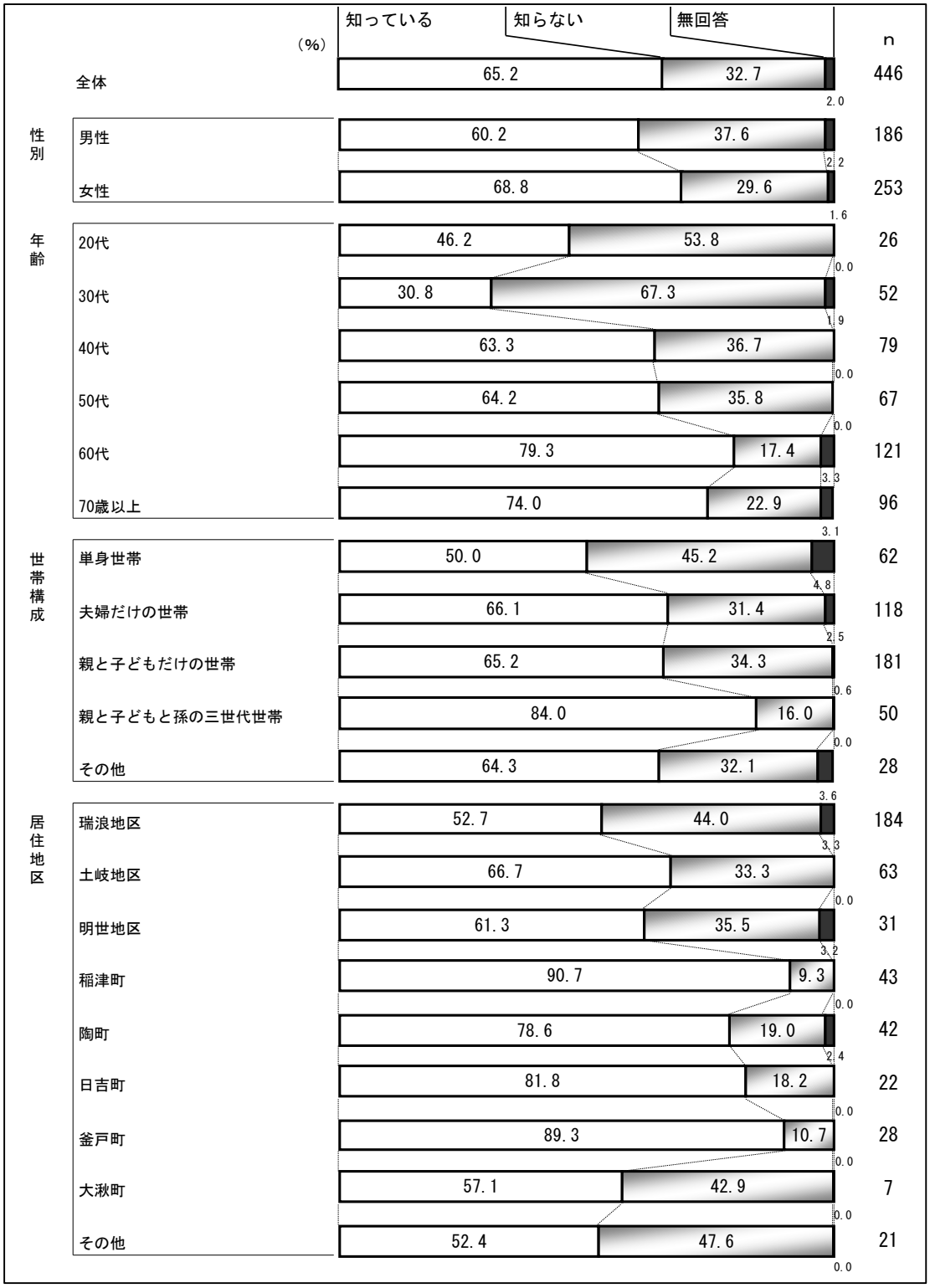
▼

● 「知っている」が６割台半ばを占める。

社会福祉協議会の認知状況は、「知っている」が 65.2%、一方、「知らない」が 32.7%となっている。

属性別で「知っている」の率をみると、年齢別の 60 代、70 歳以上では７割を超えるのに対し、30 代では約３割にとどまるなど、若年層の認知度が低い傾向がみられる。

図表　社会福祉協議会の認知状況



（２）知っている社会福祉協議会の活動

【問 37 で「１．知っている」と答えた方のみ】
問 37-1　あなたが知っている瑞浪市社会福祉協議会の活動は次のうちのどれですか。
【複数回答】

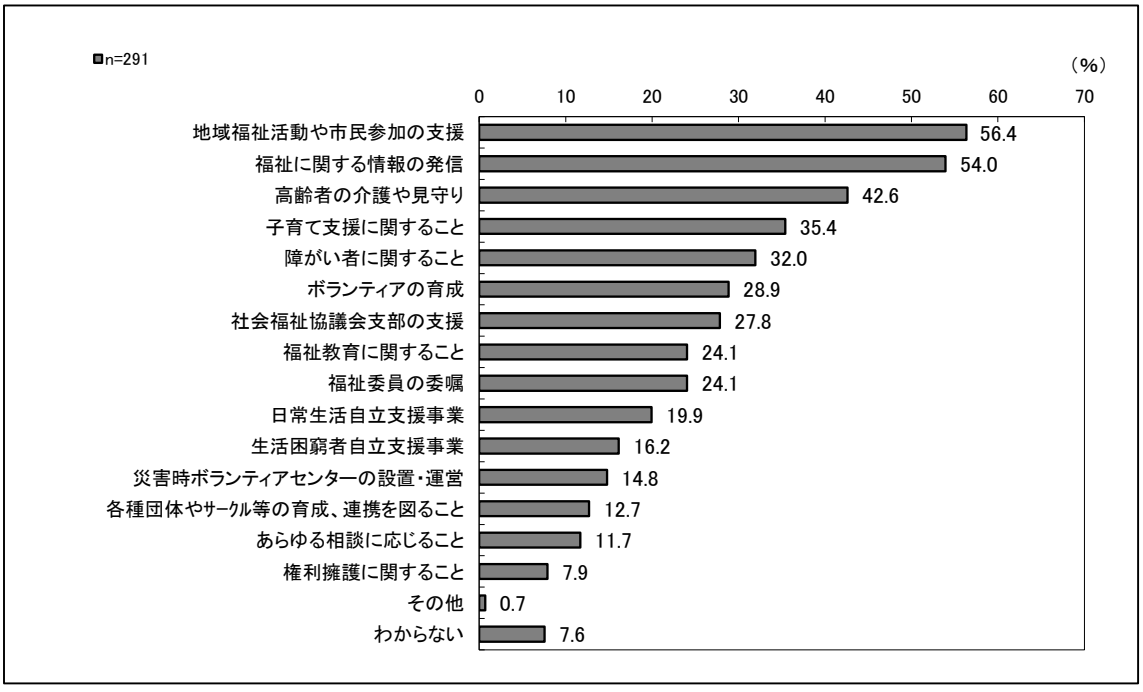
▼

● 「地域福祉活動や市民参加の支援」が第１位、「福祉に関する情報の発信」、「高齢者の介護や見守り」が続く。

問 37 で「１．知っている」と答えた方（291 名・全体の 65.2%）に、社会福祉協議会の活動のうち知っているものをたずねたところ、「地域福祉活動や市民参加の支援」（56.4%）が第１位、次いで、「福祉に関する情報の発信」（54.0%）、「高齢者の介護や見守り」(42.6%)、「子育て支援に関すること」(35.4%)、「障がい者に関すること」(32.0%)、「ボランティアの育成」(28.9%)、「社会福祉協議会支部の支援」(27.8%)、「福祉教育に関すること」・「福祉委員の委嘱」(同率 24.1%)、「日常生活自立支援事業」(19.9%)、「生活困窮者自立支援事業」(16.2%)、「災害時ボランティアセンターの設置・運営」(14.8%)、「各種団体やサークル等の育成、連携を図ること」(12.7%)、「あらゆる相談に応じること」(11.7%)、「権利擁護に関すること」(7.9%) となっている。

属性別でみると、各層において、市社協の活動に対する認知状況は多様である。

図表　知っている社会福祉協議会の活動（全体／複数回答）



図表　知っている社会福祉協議会の活動（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		地域福祉活動や市民参加の支援 56.4	福祉に関する情報の発信 54.0	高齢者の介護や見守り 42.6
性別	男性	地域福祉活動や市民参加の支援 64.3	福祉に関する情報の発信 53.6	障がい者に関すること 40.2
	女性	福祉に関する情報の発信 53.4	地域福祉活動や市民参加の支援 51.7	高齢者の介護や見守り 45.4
年齢	20代	地域福祉活動や市民参加の支援／福祉に関する情報の発信 41.7		ボランティアの育成／障がい者に関すること 33.3
	30代	地域福祉活動や市民参加の支援 56.3	子育て支援に関すること 50.0	福祉教育に関すること／福祉に関する情報の発信／高齢者の介護や見守り 37.5
	40代	地域福祉活動や市民参加の支援 58.0	福祉に関する情報の発信 56.0	子育て支援に関すること 38.0
	50代	地域福祉活動や市民参加の支援 55.8	福祉に関する情報の発信 53.5	高齢者の介護や見守り 44.2
	60代	福祉に関する情報の発信 60.4	地域福祉活動や市民参加の支援 59.4	高齢者の介護や見守り 44.8
	70歳以上	地域福祉活動や市民参加の支援／高齢者の介護や見守り 54.9		福祉に関する情報の発信 49.3
世帯構成	単身世帯	地域福祉活動や市民参加の支援／高齢者の介護や見守り／障がい者に関すること 54.8		
	夫婦だけの世帯	福祉に関する情報の発信 53.8	地域福祉活動や市民参加の支援 51.3	高齢者の介護や見守り 44.9
	親と子どもだけの世帯	地域福祉活動や市民参加の支援 58.5	福祉に関する情報の発信 57.6	高齢者の介護や見守り 41.5
	親と子どもと孫の三世代世帯	地域福祉活動や市民参加の支援 64.3	福祉に関する情報の発信 54.8	ボランティアの育成／高齢者の介護や見守り／子育て支援に関すること 33.3
	その他	地域福祉活動や市民参加の支援／高齢者の介護や見守り 50.0		福祉に関する情報の発信 44.4
居住地区	瑞浪地区	福祉に関する情報の発信 56.7	地域福祉活動や市民参加の支援 53.6	高齢者の介護や見守り 43.3
	土岐地区	地域福祉活動や市民参加の支援 59.5	福祉に関する情報の発信 54.8	子育て支援に関すること 40.5
	明世地区	地域福祉活動や市民参加の支援／福祉に関する情報の発信 68.4		高齢者の介護や見守り 63.2
	稲津町	地域福祉活動や市民参加の支援／福祉に関する情報の発信 46.2		子育て支援に関すること 41.0
	陶町	地域福祉活動や市民参加の支援 63.6	高齢者の介護や見守り 48.5	福祉に関する情報の発信 42.4
	日吉町	福祉に関する情報の発信 66.7	地域福祉活動や市民参加の支援 61.1	高齢者の介護や見守り／障がい者に関すること／子育て支援に関すること 44.4
	釜戸町	地域福祉活動や市民参加の支援 48.0	社会福祉協議会支部の支援 44.0	福祉に関する情報の発信 40.0
	大湫町	地域福祉活動や市民参加の支援／福祉教育に関すること／福祉に関する情報の発信 50.0		
	その他	地域福祉活動や市民参加の支援 81.8	福祉に関する情報の発信 72.7	高齢者の介護や見守り／子育て支援に関すること 45.5

（３）社会福祉協議会の利用状況

問 38　あなたは、社会福祉協議会を利用したことがありますか。

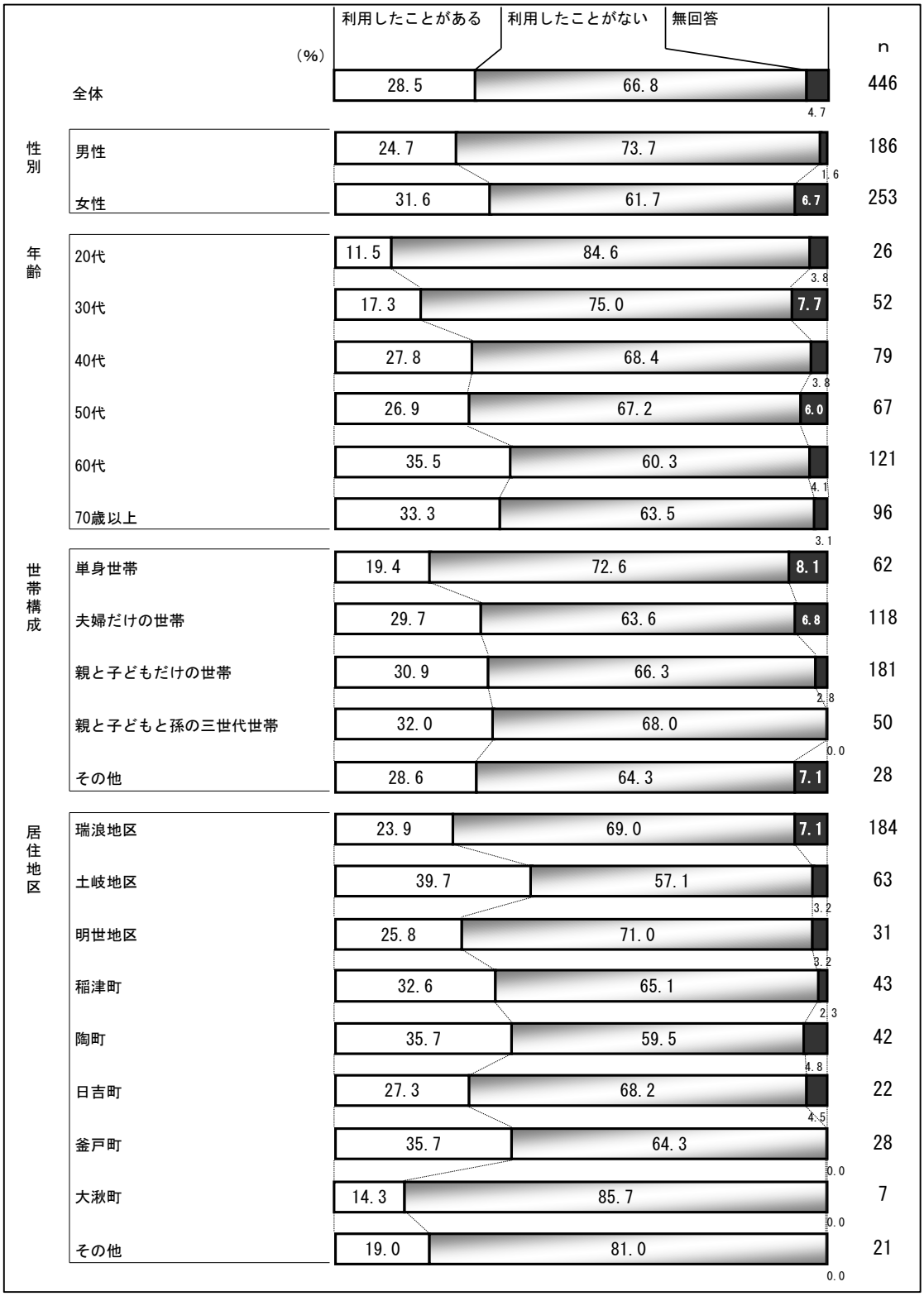
▼

●　「利用したことがない」が７割弱を占める。

社会福祉協議会の利用状況は、「利用したことがない」が 66.8%、一方、「利用したことがある」が 28.5%となっている。

属性別でみると、年齢別では、概ね年齢層の高さに比例して、利用度が高くなる傾向がみられる。

図表　社会福祉協議会の利用状況



（４）どのようなことで利用したか

【問 38 で「１．利用したことがある」と答えた方のみ】
問 38-1　どのようなことで利用されましたか。【複数回答】

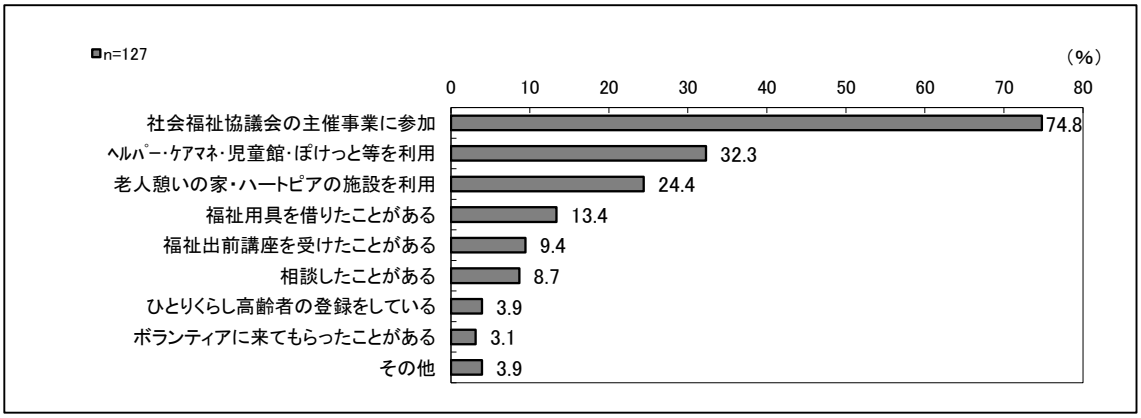
▼

● 「社会福祉協議会の主催事業に参加」が他を引き離して第１位。

問 38 で「１．利用したことがある」と答えた方（127 名・全体の 28.5%）に、どのようなことで利用したかたずねたところ、「社会福祉協議会の主催事業に参加」（74.8%）が第１位、次いで、「ヘルパー・ケアマネ・児童館・ぽけっと等を利用」（32.3%）、「老人憩いの家・ハートピアの施設を利用」（24.4%）、「福祉用具を借りたことがある」（13.4%）、「福祉出前講座を受けたことがある」（9.4%）、「相談したことがある」（8.7%）、「ひとりくらし高齢者の登録をしている」（3.9%）、「ボランティアに来てもらったことがある」（3.1%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「社会福祉協議会の主催事業に参加」が第１位となっている。（居住地区別の日吉町では「ヘルパー・ケアマネ・児童館・ぽけっと等を利用」が第１位）

図表　どのようなことで利用したか（全体／複数回答）



図表　どのようなことで利用したか（全体、属性別／複数回答）　（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		社会福祉協議会の主催事業に参加 74.8	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 32.3	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 24.4
性別	男性	社会福祉協議会の主催事業に参加 76.1	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 26.1	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 21.7
	女性	社会福祉協議会の主催事業に参加 73.8	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 36.3	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 25.0
年齢	20代	社会福祉協議会の主催事業に参加 66.7	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 33.3	
	30代	社会福祉協議会の主催事業に参加 77.8	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 55.6	
	40代	社会福祉協議会の主催事業に参加 68.2	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 45.5	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用／相談したことがある 13.6
	50代	社会福祉協議会の主催事業に参加 66.7	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用／老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 33.3	
	60代	社会福祉協議会の主催事業に参加 81.4	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 27.9	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 25.6
	70歳以上	社会福祉協議会の主催事業に参加 75.0	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用／老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 28.1	
世帯構成	単身世帯	社会福祉協議会の主催事業に参加 58.3	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 33.3	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 16.7
	夫婦だけの世帯	社会福祉協議会の主催事業に参加 74.3	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用／老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 22.9	
	親と子どもだけの世帯	社会福祉協議会の主催事業に参加 78.6	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 33.9	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 28.6
	親と子どもと孫の三世代世帯	社会福祉協議会の主催事業に参加 81.3	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 37.5	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 25.0
	その他	社会福祉協議会の主催事業に参加 62.5	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 50.0	福祉用具を借りたことがある 37.5
居住地区	瑞浪地区	社会福祉協議会の主催事業に参加 70.5	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用／老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 29.5	
	土岐地区	社会福祉協議会の主催事業に参加 80.0	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 36.0	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 24.0
	明世地区	社会福祉協議会の主催事業に参加 62.5	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用／福祉用具を借りたことがある 37.5	
	稲津町	社会福祉協議会の主催事業に参加 78.6	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 35.7	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用／福祉出前講座を受けたことがある 21.4
	陶町	社会福祉協議会の主催事業に参加 80.0	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 40.0	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 20.0
	日吉町	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用 50.0	社会福祉協議会の主催事業に参加 33.3	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用／福祉用具を借りたことがある／ボランティアに来てもらったことがある 16.7
	釜戸町	社会福祉協議会の主催事業に参加 100.0	老人憩いの家・ハートピアの施設を利用 30.0	福祉出前講座を受けたことがある 20.0
	大湫町	社会福祉協議会の主催事業に参加 100.0		
	その他	社会福祉協議会の主催事業に参加 75.0	福祉用具を借りたことがある 50.0	ﾍﾙﾊﾟｰ･ｹｱﾏﾈ･児童館･ぽけっと等を利用／老人憩いの家・ハートピアの施設を利用／福祉出前講座を受けたことがある 25.0

（５）現在の社会福祉協議会について

問 39　あなたは、現在の社会福祉協議会についてどう思われますか。

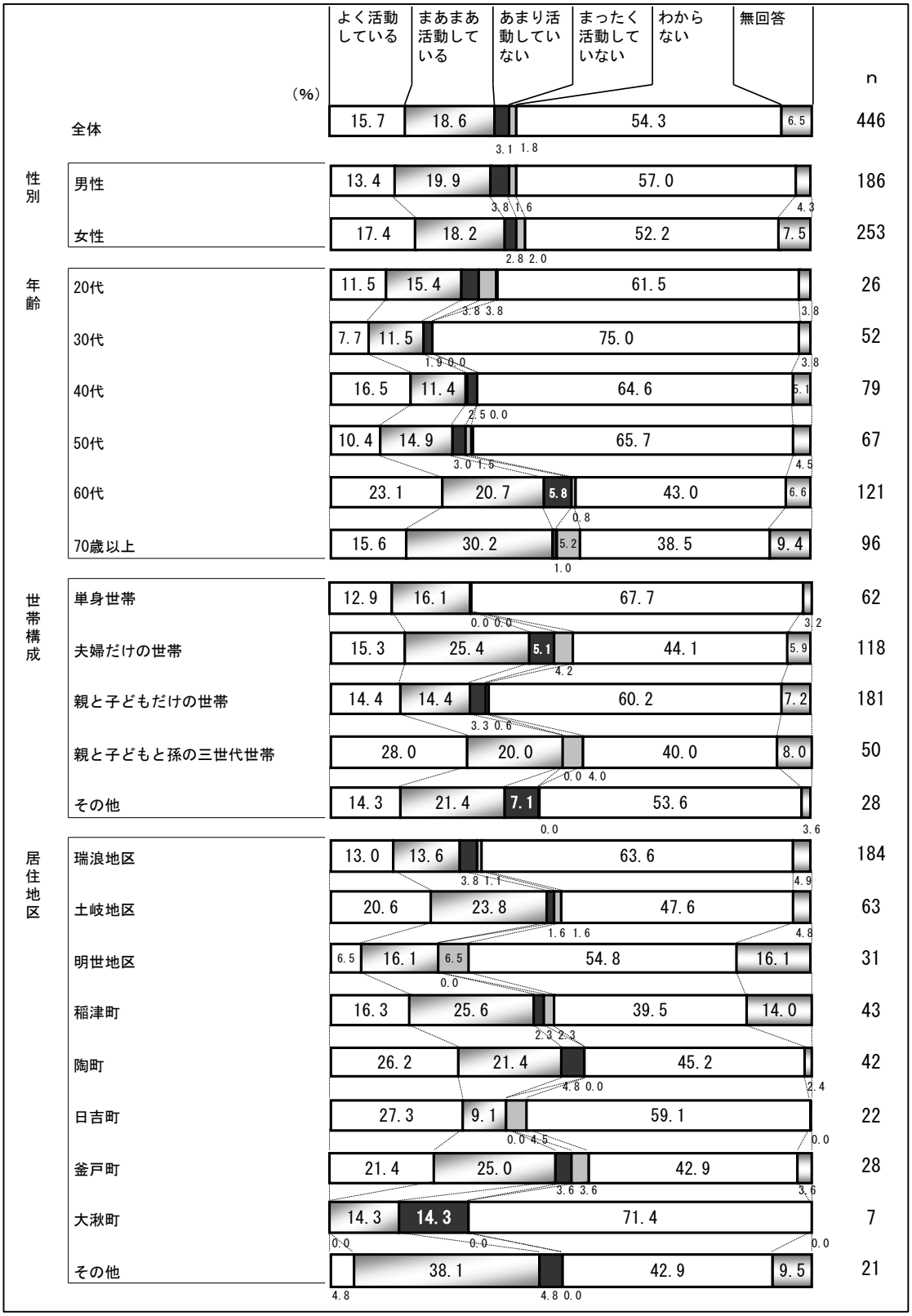
▼

● “活動している”が３割台半ばを占める。

現在の社会福祉協議会についてどう思っているかたずねたところ、「まあまあ活動している」（18.6%）が最も多く、これに「よく活動している」（15.7%）を合わせた“活動している”は 34.3%となっている。一方､活動していない”(「あまり活動していない」(3.1%)と「まったく活動していない」（1.8%）の合計）は 4.9%となっている。なお、「わからない」は 54.3%となっている。

属性別でみると、年齢別では、比較的高い年齢層ほど、市社協の活動を高く評価していることがうかがえる。

図表　現在の社会福祉協議会について



（６）社会福祉協議会に期待すること

問 40　あなたが社会福祉協議会に期待することは何ですか。【複数回答】

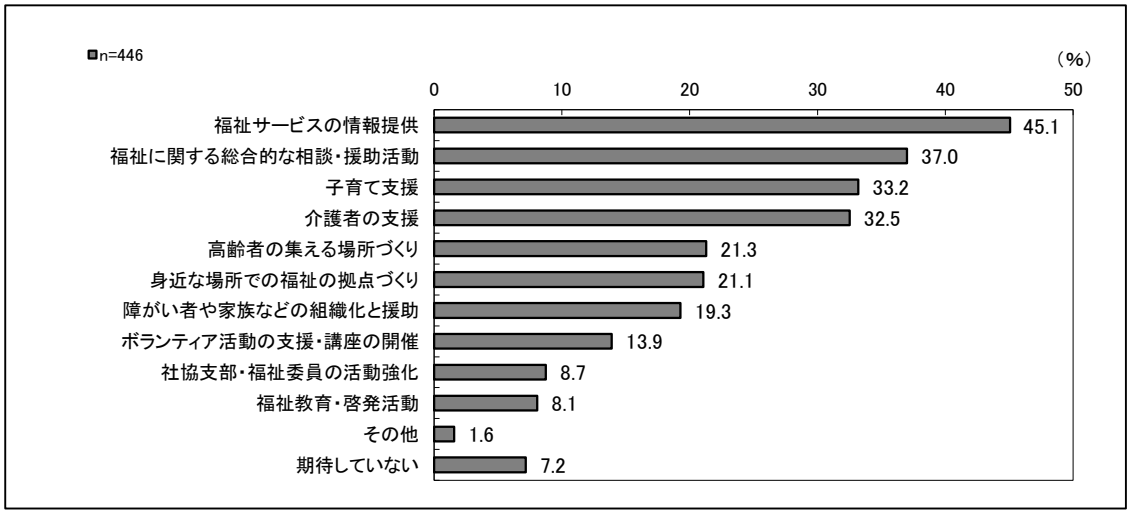
▼

● 「福祉サービスの情報提供」が第１位、「福祉に関する総合的な相談・援助活動」、「子育て支援」が続く。

社会福祉協議会に期待することは、「福祉サービスの情報提供」（45.1%）が第１位、次いで、「福祉に関する総合的な相談・援助活動」（37.0%）、「子育て支援」（33.2%）、「介護者の支援」（32.5%）、「高齢者の集える場所づくり」（21.3%）、「身近な場所での福祉の拠点づくり」（21.1%）、「障がい者や家族などの組織化と援助」（19.3%）、「ボランティア活動の支援・講座の開催」（13.9%）、「社協支部・福祉委員の活動強化」（8.7%）、「福祉教育・啓発活動」（8.1%）となっている。なお、「期待していない」は 7.2%となっている。

属性別でみると、年齢別の 40 代以下では「子育て支援」、50 代以上では「福祉サービスの情報提供」がそれぞれ第１位となっており、年齢層によって市社協に期待する内容は異なることがうかがえる。

図表　社会福祉協議会に期待すること（全体／複数回答）



図表　社会福祉協議会に期待すること（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		福祉サービスの情報提供 45.1	福祉に関する総合的な相談・援助活動 37.0	子育て支援 33.2
性別	男性	福祉サービスの情報提供 45.2	福祉に関する総合的な相談・援助活動 36.6	介護者の支援 31.7
	女性	福祉サービスの情報提供 45.8	福祉に関する総合的な相談・援助活動／子育て支援 37.5	
年齢	20 代	子育て支援 50.0	介護者の支援 26.9	福祉に関する総合的な相談・援助活動 19.2
	30 代	子育て支援 65.4	福祉サービスの情報提供 30.8	福祉に関する総合的な相談・援助活動／介護者の支援 25.0
	40 代	子育て支援 41.8	福祉に関する総合的な相談・援助活動 39.2	福祉サービスの情報提供 34.2
	50 代	福祉サービスの情報提供 47.8	福祉に関する総合的な相談・援助活動 41.8	介護者の支援 34.3
	60 代	福祉サービスの情報提供 59.5	福祉に関する総合的な相談・援助活動 44.6	介護者の支援 38.0
	70 歳以上	福祉サービスの情報提供 51.0	福祉に関する総合的な相談・援助活動 34.4	介護者の支援 29.2
世帯構成	単身世帯	福祉サービスの情報提供 43.5	福祉に関する総合的な相談・援助活動 38.7	介護者の支援 29.0
	夫婦だけの世帯	福祉サービスの情報提供 50.0	福祉に関する総合的な相談・援助活動 42.4	子育て支援 33.1
	親と子どもだけの世帯	福祉サービスの情報提供 40.3	子育て支援 38.7	介護者の支援 33.7
	親と子どもと孫の三世代世帯	福祉サービスの情報提供 48.0	福祉に関する総合的な相談・援助活動 46.0	子育て支援 40.0
	その他	福祉サービスの情報提供 57.1	介護者の支援 35.7	福祉に関する総合的な相談・援助活動 28.6
居住地区	瑞浪地区	福祉サービスの情報提供 43.5	介護者の支援 35.9	福祉に関する総合的な相談・援助活動 35.3
	土岐地区	福祉サービスの情報提供 41.3	福祉に関する総合的な相談・援助活動 39.7	子育て支援 34.9
	明世地区	福祉サービスの情報提供 54.8	福祉に関する総合的な相談・援助活動 51.6	介護者の支援 35.5
	稲津町	福祉サービスの情報提供 44.2	福祉に関する総合的な相談・援助活動 32.6	介護者の支援／子育て支援 30.2
	陶町	福祉に関する総合的な相談・援助活動／子育て支援 47.6		福祉サービスの情報提供 42.9
	日吉町	福祉サービスの情報提供 59.1	福祉に関する総合的な相談・援助活動 50.0	介護者の支援 45.5
	釜戸町	福祉サービスの情報提供 46.4	高齢者の集える場所づくり 28.6	身近な場所での福祉の拠点づくり／福祉に関する総合的な相談・援助活動／介護者の支援 21.4
	大湫町	子育て支援 57.1	福祉サービスの情報提供 28.6	身近な場所での福祉の拠点づくり／高齢者の集える場所づくり／介護者の支援／障がい者や家族などの組織化と援助 14.3
	その他	福祉サービスの情報提供 57.1	子育て支援 38.1	福祉に関する総合的な相談・援助活動／介護者の支援 33.3

11　民生委員・児童委員について

（１）民生委員・児童委員について

問 41　あなたは民生委員・児童委員という言葉を聞いたことがありますか。

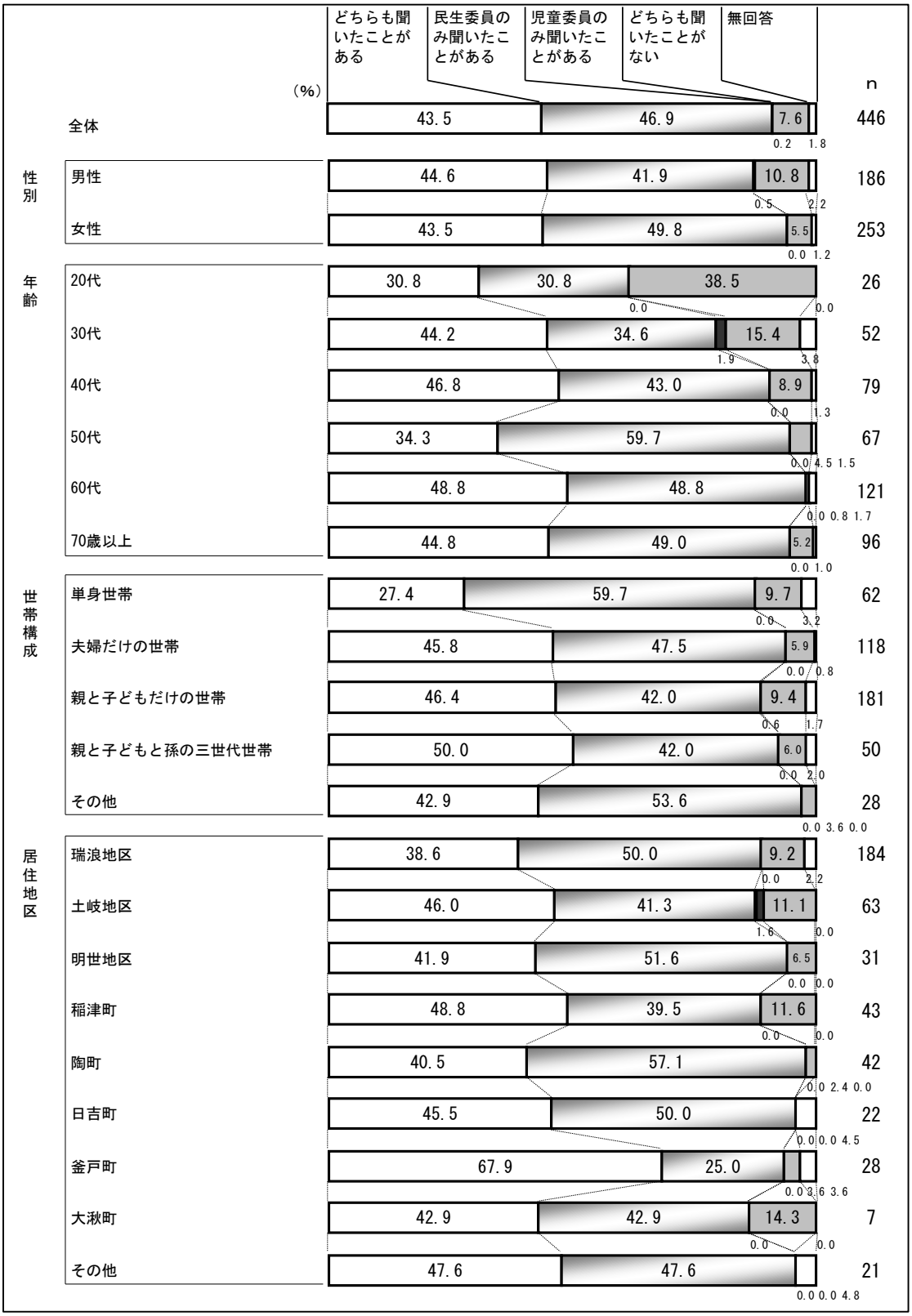
▼

● 「民生委員のみ聞いたことがある」が５割弱を占める。

民生委員・児童委員については、「民生委員のみ聞いたことがある」（46.9%）が最も多く、以下、「どちらも聞いたことがある」(43.5%)、「どちらも聞いたことがない」(7.6%)、「児童委員のみ聞いたことがある」（0.2%）となっている。

属性別でみると、年齢別では、概ね年齢層の高さに比例して、認知度が高くなる傾向がみられる。

図表　民生委員・児童委員について



（２）地域の民生委員・児童委員を知っているか

問 42　あなたはお住まいの地域の民生委員・児童委員を知っていますか。

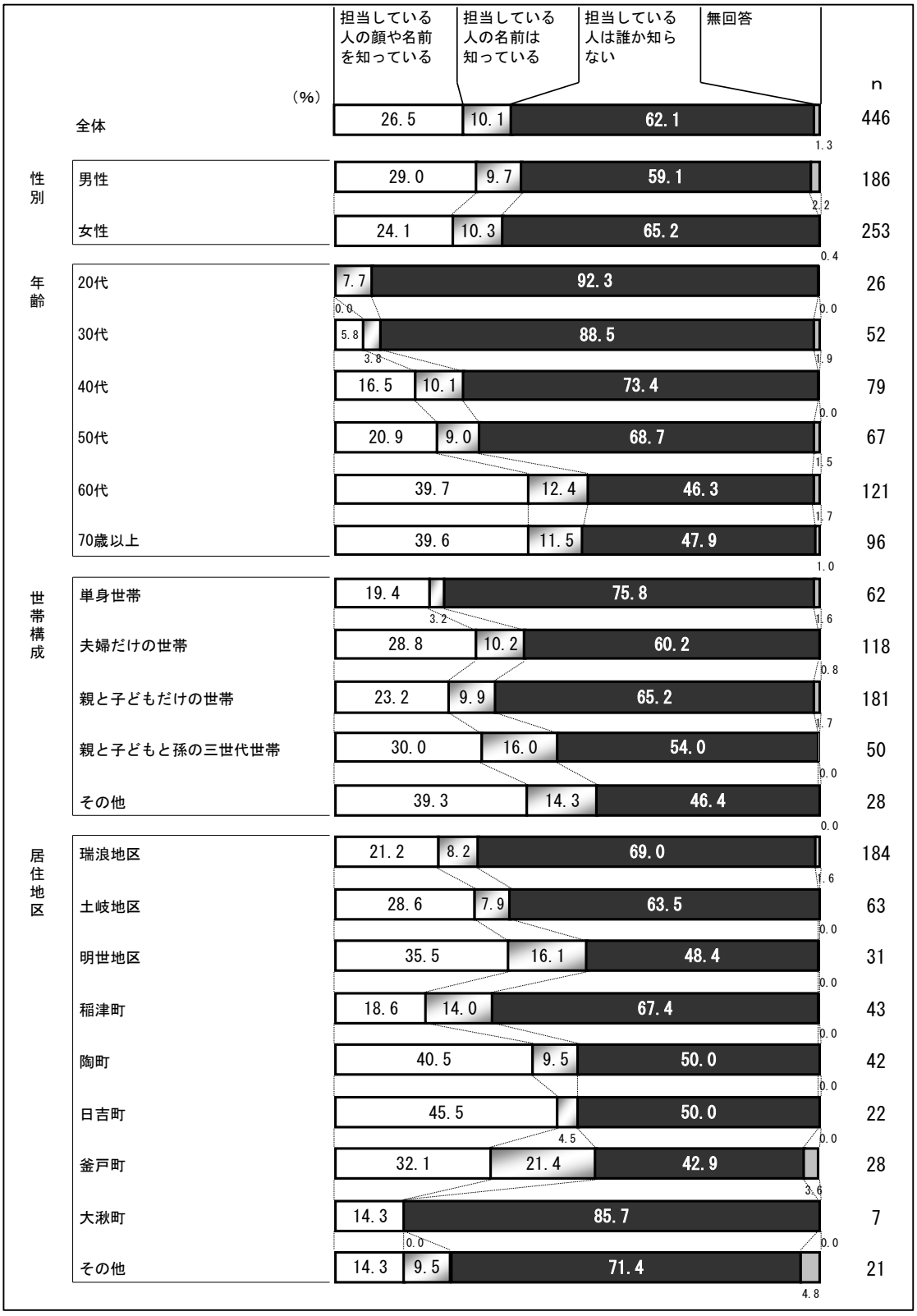
▼

● 「担当している人は誰か知らない」が６割強を占める。

地域の民生委員・児童委員を知っているかどうかについては、「担当している人は誰か知らない」(62.1%)が最も多く、以下、「担当している人の顔や名前を知っている」(26.5%)、「担当している人の名前は知っている」(10.1%) となっている。

属性別でみると、年齢別では、概ね年齢層の高さに比例して認知度が高くなる傾向がみられる。

図表　地域の民生委員・児童委員を知っているか



（３）民生委員・児童委員にどのような対応をして欲しいか

問 43　あなたが民生委員・児童委員に相談をする場合、どのような対応をして欲しいと思いますか。

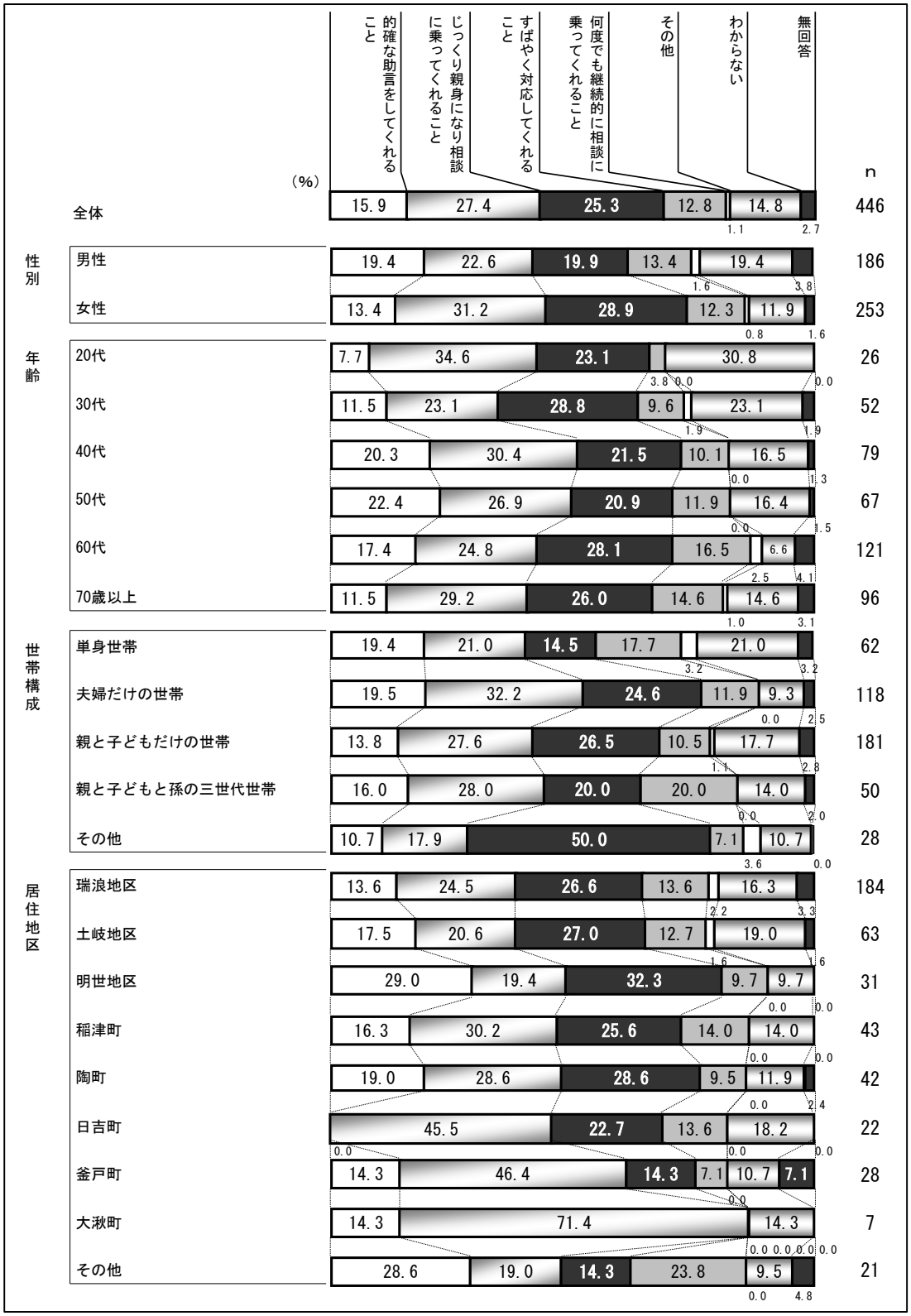
▼

● 「じっくり親身になり相談に乗ってくれること」が３割弱を占める。

民生委員・児童委員にどのような対応をして欲しいかについては、「じっくり親身になり相談に乗ってくれること」(27.4%) が最も多く、以下、「すばやく対応してくれること」(25.3%)、「的確な助言をしてくれること」(15.9%)、「何度でも継続的に相談に乗ってくれること」(12.8%) となっている。なお、「わからない」は 14.8%となっている。

属性別でみると、年齢別では、各層において全体と同様にじっくり親身になり相談に乗ってくれること」と「すばやく対応してくれること」が求められているが、40 代、50 代では「的確な助言をしてくれること」の率が２割以上にのぼり、的確性も求められていることがうかがえる。

図表　民生委員・児童委員にどのような対応をして欲しいか



12　災害時における助け合いについて

（１）災害時の備えとして重要だと思うこと

問 44　南海トラフ大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どんなことが重要だと思いますか。【複数回答】

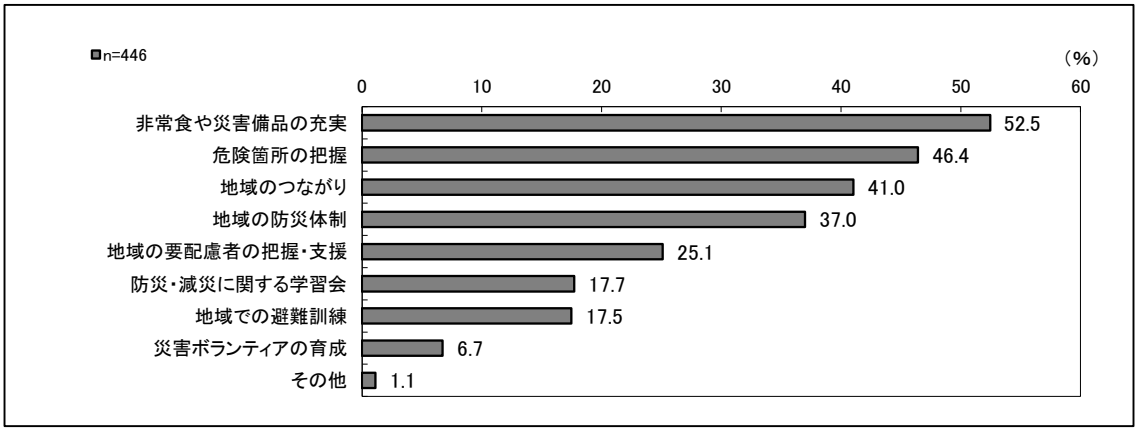
▼

● 「非常食や災害備品の充実」が第１位、「危険箇所の把握」、「地域のつながり」が続く。

災害時の備えとして重要だと思うことは、「非常食や災害備品の充実」（52.5%）が第１位、次いで、「危険箇所の把握」（46.4%）、「地域のつながり」（41.0%）、「地域の防災体制」（37.0%）、「地域の要配慮者の把握・支援」（25.1%）、「防災・減災に関する学習会」（17.7%）、「地域での避難訓練」（17.5%）、「災害ボランティアの育成」（6.7%）となっている。

属性別でみると、年齢別の 50 代以上では「地域のつながり」が上位となっているが、40 代以下においては上位３位内にはあげられておらず、災害時の備えとして「地域のつながり」を重視する意識は低いことがうかがえる。

図表　災害時の備えとして重要だと思うこと（全体／複数回答）



図表　災害時の備えとして重要だと思うこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		非常食や災害備品の充実 52.5	危険箇所の把握 46.4	地域のつながり 41.0
性別	男性	非常食や災害備品の充実 53.2	危険箇所の把握 43.5	地域のつながり 39.8
	女性	非常食や災害備品の充実 51.4	危険箇所の把握 48.2	地域のつながり 42.3
年齢	20 代	非常食や災害備品の充実 80.8	危険箇所の把握 57.7	地域の防災体制 46.2
	30 代	非常食や災害備品の充実 63.5	地域の防災体制 57.7	危険箇所の把握 50.0
	40 代	非常食や災害備品の充実 60.8	危険箇所の把握 50.6	地域の防災体制 43.0
	50 代	非常食や災害備品の充実 50.7	地域のつながり／危険箇所の把握 41.8	
	60 代	地域のつながり 45.5	非常食や災害備品の充実 43.0	危険箇所の把握 42.1
	70 歳以上	地域のつながり／危険箇所の把握 45.8		非常食や災害備品の充実 44.8
世帯構成	単身世帯	非常食や災害備品の充実 51.6	危険箇所の把握 46.8	地域の防災体制 40.3
	夫婦だけの世帯	地域のつながり 50.0	危険箇所の把握 47.5	非常食や災害備品の充実 42.4
	親と子どもだけの世帯	非常食や災害備品の充実 58.6	危険箇所の把握 46.4	地域の防災体制 39.8
	親と子どもと孫の三世代世帯	非常食や災害備品の充実 62.0	地域の防災体制 46.0	地域のつながり／危険箇所の把握 44.0
	その他	地域のつながり 50.0	危険箇所の把握 46.4	地域の防災体制 42.9
居住地区	瑞浪地区	非常食や災害備品の充実 57.6	危険箇所の把握 43.5	地域の防災体制 42.4
	土岐地区	非常食や災害備品の充実 57.1	危険箇所の把握 49.2	地域のつながり 39.7
	明世地区	危険箇所の把握 48.4	地域のつながり／非常食や災害備品の充実 41.9	
	稲津町	危険箇所の把握 51.2	地域の防災体制 48.8	地域のつながり 41.9
	陶町	地域のつながり 57.1	危険箇所の把握 47.6	非常食や災害備品の充実 42.9
	日吉町	地域のつながり 54.5	危険箇所の把握 50.0	非常食や災害備品の充実 45.5
	釜戸町	非常食や災害備品の充実 53.6	危険箇所の把握 50.0	地域の要配慮者の把握・支援 35.7
	大湫町	非常食や災害備品の充実 71.4	防災・減災に関する学習会／地域のつながり／地域の要配慮者の把握・支援／危険箇所の把握 42.9	
	その他	非常食や災害備品の充実 57.1	地域のつながり 52.4	危険箇所の把握 38.1

（２）被災直後に誰を頼りにするか

問 45　被災直後あなたは誰を頼りにしますか。【複数回答】

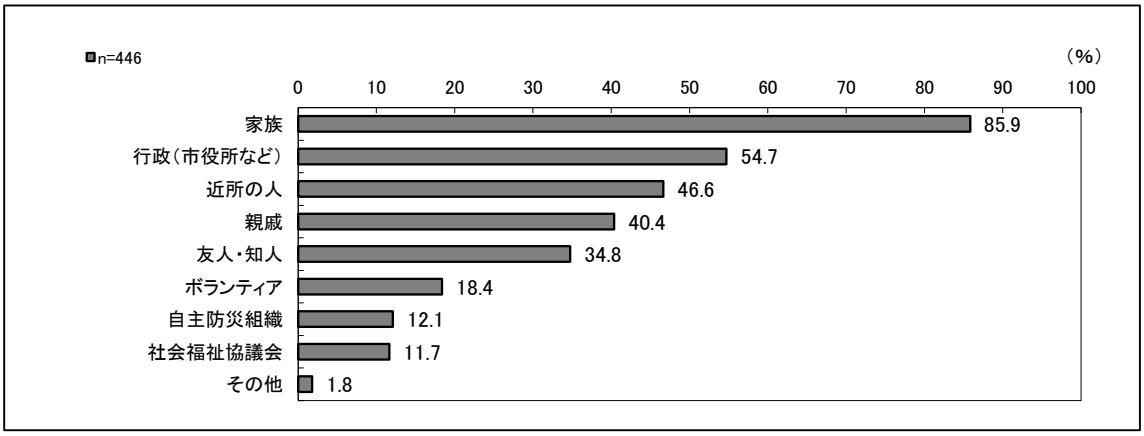
▼

● 「家族」が他を引き離して第１位。

被災直後に誰を頼りにするかは、「家族」（85.9%）が第１位、次いで、「行政（市役所など）」（54.7%）、「近所の人」（46.6%）、「親戚」（40.4%）、「友人・知人」（34.8%）、「ボランティア」（18.4%）、「自主防災組織」（12.1%）、「社会福祉協議会」（11.7%）となっている。

属性別でみても、すべての層で「家族」が第１位となっている。

図表　被災直後に誰を頼りにするか（全体／複数回答）



図表　被災直後に誰を頼りにするか（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		家族 85.9	行政（市役所など） 54.7	近所の人 46.6
性別	男性	家族 78.0	近所の人 52.7	行政（市役所など） 52.2
	女性	家族 91.7	行政（市役所など） 57.7	親戚 43.5
年齢	20 代	家族 88.5	行政（市役所など） 42.3	親戚／友人・知人 23.1
	30 代	家族 100.0	行政（市役所など） 44.2	親戚 36.5
	40 代	家族 82.3	行政（市役所など） 60.8	友人・知人 44.3
	50 代	家族 89.6	行政（市役所など） 53.7	親戚／近所の人 46.3
	60 代	家族 81.8	近所の人／行政（市役所など） 56.2	
	70 歳以上	家族 83.3	行政（市役所など） 59.4	近所の人 56.3
世帯構成	単身世帯	家族 64.5	行政（市役所など） 46.8	友人・知人 33.9
	夫婦だけの世帯	家族 89.8	行政（市役所など） 58.5	近所の人 50.8
	親と子どもだけの世帯	家族 88.4	行政（市役所など） 54.1	近所の人 44.8
	親と子どもと孫の三世代世帯	家族 92.0	行政（市役所など） 60.0	近所の人 54.0
	その他	家族 89.3	近所の人 57.1	行政（市役所など） 53.6
居住地区	瑞浪地区	家族 83.2	行政（市役所など） 53.3	近所の人 41.8
	土岐地区	家族 85.7	近所の人／行政（市役所など） 54.0	
	明世地区	家族 90.3	行政（市役所など） 54.8	近所の人 45.2
	稲津町	家族 93.0	行政（市役所など） 72.1	近所の人 51.2
	陶町	家族 88.1	近所の人 54.8	行政（市役所など） 47.6
	日吉町	家族 90.9	親戚 63.6	近所の人 59.1
	釜戸町	家族 71.4	近所の人 53.6	行政（市役所など） 46.4
	大湫町	家族 100.0	友人・知人／行政（市役所など） 57.1	
	その他	家族 95.2	行政（市役所など） 66.7	友人・知人 42.9

（３）災害等時の障がい者や高齢者への支援体制について

問 46　あなたは、災害時や緊急時において、まず、自分の命を守ることが重要ですが、障がい者やひとり暮らしの高齢者などに対して避難支援や安否確認などの支援を行うためには、どのような体制を充実することがよいと思いますか。

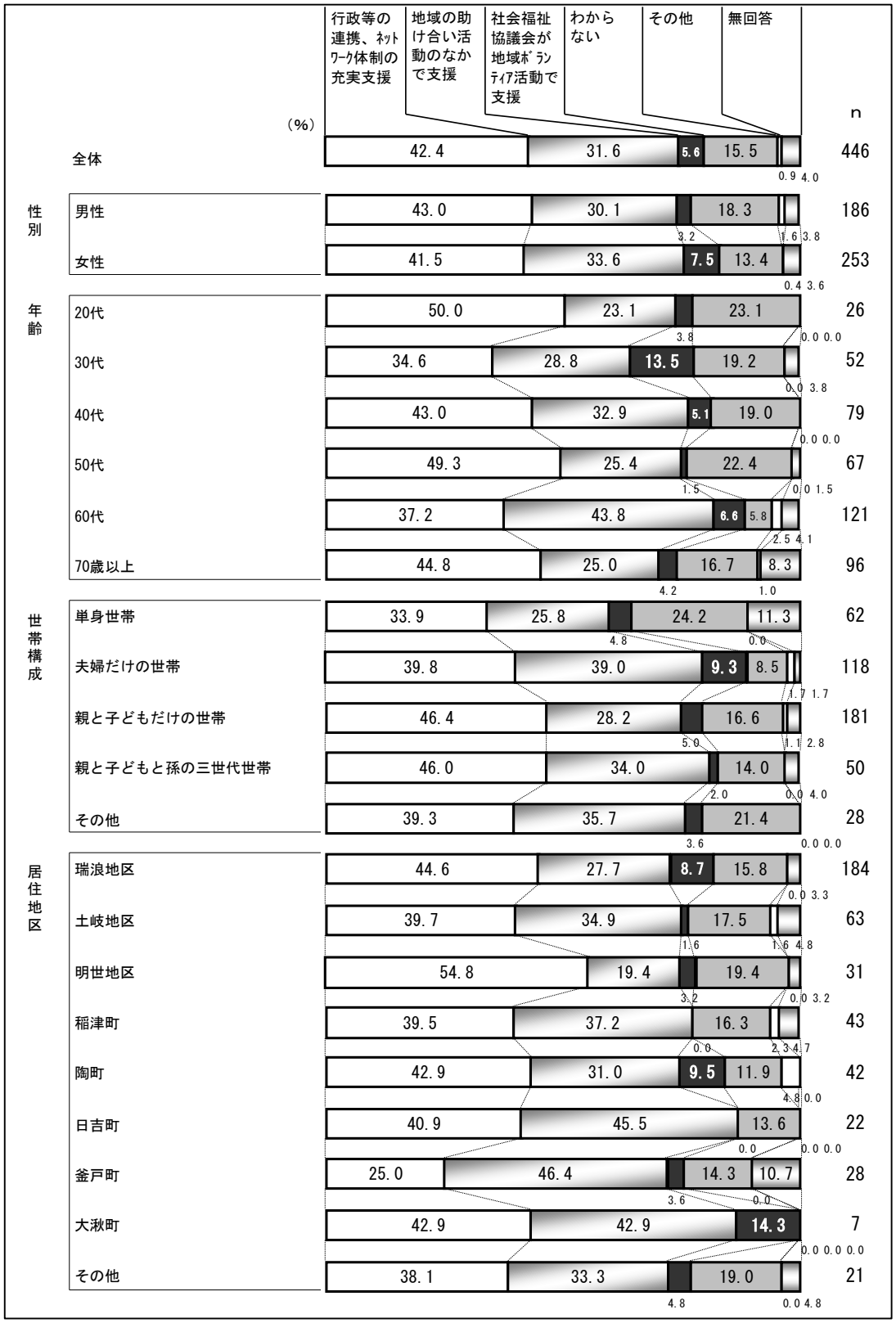
▼

● 「行政等の連携、ネットワーク体制の充実支援を行う」が４割強を占める。

災害等時の障がい者や高齢者への支援体制については、「行政等の連携、ネットワーク体制の充実支援を行う」（42.4%）が最も多く、以下、「地域の助け合い活動のなかで支援」（31.6%）、「社会福祉協議会が地域ボランティア活動で支援」（5.6%）となっている。

属性別でみると、年齢別ではほとんどの層で「行政等の連携、ネットワーク体制の充実支援を行う」が最も多くなっているが、60 代では「地域の助け合い活動のなかで支援」が最も多くなっており、相互扶助を重視していることがうかがえる。

図表　災害等時の障がい者や高齢者への支援体制について



（４）災害時要配慮者に対する対策として取り組むこと

問 47　あなたは、災害時や緊急時に備え、障がい者や高齢者など災害時要配慮者に対する対策として取り組むことは何だと思いますか。【複数回答】

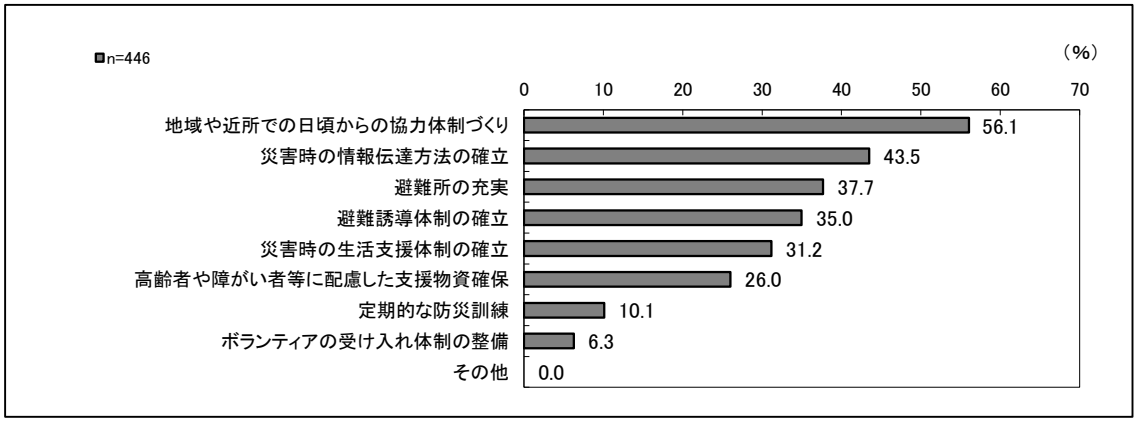
▼

● 「地域や近所での日頃からの協力体制づくり」が他を引き離して第１位。

災害時要配慮者に対する対策として取り組むべきことについてたずねたところ、「地域や近所での日頃からの協力体制づくり」（56.1%）が第１位、次いで、「災害時の情報伝達方法の確立」（43.5%）、「避難所の充実」（37.7%）、「避難誘導体制の確立」（35.0%）、「災害時の生活支援体制の確立」（31.2%）、「高齢者や障がい者等に配慮した支援物資確保」（26.0%）、「定期的な防災訓練」（10.1%）、「ボランティアの受け入れ体制の整備」（6.3%）となっている。

属性別でみると、年齢別では、30 代以下は「災害時の情報伝達方法の確立」、40 代以上では、「地域や近所での日頃からの協力体制づくり」がそれぞれ第１位となっている。

図表　災害時要配慮者に対する対策として取り組むこと（全体／複数回答）



図表　災害時要配慮者に対する対策として取り組むこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		地域や近所での日頃からの協力体制づくり 56.1	災害時の情報伝達方法の確立 43.5	避難所の充実 37.7
性別	男性	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 59.1	災害時の情報伝達方法の確立／避難誘導体制の確立 37.6	
	女性	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 54.2	災害時の情報伝達方法の確立 48.6	避難所の充実 38.7
年齢	20 代	災害時の情報伝達方法の確立／避難所の充実 53.8		地域や近所での日頃からの協力体制づくり 46.2
	30 代	災害時の情報伝達方法の確立 51.9	避難所の充実 50.0	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 46.2
	40 代	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 59.5	災害時の情報伝達方法の確立 45.6	避難誘導体制の確立／避難所の充実 34.2
	50 代	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 49.3	災害時の情報伝達方法の確立 44.8	避難誘導体制の確立 38.8
	60 代	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 61.2	災害時の情報伝達方法の確立 41.3	避難誘導体制の確立 34.7
	70 歳以上	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 59.4	災害時の情報伝達方法の確立 37.5	避難誘導体制の確立／避難所の充実 34.4
世帯構成	単身世帯	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 53.2	災害時の情報伝達方法の確立 35.5	高齢者や障がい者等に配慮した支援物資確保 32.3
	夫婦だけの世帯	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 57.6	災害時の情報伝達方法の確立 44.1	避難所の充実 41.5
	親と子どもだけの世帯	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 55.2	災害時の情報伝達方法の確立 45.3	避難誘導体制の確立 39.2
	親と子どもと孫の三世代世帯	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 60.0	災害時の情報伝達方法の確立 46.0	避難所の充実 32.0
	その他	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 53.6	災害時の情報伝達方法の確立 46.4	避難所の充実 39.3
居住地区	瑞浪地区	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 52.7	災害時の情報伝達方法の確立 41.3	避難所の充実 40.8
	土岐地区	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 63.5	災害時の情報伝達方法の確立 46.0	避難誘導体制の確立／避難所の充実 38.1
	明世地区	地域や近所での日頃からの協力体制づくり／災害時の情報伝達方法の確立 48.4		避難所の充実 41.9
	稲津町	地域や近所での日頃からの協力体制づくり／災害時の情報伝達方法の確立 55.8		避難誘導体制の確立 37.2
	陶町	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 69.0	避難所の充実 40.5	災害時の情報伝達方法の確立 38.1
	日吉町	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 68.2	災害時の情報伝達方法の確立 45.5	高齢者や障がい者等に配慮した支援物資確保／避難所の充実 40.9
	釜戸町	地域や近所での日頃からの協力体制づくり 46.4	避難誘導体制の確立 42.9	災害時の情報伝達方法の確立／高齢者や障がい者等に配慮した支援物資確保／災害時の生活支援体制の確立 28.6
	大湫町	災害時の情報伝達方法の確立／避難誘導体制の確立 71.4		地域や近所での日頃からの協力体制づくり 57.1
	その他	地域や近所での日頃からの協力体制づくり／災害時の情報伝達方法の確立／避難所の充実 47.6		

13　これからの市の福祉環境について

（１）瑞浪市をどんな福祉のまちにしたいか

問 48　あなたは瑞浪市をどんな「福祉のまち」にしたいと思いますか。【複数回答】

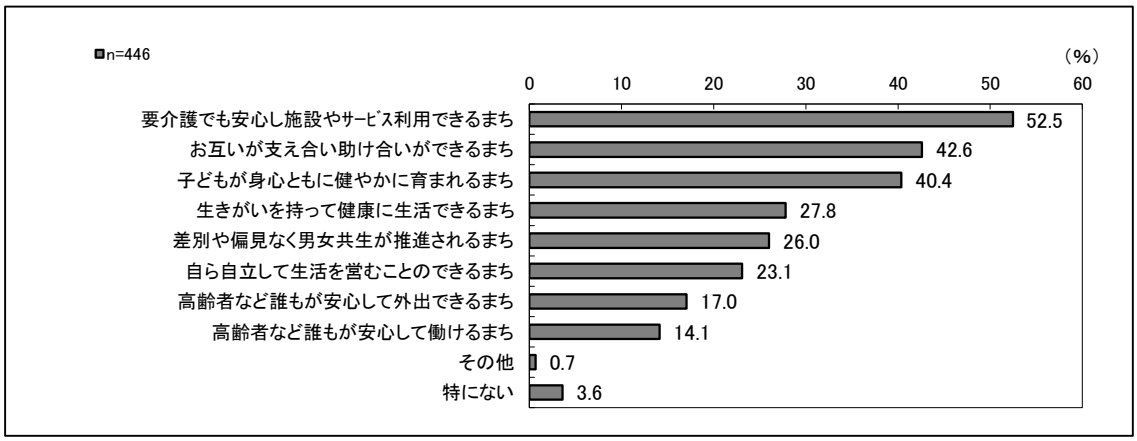
▼

● 「要介護でも安心し施設やサービス利用できるまち」が第１位、「お互いが支え合い助け合いができるまち」、「子どもが身心ともに健やかに育まれるまち」が続く。

瑞浪市をどんな福祉のまちにしたいと思うかたずねたところ、「要介護でも安心し施設やサービス利用できるまち」（52.5%）が第１位、次いで、「お互いが支え合い助け合いができるまち」（42.6%）、「子どもが身心ともに健やかに育まれるまち」（40.4%）、「生きがいを持って健康に生活できるまち」（27.8%）、「差別や偏見なく男女共生が推進されるまち」（26.0%）、「自ら自立して生活を営むことのできるまち」（23.1%）、「高齢者など誰もが安心して外出できるまち」（17.0%）、「高齢者など誰もが安心して働けるまち」（14.1%）となっている。

属性別でみると、各層において、市に求める福祉環境は多様である。

図表　瑞浪市をどんな福祉のまちにしたいか（全体／複数回答）



図表　瑞浪市をどんな福祉のまちにしたいか（全体、属性別／複数回答）（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 52.5	お互いが支え合い助け合いができるまち 42.6	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 40.4
性別	男性	お互いが支え合い助け合いができるまち 48.9	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 45.2	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 33.9
	女性	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 58.9	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 45.8	お互いが支え合い助け合いができるまち 38.3
年齢	20 代	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 53.8	差別や偏見なく男女共生が推進されるまち 42.3	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 30.8
	30 代	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 69.2	お互いが支え合い助け合いができるまち 38.5	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 36.5
	40 代	お互いが支え合い助け合いができるまち／子どもが身心ともに健やかに育まれるまち／要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 44.3		
	50 代	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 64.2	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 43.3	お互いが支え合い助け合いができるまち 40.3
	60 代	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 60.3	お互いが支え合い助け合いができるまち 47.1	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 30.6
	70 歳以上	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 57.3	お互いが支え合い助け合いができるまち 44.8	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち／生きがいを持って健康に生活できるまち 30.2
世帯構成	単身世帯	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 51.6	自ら自立して生活を営むことのできるまち 33.9	お互いが支え合い助け合いができるまち／差別や偏見なく男女共生が推進されるまち 32.3
	夫婦だけの世帯	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 61.9	お互いが支え合い助け合いができるまち 48.3	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 39.8
	親と子どもだけの世帯	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 47.5	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 45.3	お互いが支え合い助け合いができるまち 39.8
	親と子どもと孫の三世代世帯	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 60.0	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 48.0	お互いが支え合い助け合いができるまち 44.0
	その他	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 60.7	お互いが支え合い助け合いができるまち 57.1	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 35.7
居住地区	瑞浪地区	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 57.1	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 38.0	お互いが支え合い助け合いができるまち 37.5
	土岐地区	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 49.2	お互いが支え合い助け合いができるまち／要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 47.6	
	明世地区	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 54.8	お互いが支え合い助け合いができるまち 41.9	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 35.5
	稲津町	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 58.1	お互いが支え合い助け合いができるまち 44.2	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 41.9
	陶町	お互いが支え合い助け合いができるまち 50.0	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 45.2	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 42.9
	日吉町	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 54.5	お互いが支え合い助け合いができるまち／子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 50.0	
	釜戸町	要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 46.4	お互いが支え合い助け合いができるまち 35.7	生きがいを持って健康に生活できるまち 32.1
	大湫町	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち 71.4	お互いが支え合い助け合いができるまち 42.9	自ら自立して生活を営むことのできるまち／差別や偏見なく男女共生が推進されるまち／高齢者など誰もが安心して働けるまち／要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 28.6
	その他	お互いが支え合い助け合いができるまち 57.1	子どもが身心ともに健やかに育まれるまち／要介護でも安心し施設やｻｰﾋﾞｽ利用できるまち 47.6	

（２）瑞浪市の保健・福祉施策として今後重要な取り組み

問 49　あなたは、瑞浪市の保健・福祉施策として、今後、どのような取り組みが重要と思いますか。【複数回答】

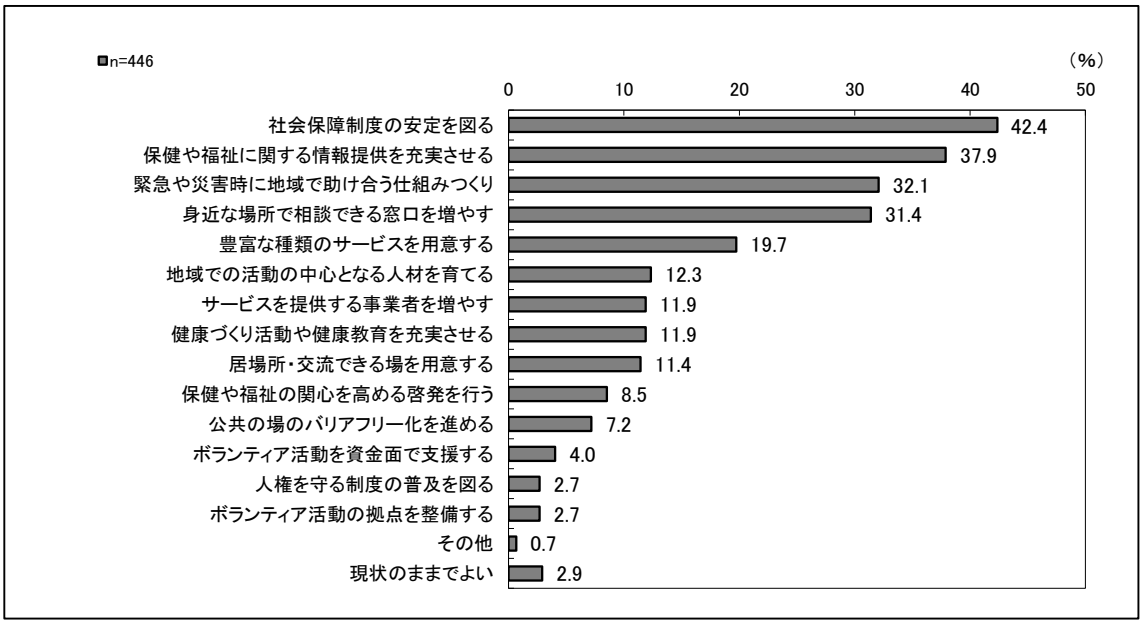
▼

●　「社会保障制度の安定を図る」が第１位、次いで、「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」、「緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり」が続く。

瑞浪市の保健・福祉施策として今後重要な取り組みは、「社会保障制度の安定を図る」（42.4%）が第１位、次いで、「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」（37.9%）、「緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり」（32.1%）、「身近な場所で相談できる窓口を増やす」（31.4%）、「豊富な種類のサービスを用意する」（19.7%）、「地域での活動の中心となる人材を育てる」（12.3%）、「サービスを提供する事業者を増やす」・「健康づくり活動や健康教育を充実させる」（同率 11.9%）、「居場所・交流できる場を用意する」（11.4%）、「保健や福祉の関心を高める啓発を行う」（8.5%）、「公共の場のバリアフリー化を進める」（7.2%）、「ボランティア活動を資金面で支援する」（4.0%）、「人権を守る制度の普及を図る」・「ボランティア活動の拠点を整備する」（同率 2.7%）となっている。

属性別でみると、各層において、市に求める保健・福祉に関する重点施策は多様である。

図表　瑞浪市の保健・福祉施策として今後重要な取り組み（全体／複数回答）



図表　瑞浪市の保健・福祉施策として今後重要な取り組み（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		社会保障制度の安定を図る 42.4	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 37.9	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 32.1
性別	男性	社会保障制度の安定を図る 37.1	身近な場所で相談できる窓口を増やす 36.0	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 32.8
	女性	社会保障制度の安定を図る 47.0	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 41.9	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 32.4
年齢	20 代	公共の場のバリアフリー化を進める／社会保障制度の安定を図る 34.6		身近な場所で相談できる窓口を増やす／緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 26.9
	30 代	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／社会保障制度の安定を図る 36.5		豊富な種類のサービスを用意する 28.8
	40 代	社会保障制度の安定を図る 53.2	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 39.2	身近な場所で相談できる窓口を増やす 31.6
	50 代	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 41.8	社会保障制度の安定を図る 40.3	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 31.3
	60 代	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／身近な場所で相談できる窓口を増やす／緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり／社会保障制度の安定を図る 38.0		
	70 歳以上	社会保障制度の安定を図る 46.9	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 38.5	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 37.5
世帯構成	単身世帯	社会保障制度の安定を図る 40.3	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／身近な場所で相談できる窓口を増やす 30.6	
	夫婦だけの世帯	社会保障制度の安定を図る 44.9	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 37.3	
	親と子どもだけの世帯	社会保障制度の安定を図る 40.3	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 39.8	身近な場所で相談できる窓口を増やす 33.1
	親と子どもと孫の三世代世帯	社会保障制度の安定を図る 46.0	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 36.0	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 28.0
	その他	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／社会保障制度の安定を図る 46.4		緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 39.3
居住地区	瑞浪地区	社会保障制度の安定を図る 50.5	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 42.4	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり／身近な場所で相談できる窓口を増やす 28.8
	土岐地区	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／身近な場所で相談できる窓口を増やす／社会保障制度の安定を図る 34.9		
	明世地区	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり／社会保障制度の安定を図る 38.7		保健や福祉に関する情報提供を充実させる／身近な場所で相談できる窓口を増やす 35.5
	稲津町	身近な場所で相談できる窓口を増やす 44.2	社会保障制度の安定を図る 41.9	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 32.6
	陶町	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 52.4	社会保障制度の安定を図る 40.5	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 33.3
	日吉町	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 50.0	社会保障制度の安定を図る 40.9	身近な場所で相談できる窓口を増やす／緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 31.8
	釜戸町	保健や福祉に関する情報提供を充実させる 32.1	身近な場所で相談できる窓口を増やす／緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり／社会保障制度の安定を図る 25.0	
	大湫町	緊急や災害時に地域で助け合う仕組みつくり 42.9	保健や福祉に関する情報提供を充実させる／公共の場のバリアフリー化を進める／地域での活動の中心となる人材を育てる 28.6	
	その他	身近な場所で相談できる窓口を増やす／社会保障制度の安定を図る 42.9		保健や福祉に関する情報提供を充実させる 28.6

14　自由意見

問 35　最後に、子育ての環境や支援、教育・保育環境の拡充などに関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

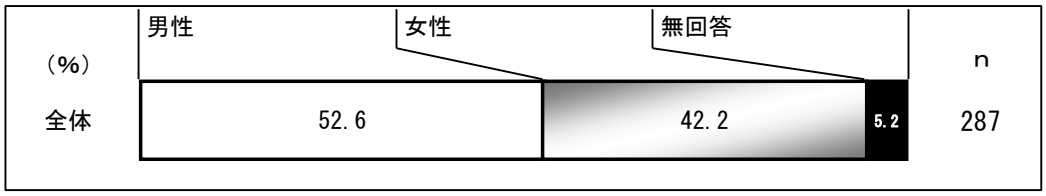
※別紙参照

２　中学生

１　回答者の属性

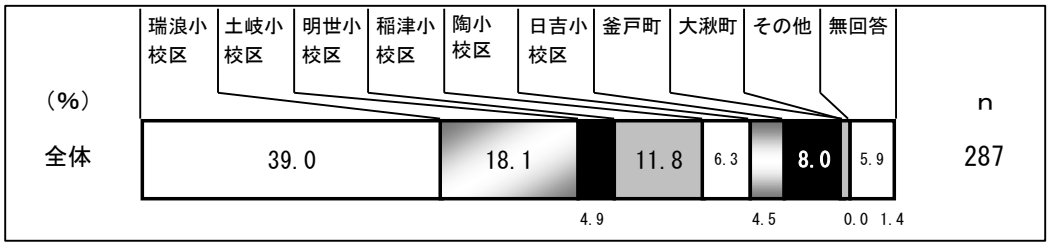
（１）性別

回答者の性別は、「男性」（52.6%）、「女性」（42.2%）となっている。



（２）居住地区

回答者の居住地区は、「瑞浪小校区」（39.0%）、「土岐小校区」（18.1%）、「稲津小校区」（11.8%）、「釜戸町」（8.0%）、「陶小校区」（6.3%）、「明世小校区」（4.9%）、「日吉小校区」（4.5%）となっている。



※中学生は、調査対象者に「大湫町」居住者がいなかったため、以下のクロス分析の居住地区別でも「大湫町」の表記を省略した。

２　日常生活について

（１）近所の人に会ったときにあいさつするか

問３　あなたは、近所の人に会ったときに、あいさつをしていますか。

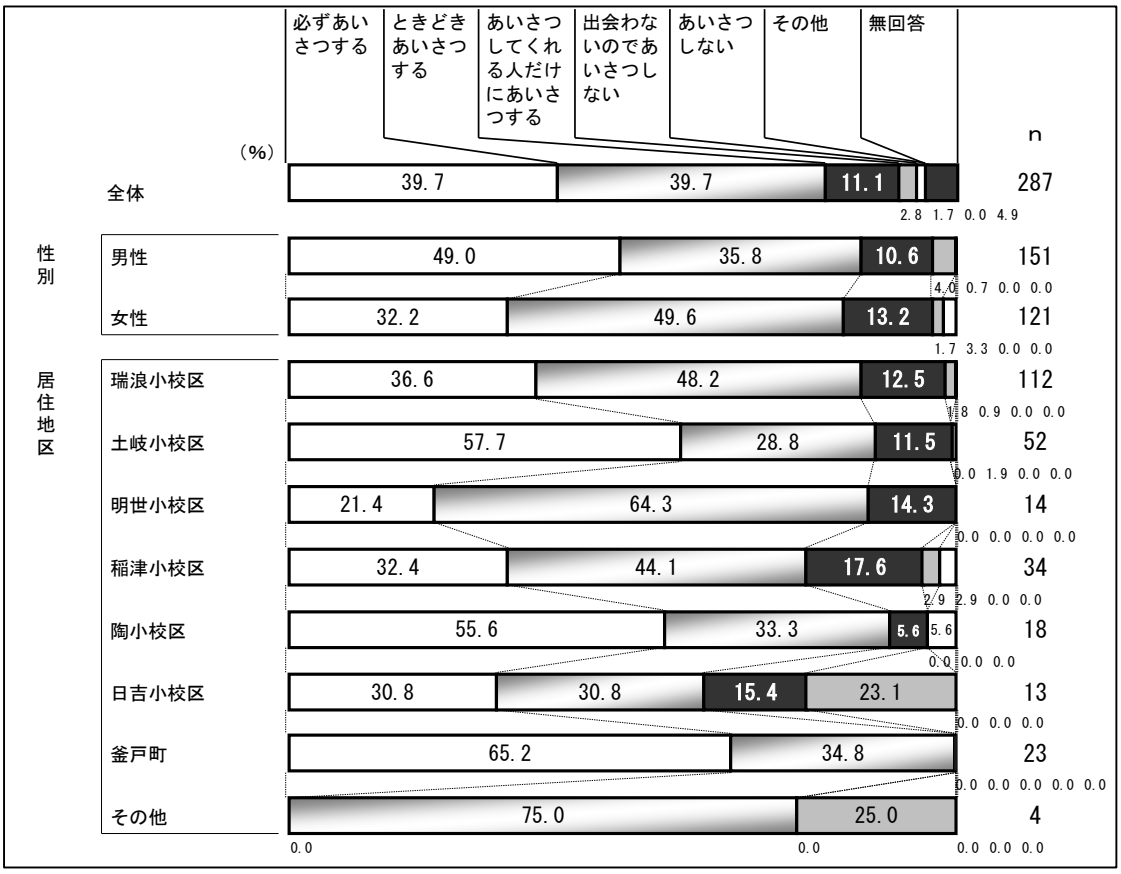
▼

● 「必ずあいさつする」と「ときどきあいさつする」がともに約４割を占める。

近所の人に会ったときにあいさつするかどうか、たずねたところ、「必ずあいさつする」・「ときどきあいさつする」（同率 39.7%）が最も多く、以下、「あいさつしてくれる人だけにあいさつする」（11.1%）、「出会わないのであいさつしない」（2.8%）、「あいさつしない」（1.7%）となっている。

属性別でみると、性別の男性では「必ずあいさつする」、女性では「ときどきあいさつする」がそれぞれ最も多くなっている。

図表　近所の人に会ったときにあいさつするか



（２）近所の人にあいさつされたり声をかけられたりするか

問４　あなたは、近所の人にあいさつされたり、声をかけられたりしますか。

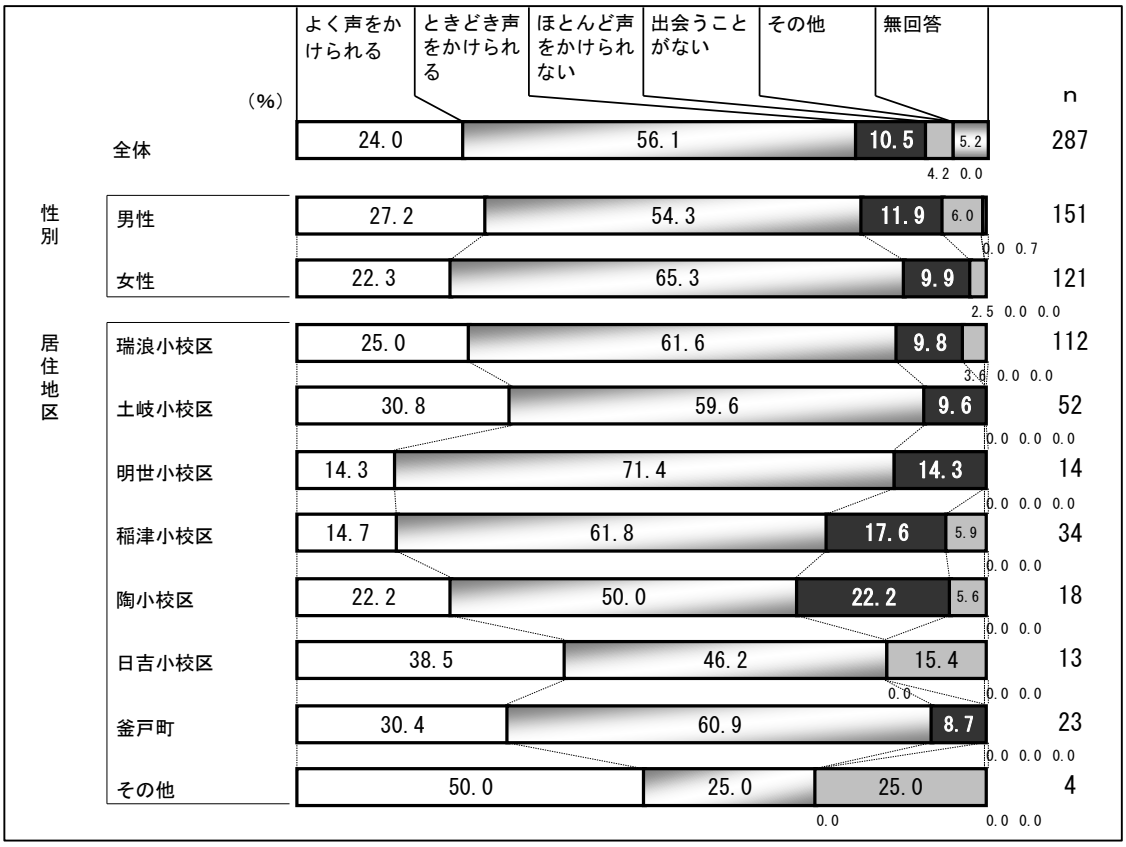
▼

● 「ときどき声をかけられる」が６割弱を占める。

近所の人にあいさつされたり声をかけられたりするかどうかたずねたところ、「ときどき声をかけられる」（56.1%）が最も多く、以下、「よく声をかけられる」（24.0%）、「ほとんど声をかけられない」（10.5%）、「出会うことがない」（4.2%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「ときどき声をかけられる」が最も多くなっている（居住地区別のその他では「よく声をかけられる」が第１位）

図表　近所の人にあいさつされたり声をかけられたりするか



（３）住んでいる地域について

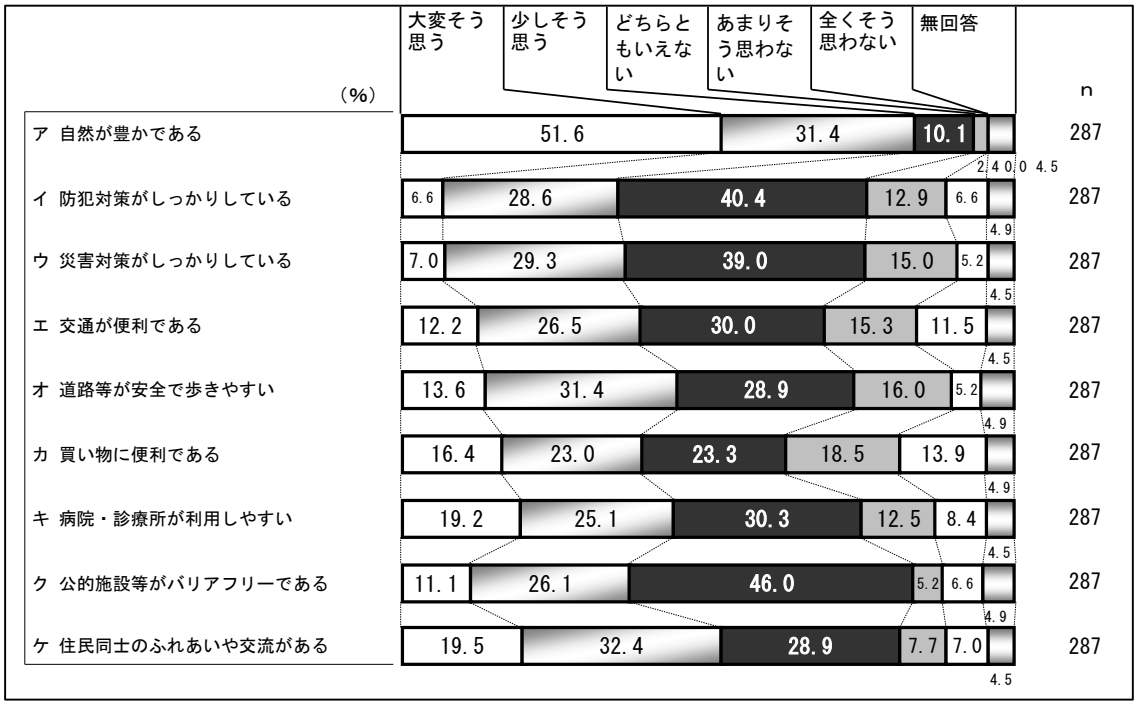
問５　あなたの住んでいる地域について教えてください。

▼

● 「ア 自然が豊かである」と“思う”が８割強を占める。

住んでいる地域については、「大変そう思う」と「少しそう思う」を合わせた“思う”の率が多い順にみると、「ア 自然が豊かである」（83.0%）が最も多く、以下、「ケ 住民同士のふれあいや交流がある」（51.9%）、「道路等が安全で歩きやすい」（45.0%）、「キ 病院・診療所が利用しやすい」（44.3%）、「カ 買い物に便利である」（39.4%）、「エ 交通が便利である」（38.7%）などが続いている。

図表　住んでいる地域について



３　ボランティアや地域活動について

（１）地域の行事に参加しているか

問６　あなたは、地域の行事（まつりなど）に参加していますか。

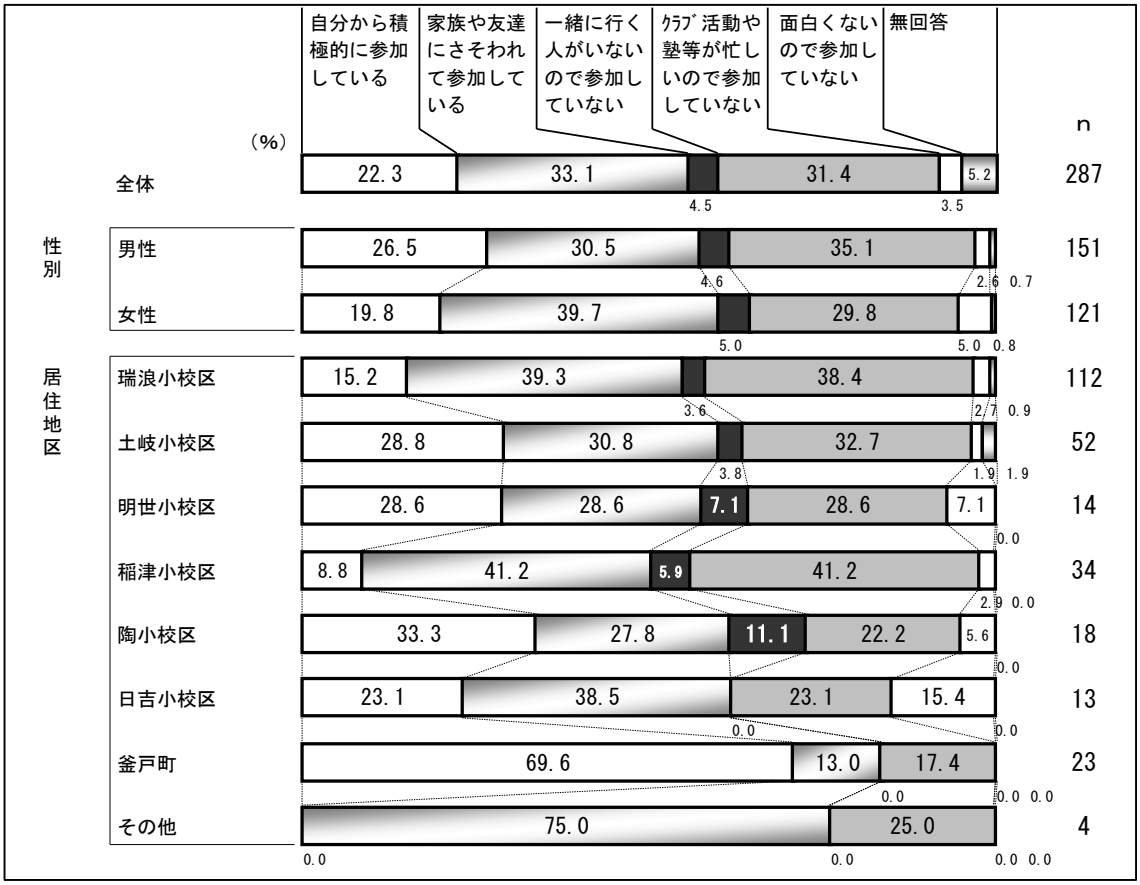
▼

● 「家族や友達にさそわれて参加している」が３割強を占める。

地域の行事に参加しているかどうか、たずねたところ、「家族や友達にさそわれて参加している」(33.1%) が最も多く、以下、「クラブ活動や塾等が忙しいので参加していない」(31.4%)、「自分から積極的に参加している」(22.3%)、「一緒に行く人がいないので参加していない」(4.5%)、「面白くないので参加していない」(3.5%) となっている。

属性別で「自分から積極的に参加している」の率をみると、居住地区別の釜戸町で約７割にのぼる一方、稲津小校区では１割に満たない。

図表　地域の行事に参加しているか



（２）ボランティア活動をしたことがあるか

問７　あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。

▼

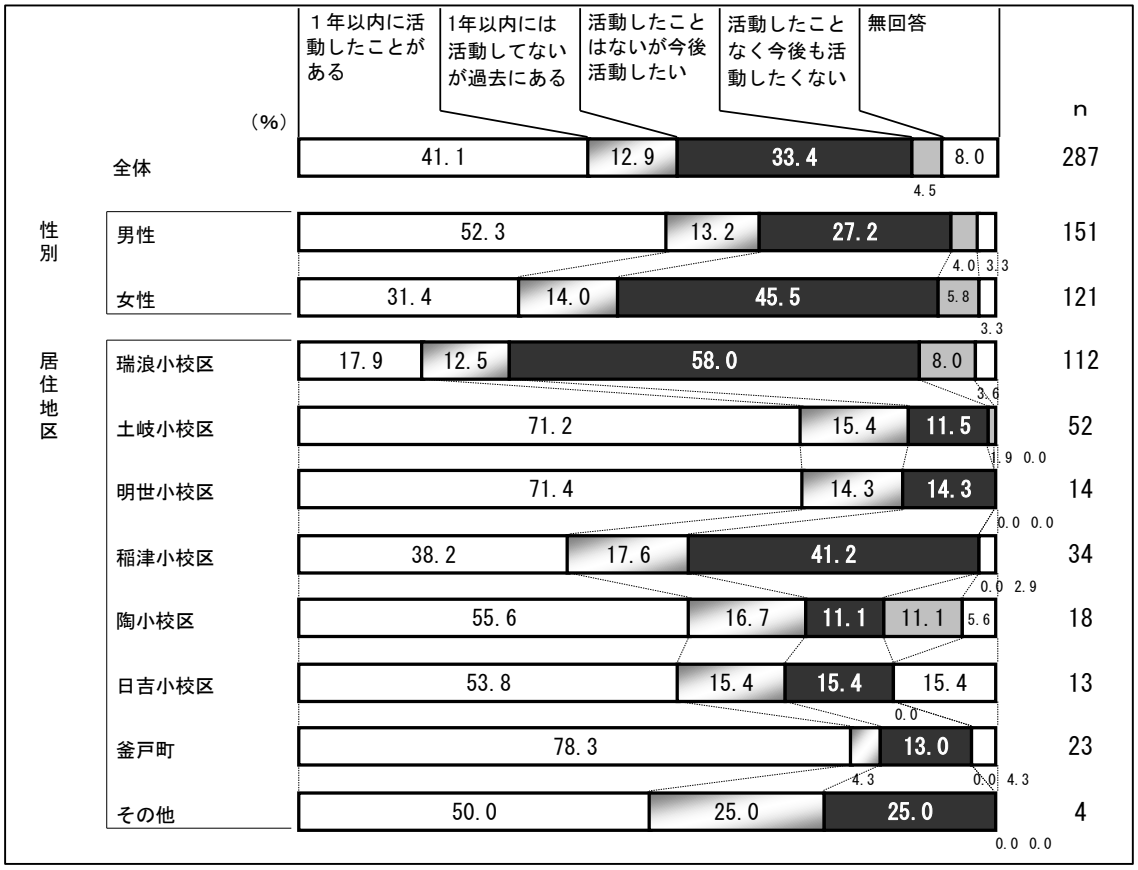
● 「１年以内に活動したことがある」が４割強を占める。

ボランティア活動をしたことがあるかどうかたずねたところ、「１年以内に活動したことがある」(41.1%) が最も多く、以下、「活動したことはないが今後活動したい」(33.4%)、「１年以内には活動してないが過去にある」(12.9%)、「活動したことなく今後も活動したくない」(4.5%) となっている。

属性別でみると、年齢別では女性より男性の活動経験が多い。

居住地区別では、土岐小校区、明世小校区、釜戸小校区で活動経験が８割を超える一方、瑞浪小校区では約３割にとどまる。

図表　ボランティア活動をしたことがあるか



（３）経験したボランティアの内容

【問７で「１．ここ１年以内に活動したことがある」、「２．ここ１年には活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方のみ】
問 7-1　どのようなボランティア活動をしましたか。【複数回答】

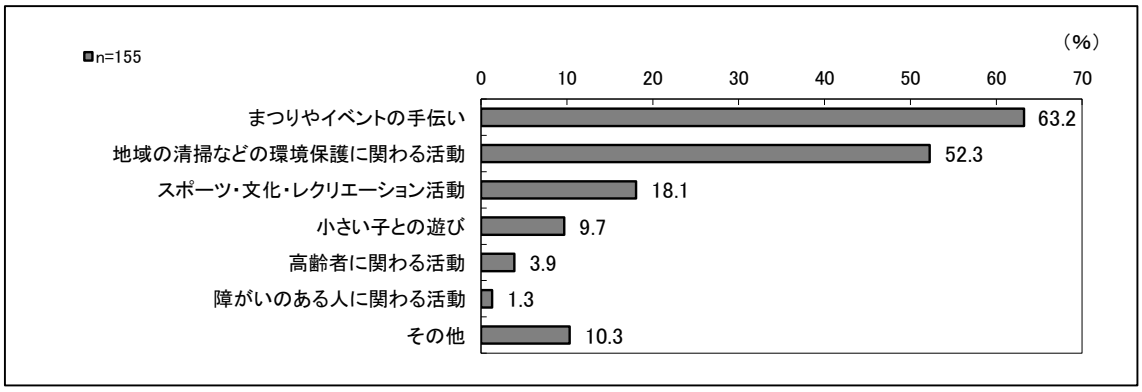
▼

● 「まつりやイベントの手伝い」が他を引き離して第１位。

問７で「１．ここ１年以内に活動したことがある」、「２．ここ１年には活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方（155 名・全体の 54.0%）に、経験したボランティアの内容をたずねたところ、「まつりやイベントの手伝い」（63.2%）が第１位、次いで、「地域の清掃などの環境保護に関わる活動」（52.3%）、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」（18.1%）、「小さい子との遊び」（9.7%）、「高齢者に関わる活動」（3.9%）、「障がいのある人に関わる活動」（1.3%）となっている。

属性別でみると、ほとんどの層で「まつりやイベントの手伝い」、「地域の清掃などの環境保護に関わる活動」が上位２位の項目となっているが、居住地区別の陶町では、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」が第２位となっている。

図表　経験したボランティアの内容（全体／複数回答）



図表　経験したボランティアの内容（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		まつりやイベントの手伝い 63.2	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 52.3	スポーツ・文化・レクリエーション活動 18.1
性別	男性	まつりやイベントの手伝い 66.7	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 49.5	スポーツ・文化・レクリエーション活動 22.2
	女性	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 58.2	まつりやイベントの手伝い 56.4	スポーツ・文化・レクリエーション活動 10.9
居住地区	瑞浪小校区	まつりやイベントの手伝い 52.9	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 44.1	小さい子との遊び 20.6
	土岐小校区	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 66.7	まつりやイベントの手伝い 48.9	スポーツ・文化・レクリエーション活動 17.8
	明世小校区	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 66.7	まつりやイベントの手伝い 50.0	スポーツ・文化・レクリエーション活動 16.7
	稲津小校区	まつりやイベントの手伝い 63.2	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 42.1	スポーツ・文化・レクリエーション活動 26.3
	陶小校区	まつりやイベントの手伝い 84.6	スポーツ・文化・レクリエーション活動 38.5	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 15.4
	日吉小校区	まつりやイベントの手伝い 100.0	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 33.3	
	釜戸町	まつりやイベントの手伝い 89.5	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 73.7	スポーツ・文化・レクリエーション活動 31.6
	その他	まつりやイベントの手伝い 66.7	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 33.3	

（４）誰と一緒に活動したか

【問７で「１．ここ１年以内に活動したことがある」、「２．ここ１年には活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方のみ】
問 7-2　誰と一緒に活動をしましたか。【複数回答】

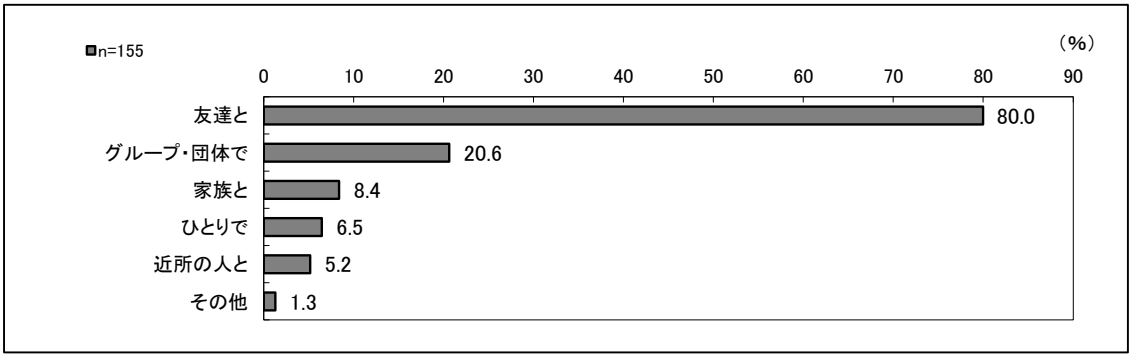
▼

● 「友達と」が他を引き離して第１位。

誰と一緒に活動したかについては、「友達と」（80.0%）が第１位、次いで、「グループ・団体で」（20.6%）、「家族と」（8.4%）、「ひとりで」（6.5%）、「近所の人と」（5.2%）となっている。

属性別でみても、すべての層で「友達と」が第１位となっている。

図表　誰と一緒に活動したか（全体／複数回答）



図表　誰と一緒に活動したか（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		友達と 80.0	グループ・団体で 20.6	家族と 8.4
性別	男性	友達と 78.8	グループ・団体で 22.2	家族と 10.1
	女性	友達と 81.8	グループ・団体で 18.2	ひとりで 7.3
居住地区	瑞浪小校区	友達と 70.6	グループ・団体で 29.4	近所の人と 11.8
	土岐小校区	友達と 84.4	ひとりで／グループ・団体で 13.3	
	明世小校区	友達と 75.0	家族と 25.0	近所の人と 8.3
	稲津小校区	友達と 78.9	グループ・団体で 15.8	家族と 10.5
	陶小校区	友達と 84.6	グループ・団体で 23.1	家族と 7.7
	日吉小校区	友達と 88.9	グループ・団体で 22.2	近所の人と 11.1
	釜戸町	友達と 78.9	グループ・団体で 42.1	家族と 5.3
	その他	友達と 100.0	家族と 33.3	

（５）今後参加したいボランティア活動

【問７で「３．活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方のみ】
問 7-3　あなたは、今後どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。【複数回答】

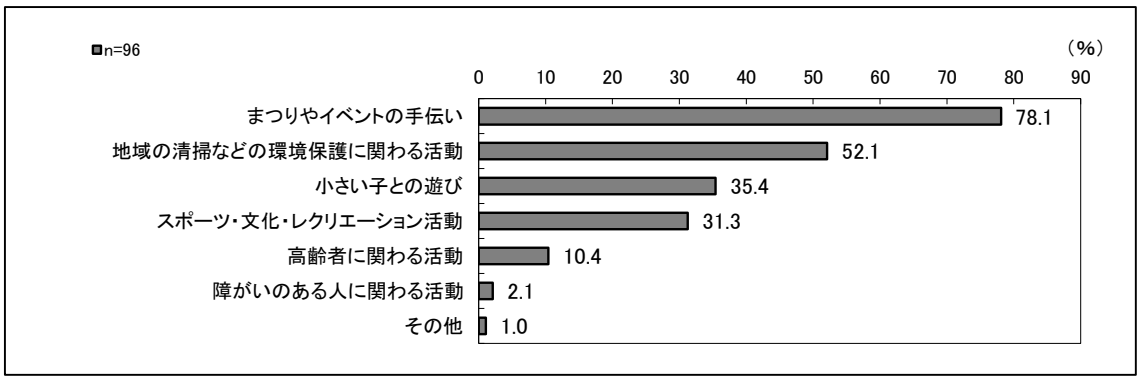
▼

● 「まつりやイベントの手伝い」が他を引き離して第１位。

問７で「３．活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方（96 名・33.4%）に、今後どのようなボランティア活動に参加したいかたずねたところ、「まつりやイベントの手伝い」（78.1%）が第１位、次いで、「地域の清掃などの環境保護に関わる活動」（52.1%）、「小さい子との遊び」（35.4%）、「スポーツ・文化・レクリエーション活動」（31.3%）、「高齢者に関わる活動」（10.4%）、「障がいのある人に関わる活動」（2.1%）となっている。

属性別でみると、各層において、今後参加したいボランティア活動の内容は多様である。

図表　今後参加したいボランティア活動（全体／複数回答）



図表　今後参加したいボランティア活動（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		まつりやイベントの手伝い 78.1	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 52.1	小さい子との遊び 35.4
性別	男性	まつりやイベントの手伝い 75.6	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 53.7	スポーツ・文化・レクリエーション活動 36.6
	女性	まつりやイベントの手伝い 80.0	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 50.9	小さい子との遊び 45.5
居住地区	瑞浪小校区	まつりやイベントの手伝い 76.9	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 58.5	小さい子との遊び 38.5
	土岐小校区	小さい子との遊び／まつりやイベントの手伝い 66.7		地域の清掃などの環境保護に関わる活動／スポーツ・文化・レクリエーション活動 50.0
	明世小校区	まつりやイベントの手伝い 100.0		
	稲津小校区	まつりやイベントの手伝い 85.7	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 42.9	スポーツ・文化・レクリエーション活動 35.7
	陶小校区	まつりやイベントの手伝い／スポーツ・文化・レクリエーション活動 100.0		小さい子との遊び 50.0
	日吉小校区	まつりやイベントの手伝い 100.0	地域の清掃などの環境保護に関わる活動 50.0	
	釜戸町	地域の清掃などの環境保護に関わる活動／まつりやイベントの手伝い／スポーツ・文化・レクリエーション活動 66.7		
	その他	スポーツ・文化・レクリエーション活動 100.0		

（６）ボランティア活動の参加で一番に考えること

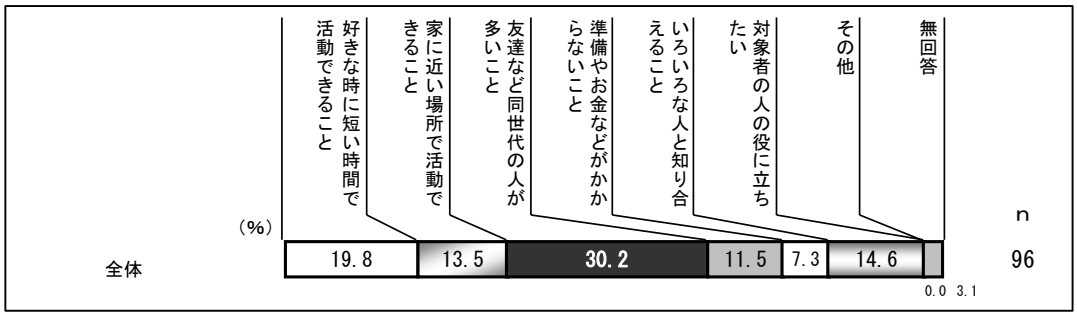
【問７で「３．活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方のみ】
問 7-4　あなたは、ボランティア活動に参加するために、何を一番に考えますか。

▼

● 「友達など同世代の人が多いこと」が約３割を占める。

ボランティア活動の参加で一番に考えることについては、「友達など同世代の人が多いこと」（30.2%）が最も多く、以下、「好きな時に短い時間で活動できること」（19.8%）、「対象者の人の役に立ちたい」（14.6%）、「家に近い場所で活動できること」（13.5%）、「準備やお金などがかからないこと」(11.5%)、「いろいろな人と知り合えること」(7.3%)となっている。

図表　ボランティア活動の参加で一番に考えること



（７）まわりに障がいや手助けが必要な高齢者はいるか

問８　あなたのまわりに、障がいのある人や手助けが必要な高齢者はいますか。

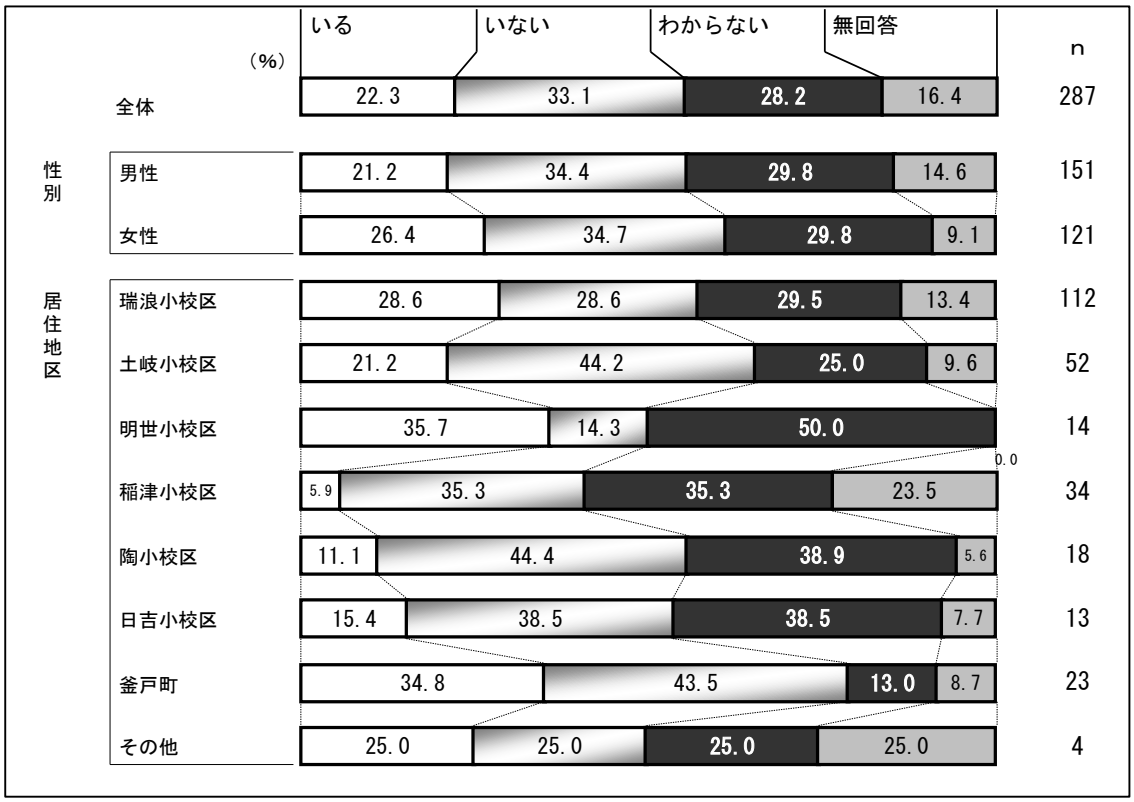
▼

● 「いない」が３割強を占める。

まわりに障がいや手助けが必要な高齢者がいるかどうかたずねたところ、「いない」が 33.1%、一方、「いる」が 22.3%となっている。なお、「わからない」は 28.2%となっている。

属性別で「いる」の率みると、居住地区別の明世小校区、釜戸町で３割を超える。

図表　まわりに障がいや手助けが必要な高齢者はいるか



（８）困っている人を見かけた時に手助けをしているか

問９　あなたは、困っている人を見かけた時、手助けをしていますか。

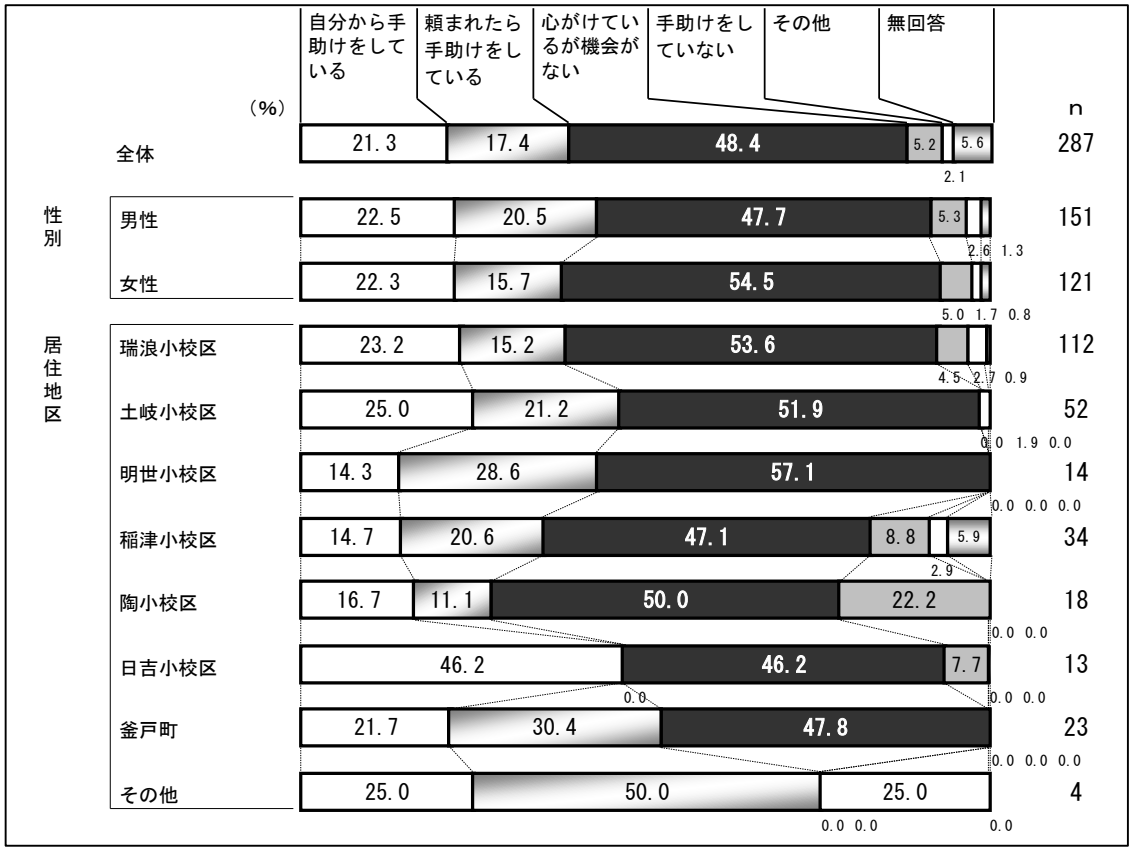
▼

● 「心がけているが機会がない」が５割弱を占める。

困っている人を見かけた時に手助けをしているかどうかたずねたところ、「心がけているが機会がない」（48.4%）が最も多く、以下、「自分から手助けをしている」（21.3%）、「頼まれたら手助けをしている」（17.4%）、「手助けをしていない」（5.2%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「心がけているが機会がない」が最も多くなっている。（居住地区別のその他では「頼まれたら手助けをしている」が最も多い）

図表　困っている人を見かけた時に手助けをしているか



（９）手助けをしていない理由

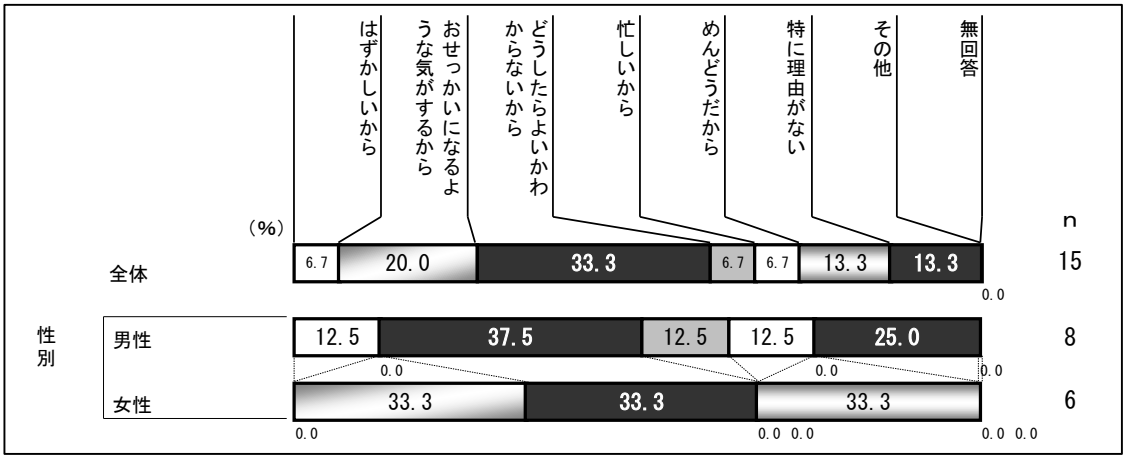
【問９で「４．手助けをしていない」と答えた方のみ】
問 9-1　「手助けをしていない」理由は何ですか。

▼

● 「どうしたらよいかわからないから」が３割強を占める。

問９で「４．手助けをしていない」と答えた方（15 名・全体の 5.2%）に、その理由をたずねたところ、「どうしたらよいかわからないから」（33.3%）が最も多く、以下、「おせっかいになるような気がするから」（20.0%）、「はずかしいから」・「忙しいから」・「めんどうだから」（同率 6.7%）となっている。なお、「特に理由がない」は 13.3%となっている。

図表　手助けをしていない理由



(10) まちなかで心がけていること

問 10　あなは、まちなかでつぎのようなことに心がけていますか。【複数回答】

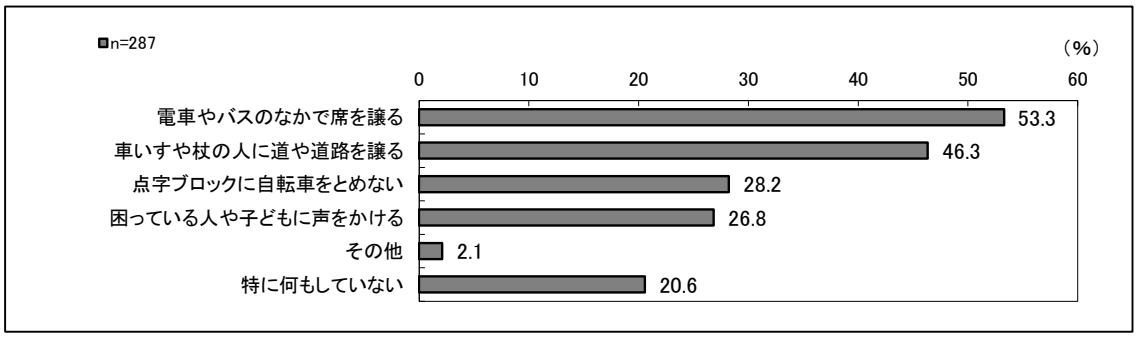
▼

●　「電車やバスのなかで席を譲る」が第１位、「車いすや杖の人に道や道路を譲る」、「点字ブロックに自転車をとめない」が続く。

まちなかで心がけていることについては、「電車やバスのなかで席を譲る」（53.3%）が第１位、次いで、「車いすや杖の人に道や道路を譲る」（46.3%）、「点字ブロックに自転車をとめない」（28.2%）、「困っている人や子どもに声をかける」（26.8%）となっている。なお、「特に何もしていない」は 20.6%となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「電車やバスのなかで席を譲る」が第１位となっている。（瑞浪小校区では「車いすや杖の人に道や道路を譲る」が第１位）

図表　まちなかで心がけていること（全体／複数回答）



図表　まちなかで心がけていること（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		電車やバスのなかで席を譲る 53.3	車いすや杖の人に道や道路を譲る 46.3	点字ブロックに自転車をとめない 28.2
性別	男性	電車やバスのなかで席を譲る 53.6	車いすや杖の人に道や道路を譲る 44.4	困っている人や子どもに声をかける 25.8
	女性	電車やバスのなかで席を譲る 59.5	車いすや杖の人に道や道路を譲る 53.7	点字ブロックに自転車をとめない 35.5
居住地区	瑞浪小校区	車いすや杖の人に道や道路を譲る 50.9	電車やバスのなかで席を譲る 50.0	困っている人や子どもに声をかける 31.3
	土岐小校区	電車やバスのなかで席を譲る 73.1	車いすや杖の人に道や道路を譲る 67.3	点字ブロックに自転車をとめない 36.5
	明世小校区	電車やバスのなかで席を譲る 42.9	点字ブロックに自転車をとめない／車いすや杖の人に道や道路を譲る 35.7	
	稲津小校区	電車やバスのなかで席を譲る 44.1	点字ブロックに自転車をとめない 32.4	車いすや杖の人に道や道路を譲る 29.4
	陶小校区	電車やバスのなかで席を譲る 50.0	車いすや杖の人に道や道路を譲る 38.9	点字ブロックに自転車をとめない 22.2
	日吉小校区	電車やバスのなかで席を譲る 69.2	車いすや杖の人に道や道路を譲る 30.8	点字ブロックに自転車をとめない 23.1
	釜戸町	電車やバスのなかで席を譲る 73.9	車いすや杖の人に道や道路を譲る 56.5	点字ブロックに自転車をとめない 43.5
	その他	電車やバスのなかで席を譲る 75.0	車いすや杖の人に道や道路を譲る／困っている人や子どもに声をかける 50.0	

(11) 瑞浪市は大人になっても住み続けたいまちか

問 11　瑞浪市は、あなたにとって大人になっても住み続けたいまちですか。

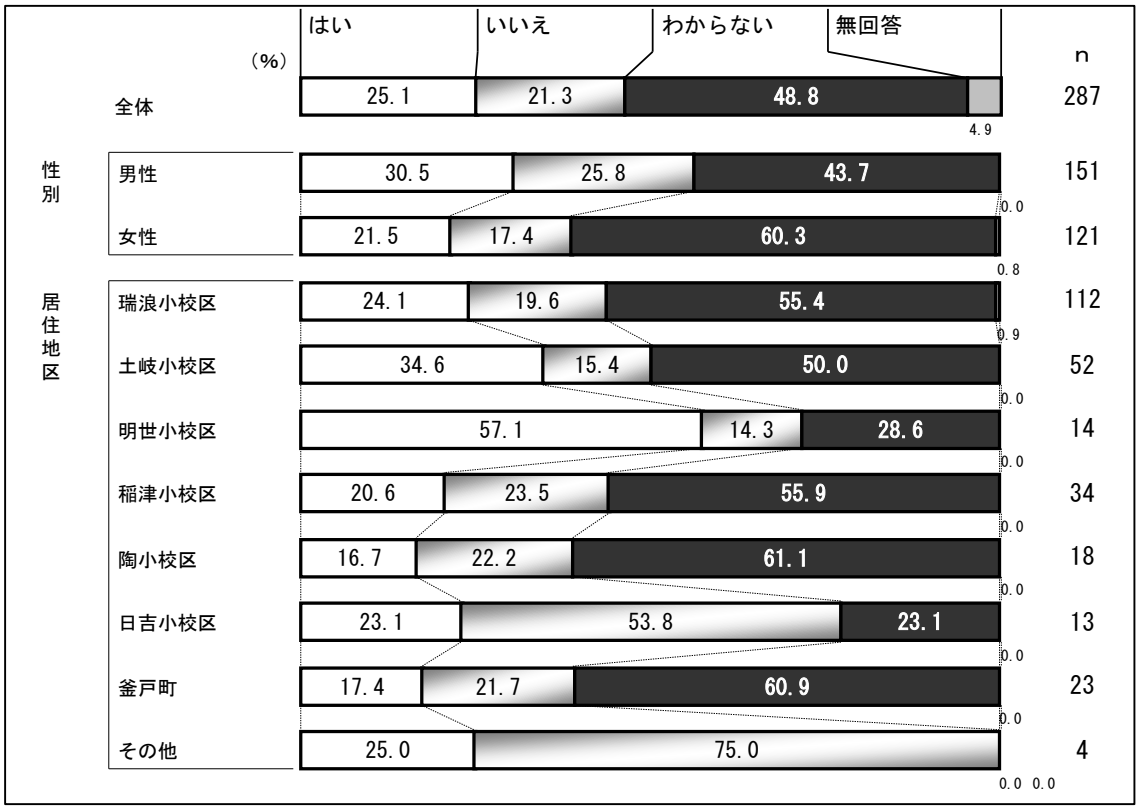
▼

● 「はい」が２割台半ばを占める。

瑞浪市は大人になっても住み続けたいまちかどうか、たずねたところ、「はい」が 25.1%、一方、「いいえ」が 21.3%となっている。なお、「わからない」は 48.8%となっている。

属性別で「はい」の率をみると、居住地区別の明世小校区では半数を超える。

図表　瑞浪市は大人になっても住み続けたいまちか



(12) 住み続けたい市にするために整備すべきこと

問 12　瑞浪市に住み続けたいと思えるようにするためには、どんなことが整備されるとよいと思いますか。【複数回答】

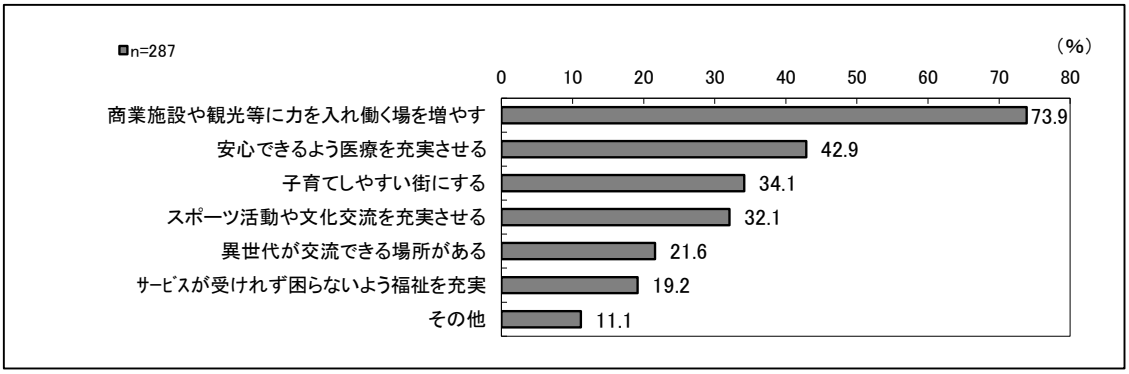
▼

● 「商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす」が他を引き離して第１位。

住み続けたい市にするために整備すべきことについては、「商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす」（73.9%）が第１位、次いで、「安心できるよう医療を充実させる」（42.9%）、「子育てしやすい街にする」（34.1%）、「スポーツ活動や文化交流を充実させる」（32.1%）、「異世代が交流できる場所がある」（21.6%）、「サービスが受けれず困らないよう福祉を充実」（19.2%）となっている。

属性別でみても、すべての層で「商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす」が第１位となっている。

図表　住み続けたい市にするために整備すべきこと（全体／複数回答）



図表　住み続けたい市にするために整備すべきこと（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 73.9	安心できるよう医療を充実させる 42.9	子育てしやすい街にする 34.1
性別	男性	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 76.8	安心できるよう医療を充実させる 43.0	スポーツ活動や文化交流を充実させる 40.4
	女性	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 77.7	安心できるよう医療を充実させる 47.1	子育てしやすい街にする 33.9
居住地区	瑞浪小校区	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 73.2	安心できるよう医療を充実させる 41.1	子育てしやすい街にする 40.2
	土岐小校区	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 76.9	スポーツ活動や文化交流を充実させる 51.9	安心できるよう医療を充実させる 42.3
	明世小校区	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 57.1	安心できるよう医療を充実させる／スポーツ活動や文化交流を充実させる／異世代が交流できる場所がある 35.7	
	稲津小校区	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 85.3	安心できるよう医療を充実させる 64.7	スポーツ活動や文化交流を充実させる 32.4
	陶小校区	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 88.9	安心できるよう医療を充実させる 55.6	子育てしやすい街にする 44.4
	日吉小校区	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 100.0	ｻｰﾋﾞｽが受けれず困らないよう福祉を充実／スポーツ活動や文化交流を充実させる 38.5	
	釜戸町	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 82.6	子育てしやすい街にする 60.9	安心できるよう医療を充実させる 52.2
	その他	商業施設や観光等に力を入れ働く場を増やす 75.0	子育てしやすい街にする／スポーツ活動や文化交流を充実させる 50.0	

(13) 住みよいまちにするためにあるといい活動

問 13　今後、住みよいまちにするために、どのような活動があるといいと思いますか。
【複数回答】

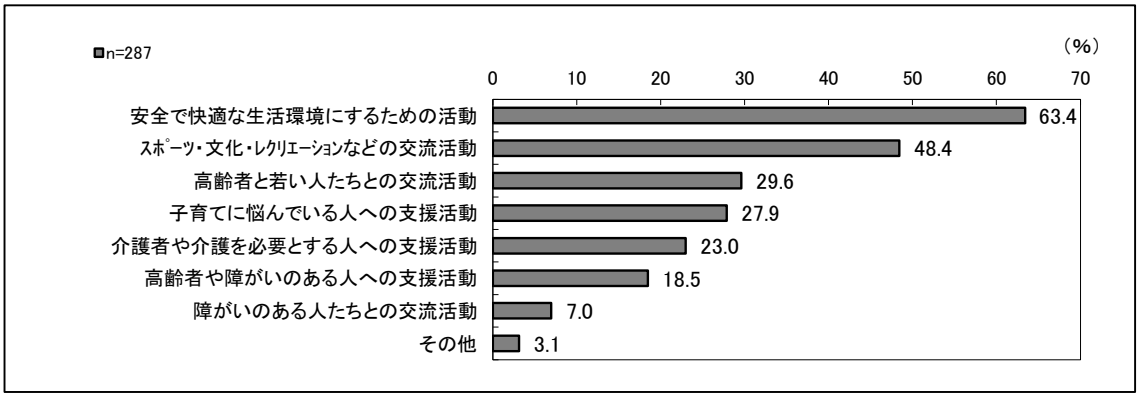
▼

● 「安全で快適な生活環境にするための活動」が他を引き離して第１位。

住みよいまちにするためにあるといい活動については、「安全で快適な生活環境にするための活動」（63.4%）が第１位、次いで、「スポーツ・文化・レクリエーションなどの交流活動」（48.4%）「高齢者と若い人たちとの交流活動」（29.6%）、「子育てに悩んでいる人への支援活動」（27.9%）、「介護者や介護を必要とする人への支援活動」（23.0%）、「高齢者や障がいのある人への支援活動」（18.5%）、「障がいのある人たちとの交流活動」（7.0%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「安全で快適な生活環境にするための活動」、「スポーツ・文化・レクリエーションなどの交流活動」が上位２位までの項目となっているが、居住地区別の釜戸町では「子育てに悩んでいる人への支援活動」が第２位となっている。

図表　住みよいまちにするためにあるといい活動（全体／複数回答）



図表　住みよいまちにするためにあるといい活動（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		安全で快適な生活環境にするための活動 63.4	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 48.4	高齢者と若い人たちとの交流活動 29.6
性別	男性	安全で快適な生活環境にするための活動 67.5	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 53.6	高齢者と若い人たちとの交流活動 35.1
	女性	安全で快適な生活環境にするための活動 66.1	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 47.1	子育てに悩んでいる人への支援活動 35.5
居住地区	瑞浪小校区	安全で快適な生活環境にするための活動 71.4	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 48.2	子育てに悩んでいる人への支援活動 32.1
	土岐小校区	安全で快適な生活環境にするための活動 71.2	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 46.2	高齢者と若い人たちとの交流活動／高齢者や障がいのある人への支援活動 36.5
	明世小校区	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 78.6	安全で快適な生活環境にするための活動 50.0	高齢者と若い人たちとの交流活動 35.7
	稲津小校区	安全で快適な生活環境にするための活動 58.8	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 55.9	高齢者と若い人たちとの交流活動 41.2
	陶小校区	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動／安全で快適な生活環境にするための活動 44.4		高齢者と若い人たちとの交流活動 38.9
	日吉小校区	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 69.2	安全で快適な生活環境にするための活動 61.5	高齢者と若い人たちとの交流活動 23.1
	釜戸町	安全で快適な生活環境にするための活動 73.9	子育てに悩んでいる人への支援活動 56.5	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動 52.2
	その他	ｽﾎﾟｰﾂ・文化・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝなどの交流活動／安全で快適な生活環境にするための活動 50.0		高齢者と若い人たちとの交流活動／障がいのある人たちとの交流活動／子育てに悩んでいる人への支援活動 25.0

４　災害時における助け合いについて

（１）地域における災害の備えとして重要な事

問 14　南海トラフ大地震等の大きな災害が起きた場合には、地域の助け合いが、非常に重要です。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どんなことが重要だと思いますか。【複数回答】

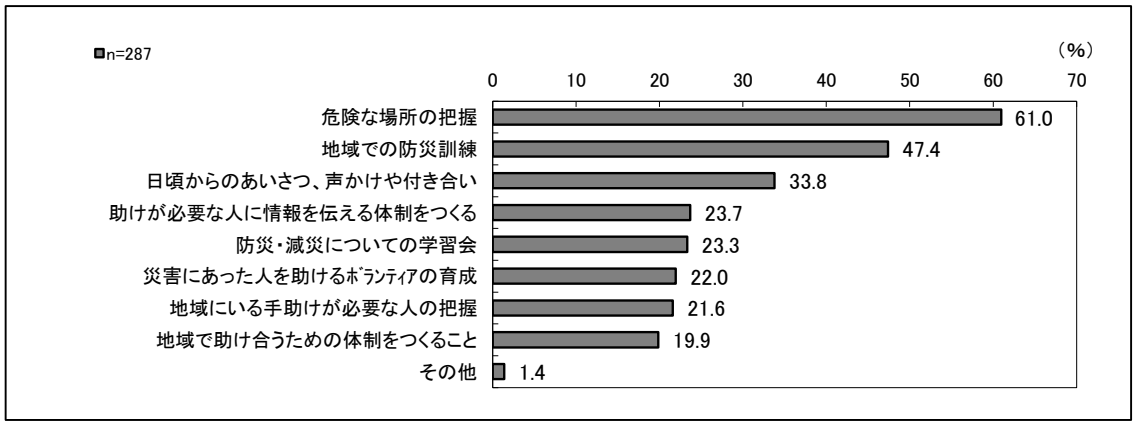
▼

● 「危険な場所の把握」が他を引き離して第１位。

災害時における助け合いについては、「危険な場所の把握」（61.0%）が第１位、次いで、「地域での防災訓練」（47.4%）、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」（33.8%）、「助けが必要な人に情報を伝える体制をつくる」（23.7%）、「防災・減災についての学習会」（23.3%）、「災害にあった人を助けるボランティアの育成」（22.0%）、「地域にいる手助けが必要な人の把握」（21.6%）、「地域で助け合うための体制をつくること」（19.9%）となっている。

属性別でみても、ほとんどの層で「危険な場所の把握」が第１位となっている。（居住地区別の日吉町、その他では「地域での防災訓練」が第１位）

図表　地域における災害の備えとして重要な事（全体／複数回答）



図表　地域における災害の備えとして重要な事（全体、属性別／複数回答）

（上位３位、単位：%）

		第１位	第２位	第３位
全体		危険な場所の把握 61.0	地域での防災訓練 47.4	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い 33.8
性別	男性	危険な場所の把握 61.6	地域での防災訓練 48.3	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い 31.8
	女性	危険な場所の把握 66.1	地域での防災訓練 52.1	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い 40.5
居住地区	瑞浪小校区	危険な場所の把握 65.2	地域での防災訓練 48.2	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い 35.7
	土岐小校区	危険な場所の把握 63.5	地域での防災訓練 46.2	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い 44.2
	明世小校区	危険な場所の把握 57.1	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い／地域での防災訓練 42.9	
	稲津小校区	危険な場所の把握 67.6	地域での防災訓練 50.0	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い／助けが必要な人に情報を伝える体制をつくる／災害にあった人を助けるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの育成 29.4
	陶小校区	危険な場所の把握 61.1	地域での防災訓練／災害にあった人を助けるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの育成 44.4	
	日吉小校区	地域での防災訓練 69.2	日頃からのあいさつ、声かけや付き合い／危険な場所の把握 38.5	
	釜戸町	危険な場所の把握 69.6	地域での防災訓練 60.9	防災・減災についての学習会 47.8
	その他	地域での防災訓練 75.0	危険な場所の把握 50.0	防災・減災についての学習会／日頃からのあいさつ、声かけや付き合い／地域にいる手助けが必要な人の把握／助けが必要な人に情報を伝える体制をつくる／災害にあった人を助けるﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの育成 25.0

５　自由意見

問 15　今後、住みよいまちづくりを進めていくための意見や要望がありましたら、枠の中に、自由に記入してください。

※別紙参照